

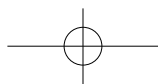
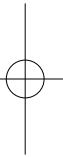
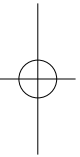
こ いた い や し き い せ き
小 板 井 屋 敷 遺 跡 5

福岡県小郡市小板井所在遺跡の調査報告

小郡市文化財調査報告書 第278集

2014

小郡市教育委員会



序文

小郡市では、北部の宅地開発や北東部、中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、これに伴う交通網の整備、さらなる宅地開発なども進行しており、今なお発展を続けております。

小板井地区は平成19年度に市街化区域に編入され、近年宅地・商業施設の開発がめざましく進展している地域の一つであります。それに伴って発掘調査が集中し、小郡市の歴史を探るための様々な資料が発見されています。

ここに報告する「小板井屋敷遺跡5」は、小郡市教育委員会が平成23・24年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果です。弥生時代から近世にわたる多くの遺構・遺物が確認されました。残念ながら、開発のため遺跡は消失することとなりましたが、今回の調査成果が、歴史資料として活用されるとともに、さらなる文化財保護への理解の向上に役立つことを願っております。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたっては地権者の吉田健次氏、三栄ホーム株式会社、調査にご理解とご協力いただいた小板井区の皆様、現地で発掘調査にあたった皆様、発掘調査を進めていくうえでお世話になった方々に深く感謝を申し上げます。今後とも小郡市の文化財保護行政に対するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成26年3月31日

小郡市教育委員会
教育長 清武 輝

凡例

1. 本書は、小郡市小板井に所在する「周知の埋蔵文化財包蔵地 小板井屋敷遺跡」において、共同住宅及び宅地開発に伴い、小郡市教育委員会が受託契約によって発掘調査を行った小板井屋敷遺跡5の調査報告書である。
2. 小板井屋敷遺跡5は小郡市小板井字屋敷に所在する。
3. 本調査は姫野久恵（A・C区）、西江幸子（B区）、坂井貴志（D区）が担当した。
4. 本書に掲載した遺構の実測は、調査担当者及び調査参加者が行い、製図は姫野・宮崎美穂子が行った。
5. 遺構の個別写真の撮影は調査担当者が行い、全景写真は、有限会社空中写真企画に委託した。遺物の写真撮影は有限会社文化財写真工房に委託した。
6. 本書に掲載している遺物の洗浄・復元は、衛藤千嘉子・佐々木智子・永倉さゆみ・平嶋直美・南條由美の協力を得た。遺物実測・製図は今村杏奈（A・B・D区）・久住愛子（石器・土製品・金属製品）・白木千里（C区、B区の溝・小児棺）が行った。
7. 本書で使用する遺構に略語として冠した記号は以下を用いている。
ST：甕棺墓 SF：祭祀土坑 SC：住居跡 SB：掘立柱建物跡 SK：土坑 SV：周溝状遺構 SD：溝
P：ピット
8. 図版中の遺物に付されている番号は、本文中の挿図番号に対応する。
9. 本書で使用した座標は世界測地系に拠っており、遺構図中の方位は座標北を示す。
10. 本書に掲載した遺構実測図・遺物実測図・写真は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管している。
11. 本書の執筆・編集は姫野が行った。

本文目次

第1章 はじめに	1	第5章 B区の遺構と遺物	15
1 調査に至る経緯		1 甕棺墓	
2 調査の経過		2 祭祀土坑	
3 調査体制		3 掘立柱建物跡	
第2章 位置と環境	2	4 土坑	
第3章 調査内容	3	5 溝	
1 調査概要		6 ピット・その他	
2 報告に際して		第6章 C区の遺構と遺物	33
(1) 住居跡		1 住居	
(2) 祭祀土坑		2 掘立柱建物	
(3) 土坑		3 土坑	
(4) 井戸		4 周溝状遺構	
(5) 溝		5 溝・溝状遺構	
第4章 A区の遺構と遺物	4	6 ピット・その他	
1 住居跡		第7章 D区の遺構と遺物	57
2 掘立柱建物跡		1 井戸	
3 土坑		2 土坑	
4 溝		3 溝・溝状遺構	
5 ピット・その他		4 ピット・その他	
		第8章 調査の成果	66
		1 まとめ	

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2	第27図 B区5・6・8・9号土坑遺構実測図 (1/40)	27
第2図 調査位置図 (1/5,000)	3	第28図 B区11～13号土坑遺構実測図 (1/40)	28
第3図 A区1号住居跡遺構実測図 (1/60)	6	第29図 B区2～6・9・12号土坑出土遺物実測図 (1/4)	29
第4図 A区2号住居跡遺構実測図 (1/60)	7	(1/4)……………	29
第5図 A区1・2号住居跡出土遺物実測図 (1/4)	7	第30図 B区1～5・7号溝遺構実測図 (1/40)	31
第6図 A区3・5号住居跡遺構実測図 (1/60)	8	第31図 B区溝、ピット出土遺物実測図 (1/4)	32
第7図 A区6・9・7号住居跡遺構実測図 (6,9は1/60、7は1/40)	9	第32図 B区土坑、溝、ピット出土石製品・土製品・金属製品実測図 (1/2)	32
第8図 A区11～13号住居跡 (1/40)、1号掘立柱建物跡遺構実測図 (1/60)	10	第33図 C区2～5号住居跡遺構実測図 (2,4は1/60、3,5は1/40)	36
第9図 A区1～3号土坑遺構実測図 (1/40)	11	第34図 C区6～8号住居跡遺構実測図 (6は1/80、7,8は1/60)	37
第10図 A区1～3号溝遺構実測図 (1/40)	12	第35図 C区9・10号住居跡遺構実測図 (1/60)	38
第11図 A区5～7・9・12号住居跡、1号掘立柱建物跡、1・2号溝出土遺物実測図 (1/4)	13	第36図 C区11・12号住居跡遺構実測図 (1/60)	39
第12図 A区出土石製品実測図 (1/3[1,3]、他1/2)	13	第37図 C区14～17・20号住居跡遺構実測図 (1/60)	40
第13図 A区出土土製品・金属製品実測図 (1/2)	14	第38図 C区2～6・8・11・20号住居跡出土遺物実測図 (1/4、1/6[9,11])	41
第14図 B区1号甕棺墓、1号祭祀土坑遺構実測図 (STO1は1/20、SF01は1/30)	16	第39図 C区9・12号住居跡出土遺物実測図① (1/4、1/6[13,14])	42
第15図 B区1号甕棺実測図 (1/6)	16	第40図 C区12号住居跡出土遺物実測図② (1/4)	43
第16図 B区1号祭祀土坑出土遺物実測図① (1/6)	17	第41図 C区12号住居跡出土遺物実測図③ (1/4)	44
第17図 B区1号祭祀土坑出土遺物実測図② (1/4)	18	第42図 C区住居跡出土石製品、土製品実測図 (1/2)	45
第18図 B区2号祭祀土坑出土遺物実測図 (1/30)	19	第43図 C区1～4号土坑遺構実測図 (1/40)	48
第19図 B区2号祭祀土坑出土遺物実測図① (1/4)	20	第44図 C区5・7～10号土坑遺構実測図 (1/40)	49
第20図 B区2号祭祀土坑出土遺物実測図② (1/4)	21	第45図 C区11～14号土坑遺構実測図 (11は1/40、他は1/60)	50
第21図 B区1号祭祀土坑出土石製品実測図 (2/3[1,2]、1/2[3])	21	第46図 C区16・17・19～21号土坑遺構実測図 (1/40)	51
第22図 B区3～5号祭祀土坑遺構実測図 (1/30)	22	第47図 C区土坑出土遺物実測図 (1/4、1/2[30,31])	52
第23図 B区3・4号祭祀土坑出土遺物実測図 (1/4)	23	第48図 C区1号周溝状遺構、溝遺構実測図 (1/40)	55
第24図 B区5号祭祀土坑出土遺物実測図 (1/6[1]、他1/4)	24	第49図 C区1号周溝状遺構、1～13号溝、ピット出土遺物実測図 (1/4)	56
第25図 B区3・4号祭祀土坑出土石製品実測図 (1/2[1]、他2/3)	24	第50図 C区ピット出土石製品、土製品実測図 (1/2)	56
第26図 B区2～4号土坑遺構実測図 (1/40)	26		

第51図	D区1～5号井戸遺構実測図(1/60)	59	第56図	D区1～3号溝遺構実測図(1,2は1/60、3は1/40)	64
第52図	D区1～10号土坑遺構実測図(7,9,10は1/60、他は1/80)	60	第57図	D区1～6号溝出土遺物実測図(1/4)	64
第53図	D区1～5号井戸、2号土坑出土遺物実測図(1/4)	61	第58図	D区溝出土石製品、土製品、金属製品実測図(1/2、1/3[1])	65
第54図	D区1・3・4・6～8号土坑出土遺物実測図(1/4)	62	第59図	D区ピット出土遺物実測図(1/4)	65
第55図	D区井戸、土坑出土石製品、土製品、金属製品実測図(1/2、1/4[1,2])	62			

写真・図版

図版1	①小板井屋敷遺跡5全景(真上から)	図版3	①C区SC03完掘(南から)
	②A区全景(真上から)		②C区SC05貼床面(北から)
	③B区全景(真上から)		③C区SC05貼床面(北から)
	④C区全景(真上から)		④C区SC08完掘(南から)
	⑤D区全景(真上から)		⑤C区SC12土器出土状況(東から)
	⑥調査区遠景(北から)[1次調査地・遺跡南端をのぞむ]		⑥C区SC12完掘(東から)
	⑦調査区遠景(東から)[遺跡南西端及び周辺遺跡をのぞむ]		⑦C区SC17完掘(南東から)
図版2	①A区SC01貼床面(東から)		⑧C区SC20貼床面(南から)
	②A区SC01完掘(東から)		⑨C区SK04遺物出土状況(東から)
	③A区SC02貼床面(東から)		⑩C区SK11完掘(北から)
	④A区SC05完掘(北から)		⑪C区SK16完掘(北から)
	⑤A区SC07貼床面(東から)		⑫C区SK17完掘(南から)
	⑥B区ST01出土状況(西から)		⑬C区SD01土層(東から)
	⑦B区SF01出土状況(西から)		⑭D区SE01完掘(南から)
	⑧B区SF02出土状況(西から)		⑮D区SE02完掘(南から)
	⑨B区SF05出土状況(北から)		⑯D区SK02完掘(北東から)
	⑩B区SD01b区ベルト土層(東から)		⑰D区SD01土層(南から)
	⑪B区SD02西壁土層(東から)		⑱D区SD02土層(南から)
	⑫A区SC02完掘(南西から)	図版4	遺物写真1
	⑬A区SC06完掘(西から)	図版5	遺物写真2
	⑭B区SF03遺物出土状況(南から)	図版6	遺物写真3
	⑮B区SF04・SK08完掘(東から)	図版7	遺物写真4
		図版8	遺物写真5

表目次

小板井屋敷遺跡5出土遺物観察表	
・A区出土土器観察表	67
・B区出土土器観察表	67
・C区出土土器観察表	69
・D区出土土器観察表	72
・出土石製品観察表	74
・出土石製品観察表	75
・出土石製品観察表	75

付図 小板井屋敷遺跡5全体図(1/200)

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

小坂井屋敷遺跡5の調査は、平成21年7月29日付で地権者の吉田健次氏より、小郡市教育委員会に対して、小郡市小坂井字屋敷64-1、65-4、86-2、86-3、86-4において、共同住宅の建設及び市道の新設工事に伴い、予定地内の埋蔵文化財の有無について照会・事前審査願いが届出されたことを端緒とする（審査番号9028）。それを受け、平成21年9月8日に試掘調査を実施し申請地内に遺跡が確認された。この成果をもとに地権者と協議を行った。その結果、建物基礎部分が遺構面まで達する上、建物の構造上、設計変更もできないことから、やむを得ず遺跡が破壊される部分について発掘調査を行い、記録保存を測ることとなった。

2. 調査の経過

平成24年1月6日に3ヶ年度（平成23・24年度調査、25年度整理作業及び調査報告書作成）にわたる埋蔵文化財発掘調査の委託契約を締結し、これを受け同年1月12日～5月18日まで現地調査を実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

1/10 座標及びレベル移動 1/12～1/18 B→A→C区の順で表土剥ぎ 1/18 発掘作業員による人力での掘削及び検出作業開始（C区より）1/26 C区SD02完掘 2/16 C区SD01完掘 2/24 C区SV01完掘 3/1～3/6 雨天により作業が中断 3/7 西江調査に合流（B区担当）及び発掘作業員の増員 3/9 A区作業開始、労災事故が発生、危機管理を徹底し安全に努める 3/27 B区作業終了、作業終了に伴い西江離脱 4/6 A、B、C区バルーンによる全体撮影 4/9 坂井合流（D区担当）、D区表土剥ぎ開始、プレハブ・トイレの移動 4/10 B区、D区の表土剥ぎと併せて埋戻しを開始 4/11 D区表土剥ぎ一部を残して終了 4/18 D区の残りの表土剥ぎ開始、C区西より埋戻し開始 4/20 埋戻し終了 5/8 A区全体図測量 5/10 バルーンによるA区、D区の全体写真撮影 5/11 A区調査終了 5/15 D区調査終了 5/16～5/18 埋戻し、小坂井屋敷遺跡5の引き渡し、調査のすべてを完了する

3. 調査体制

小郡市教育委員会	教育長	清武 輝
	教育部長	吉浦 大志博（～平成25年3月31日） 佐藤 秀行（平成25年4月1日～）
	課長	片岡 宏二
	係長	柏原 孝俊
	技師	西江 幸子（B区調査・整理担当）
	嘱託	坂井 貴志（D区調査担当） 姫野 久恵（調査、整理、編集担当）

発掘従事者

阿南翔悟、荒巻国利、石井京子、伊東みさ子、今村祐介、小川高征、草場誠子、黒瀬 明、小室野永利、佐藤照子、城島和正、朱雀聡一郎、田中賢二、田中正登、土井久江、西島勝徳、松永康弘、宮崎隆明、森下弥寿治 以上（敬称略）

第2章 位置と環境

小坂井屋敷遺跡5は小郡市の中央を南北に貫流する宝満川の西岸に位置し、市北部の丘陵地から、なだらかに続く低台地の縁辺部に所在する。また、当遺跡西側には埋没谷を挟んで小坂井蓮輪遺跡(2)が存在する。現況面での標高は12.60～12.75m前後である。遺跡の北から東側には段丘崖が残っており、築地川を望む立地である。（第1・2図）。

小坂井屋敷遺跡(1)は、平成9年に1次調査を実施。それ以降計4回の調査が実施されている。1次調査（市報告139集）は本調査地南西に位置し、弥生時代中期後半、後期後半～古墳時代初頭の集落跡が、2次調査（市報告253集）では、飛鳥・奈良時代の集落跡や、鎌倉～室町時代、江戸時代の溝が検出されている。3次調査（市報告264集）は、2次調査の南側に位置し中近世の大溝

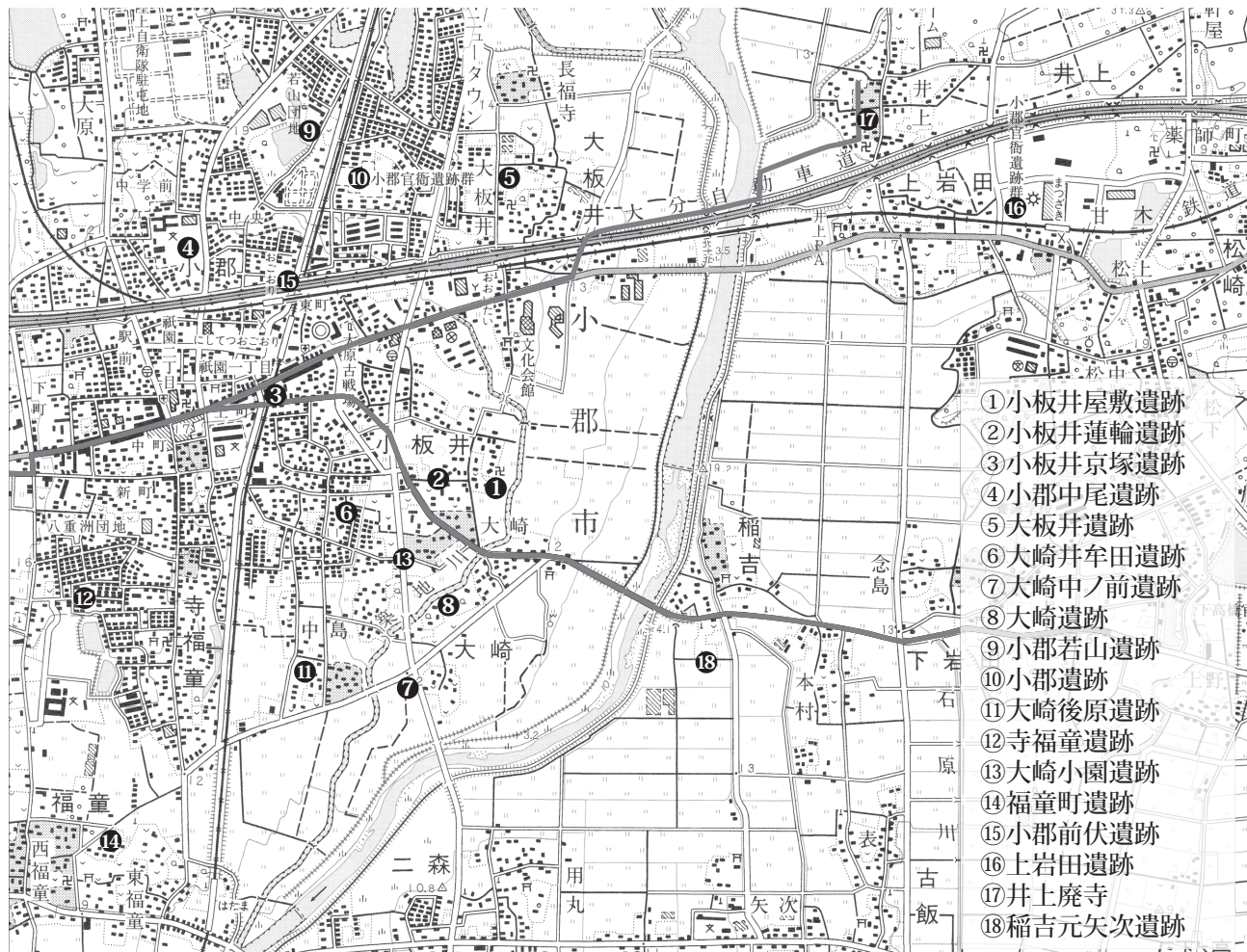
を検出した。4次調査（市報告269集）は遺跡北端に位置し、古墳時代前期、後期の土坑や住居が確認されている。また、5次調査後、平成25年4～8月に6～8次調査が相次いで隣接地において行われており、狭域な調査区ではあるが5次調査と同時期の遺構が確認されている。

以下、当遺跡周辺に分布する遺跡を中心に歴史的環境を時期毎に概観していく。

旧石器時代・縄文時代の遺跡は希薄ではあるが、小坂井京塚遺跡（③）において剥片尖頭器が確認されている。また、小郡中尾遺跡（④）、大板井遺跡（⑤）、大崎井牟田遺跡（⑥）などで押型文土器が確認され、特に大崎井牟田遺跡においては石組炉に伴う出土として注目される。

弥生時代になると人々の活動が活発化する。特に小郡・大板井地域は中核集落として前期～後期に至るまで展開する。まず前期中葉から、大板井遺跡（⑤）において貯蔵穴が多数認められ住居跡も確認されている。中期前半になると同遺跡の集落の規模が飛躍的に増大し、甕棺墓などの墓域も形成される。そのほかの中期～後期の遺跡として大崎中ノ前遺跡（⑦）、大崎遺跡（⑧）、小郡若山遺跡（⑨）、小郡遺跡（⑩）、大崎後原遺跡1・2（⑪）、小坂井屋敷（①）、寺福童遺跡（⑫）、大崎小園遺跡（⑬）など多くの集落が確認されている。そのなかでも大崎中ノ前遺跡2（中期前半～後期初頭の集落跡）では、土坑より赤・黒漆塗り木製品や鋏など木製品が多数出土しており、注目される遺跡であろう。小坂井屋敷遺跡1では、中期中頃の土坑が確認されている。寺福童遺跡5では弥生時代から古墳時代まで続く墓域が確認された。

古墳時代初頭から前期の遺跡として、大崎小園遺跡、小坂井屋敷遺跡、大崎中ノ前遺跡、福童町遺跡（⑭）などが挙げられる。大崎小園遺跡1・3では庄内式系・布留式系土器といった畿内系の土器を伴った住居跡が検出され、他の地域との交流が想定される。だが、一方では福童町遺跡1のように在地系の土器しか出土しない集落もある。当該期の周辺の墓域として、寺福童遺跡1があり、方形周溝墓が確認されている。中期では、小郡市では小規模散在型の集落形態を成し、古墳時代後期になると集落の数が大幅に増加する。宝満川下流西岸の集落は、沖積地を望む丘陵縁辺部の開析された台地を中心として6世紀以降継続的に営まれ、東岸部と同様に7世紀初頭前後を画期として中位段丘から



第1図 周辺遺跡分布図（1/25,000）

低位段丘上に集落域を拡大、新たな集落を展開している。

古代では、当遺跡より約1 km北に御原郡衙に比定される小郡官衙遺跡(⑩)がある。コ字型に配された郡庁跡や正倉とみられる倉庫群など機能的に整然と配置し、郡衙の構造を知る上で欠く事のできない重要な遺跡といえる。関連して、小郡前伏遺跡(⑮)では郡庁に至る道路状遺構が、大板井遺跡では4×5間の総柱建物跡が3棟検出されている。上岩田遺跡(⑯)では、大型の掘立柱建物跡が多数とその中心的な建物が基壇遺構上に確認され、その周辺からは山田寺系極先瓦や鬼板瓦が出土することから近接して位置する7世紀末から8世紀初頭に築造された井上廃寺(⑰)に先行する寺院と見られている。

中世では、宝満川の自然堤防上に立地し、方形溝で区画された集落がある稲吉元矢次遺跡(⑱)が知られている。龍泉窯や同安窯の青磁類が多数出土している。また、当遺跡に近接する小板井屋敷遺跡1からも龍泉窯系青磁が井戸から出土し、当遺跡を含めた小板井地区に中世期の集落が広範囲に広がっていることが予想される。

近世では、久留米から山家までの横隈街道(旧筑前街道)や、肥前田代方面から小郡・大板井・井上を經由して英彦山への参詣道として利用された彦山道など、大道(街道)や横道(小道)が小板井地区周辺においても整備されている。当該地域周辺においても、近世代の遺物や遺構が確認されていることから当時の賑わいが想像できよう。

このように当遺跡周辺は文化財の宝庫であり、当地域もその一つと数えられるものである。

第3章 調査の内容

1. 調査の概要

遺跡は現地表高 12.60～12.75 m前後、遺構検出面で 12.00～11.90 m前後を測る。東に向かい低くなっている。

基本層所は上層が耕作土層(約20cm前後の堆積)、暗灰黄褐色・暗灰茶褐色層で弥生～中近世まで多くの遺物を含む土層、その下で暗茶褐色・黄褐色の地山土、遺構面となる。遺構検出面までの深さは60～90cm前後を測る。

調査区はA区、B区、C区を先に調査し、倉庫撤去後、B・C区の埋戻しと併せて、D区の表土剥ぎを行った。

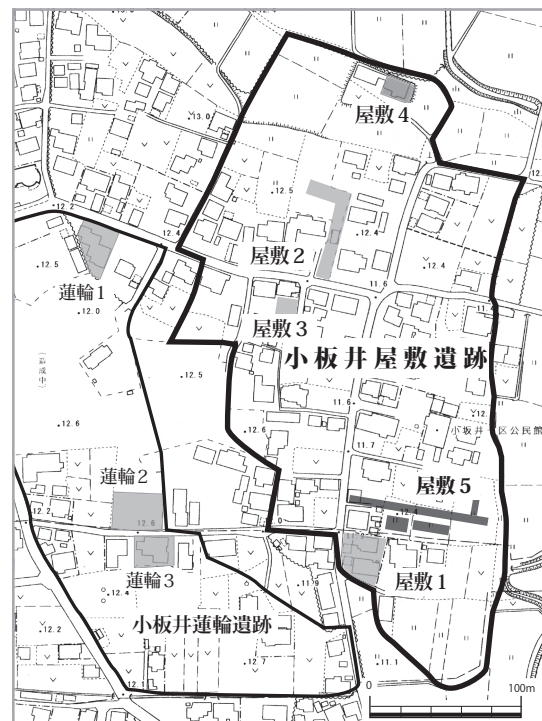
検出した遺構については各章で報告する。

2. 報告に際して

(1) 住居跡(SC)

検出して住居跡とした遺構は総数29軒を数える。A区とC区で検出した。住居形態は各種あり、時期も弥生・時代中期～後期に及ぶ。以下では、表形式で説明を行うが、留意点は次のとおりである。

- ① 『貼床の有無』は、貼床と考えられる硬化する面である。
- ② 『長軸』・『短軸』の計測値は個々の最大値で、単位はm。「(数値)」は残存状況での数値である。
- ③ 『深さ』は検出面から貼床面までの深さである。「(数値)」は、検出面から、完掘面の深さである。また深さの左側の数値は、「検出面から貼床面」までの深さで、右側は「貼床面から完掘」までの深さである。単位はm。
- ④ 『支柱穴』は支柱穴と考えられる柱穴の数。
- ⑤ 『火床施設』は住居内の火床施設でカマド及び炉跡等である。
- ⑥ 『長軸方位』は長軸が北から東西方向に何度傾いているかを示している。
- ⑦ 『先』はその遺構に切り合い関係上先行する遺構で、『後』は同じく後出する遺構である。
- ⑧ 『出土遺物』のうち『土器』は、遺構における出土層位、位置を主に記載した。出土層位、位置は、覆土中、床下層、カマド及び炉跡等に分かれている。『その他の遺物』は、石器、金属器、



第2図 調査地位置図(1/5000)

- 土製品等の出土点数と出土層位、位置を記載した。特に触れていないものは覆土中の出土である。これら『出土遺物』についての法量等の詳細は出土遺物観察表（p.67～p.75）を参照願いたい。
- ⑨ 住居跡の遺構実測は各区ごとに掲載。出土遺物実測図についても同じである。

(2) 祭祀土坑 (SF)

検出し、祭祀土坑とした遺構は5基を数える。またB区のみで確認された。上記の遺構同様、表形式で説明を行う。留意点は以下のとおりである。

- ① 『長軸』・『短軸』・『深さ』の計測値は個々の最大値で、単位はm。また、「(数値)」は残存状況での数値である
- ② 『長軸方位』は長軸が北から東西方向に何度傾いているかを示している。
- ③ 『先』はその遺構に切り合い関係上先行する遺構で、『後』は同じく後出する遺構である。
- ④ 『出土遺物』のうち『土器』は、遺構における出土層位、位置を主に記載した。出土層位、位置は、覆土中（上層・下層）等に分けている。『その他の遺物』は石製品、金属器、土製品等の出土点数と出土部位を記載した。特に触れないものは覆土中の出土である。これら『出土遺物』についての法量等の詳細は出土遺物観察表（p.67～p.69）を参照願いたい。
- ⑤ 祭祀土坑の遺構実測図は、第5章の2に掲載。出土遺物実測図についても同じである。

(3) 土坑 (SK)

検出し、土坑とした遺構は総数41軒を数え、時期も多期にわたる。上記の遺構同様、表形式で説明を行う。留意点①～③は祭祀土坑①～③と同じとする。

- ④ 『出土遺物』のうち『土器』は、遺構における出土層位、位置を主に記載した。出土層位、位置は、覆土中（上層・下層）等に分けている。『その他の遺物』は石製品、金属器、土製品等の出土点数と出土層位、位置を記載した。特に触れないものは覆土中の出土である。これら『出土遺物』についての法量等の詳細は出土遺物観察表（p.67～p.75）を参照願いたい。
- ⑤ 土坑の遺構実測図は、各区ごとに掲載。出土遺物実測図についても同じである。

(4) 井戸 (SE)

検出し、井戸とした遺構は5基を数え、D区のみで確認された。上記遺構同様、表形式で説明を行う。留意点は以下のとおりである。

- ① 『長軸』・『短軸』・『深さ』の計測値は個々の最大値で、単位はm。また、「(数値)」は残存状況での数値である。『長軸』・『短軸』ともに同じ数値の場合は、南北軸＝『長軸』、東西軸＝『短軸』とした。
- ② 井戸の遺構実測図は、p.59に掲載。出土遺物実測図についてはp.61、p.62に掲載している。
- ③ 『長軸方位』、『主な遺構との先後関係』、『出土遺物』については、「(1) 住居跡の⑥～⑧」と同じである。

(5) 溝 (SD)

検出し、溝とした遺構は総数28条を数える。上記の遺構同様、表形式で説明を行う。留意点は以下のとおりである。

- ① 『長軸』・『幅』・『深さ』の計測値は個々の最大値で、単位はm。また、「(数値)」は残存状況での数値である。
- ② 溝の遺構実測図は、A区 p.12、B区 p.31、C区 p.55、D区 p.64に掲載。出土遺物実測図についてはp.13～14、p.32、p.56、p.64～65に掲載している。
- ③ 『主な遺構との先後関係』、『出土遺物』については、「(1) 住居の⑥～⑧」と同じである。

第4章 A区の遺構と遺物

A区で検出した遺構は住居跡11軒、掘立柱建物跡1棟、土坑3基、溝3条、その他ピット約30基である。以下、住居跡・土坑・溝は表形式で、掘立柱建物跡、ピット群については文章で報告する。

A区		1号住居跡							第3図/図版2		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01	
	長方形	あり	3.46	2.56	0.16	0.04	1?	—	90°	後	SC02	
出土遺物	土器[第5図/図版4]							その他の遺物[第1図/図版-]				
	外面下半にヘラズリを施した甕やタタを施した鉢などが出土している。弥生後期末から古墳初頭と比定されよう。							出土遺物なし				
概要	住居北西部分はSD01に切られ南東隅部分は調査区外へと広がる。硬化する貼床と考えられる面を検出した。その面において、主柱穴と考えられる柱穴を住居のほぼ中央に1基確認できた。下層遺構は、西側から北東側にかけて掘り込まれ、また北東側は土坑状に掘り込まれている。											

A区		2号住居跡							第4図/図版2		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SC01	
	方形	あり	(3.1)	(2.34)	0.18	0.10	1?	—	N-51°-W	後	SC06	
出土遺物	土器[第5図/図版4]							その他の遺物[第13図/図版8]				
	貼床より多くの遺物が出土。外面格子目タタを施した韓式系土器の鉢が出土していることは特筆すべき点であろう。弥生後期末から古墳初頭に比定される。							不明土製品と、鉄鏝が出土。				
概要	住居の北側がSC01に切られ南側は調査区外へと広がる。貼床と思われる硬化する面を検出し、そのほぼ直上で土器が多く出土している。主柱穴は貼床面では確認できず、貼床掘削後に主柱穴と考えられる柱穴を検出した。											

A区		3号住居跡							第6図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02・03、SC12・11	
	長方形?	—	(5.40)	(4.64)	(0.10)		—	—	N-75.5°-W	後		
出土遺物	土器[第1図/図版-]							その他の遺物[第1図/図版-]				
	弥生土器片が少量出土。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期後葉以降に比定される。							出土遺物なし				
概要	周辺遺構に切られ、また、上層を表土剥ぎ時に掘削しすぎたため、住居の全容は不明である。											

A区		5号住居跡							第6図/図版2		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01・02、SK02	
	長方形	あり	4.80	4.60	0.14	0.10	3	—	N-46°-E	後	SC06・07・08	
出土遺物	土器[第11図/図版-]							その他の遺物[第13図/図版-]				
	坑形タイプの高坏の脚部と鉢が出土している。鉢は非常に薄手で内面のみ、外面はカキ調整。丹塗りを施す。							3は動物形の土製品の胴部である。脚が短く腹部が鈍重を呈するため豚の可能性が高い。				
概要	住居は、SD01・02に分断される形で検出。北側・中央部分では、表土剥ぎ時に掘削しすぎたため、上層を削平してしまい、貼床が確認できたのは、住居の南側のみである。											

A区		6号住居跡							第7図/図版2		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SC02・05	
	方形	あり	(3.70)	(2.40)			—	—	N-48°-E	後	P006	
出土遺物	土器[第11図/図版-]							その他の遺物[第12図/図版8]				
	弥生中期末～後期初頭に比定される土器が出土している。							砥石が出土している。砥面はほぼ全面に及ぶ。				
概要	住居北側をSC05に切られ、南側が調査区外へ広がる住居である。貼床検出面で柱穴を2基検出したが主柱穴の可能性は低い。また、東側壁面にテラス状の段をもつ。下層遺構は東西住居壁面に沿って溝状に掘り込まれている。											

A区		7号住居跡							第7図/図版2		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01・02、SC05	
	不明	あり	(1.90)	(0.90)	0.10	0.04	—	炉か?	N-73°-E	後	SC03	
出土遺物	土器[第11図/図版4]							その他の遺物[第1図/図版-]				
	出土遺物は7以外は微量でいずれも細片である。7は貼床面からの出土でピット上面から検出した。							出土遺物なし				
概要	住居は大半を他遺構に切られ全容は不明である。検出できたのは住居南側のみである。また、住居壁面に沿うように焼土を確認した。時期は弥生終末期であろう。											

A区		8号住居跡							付図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02、SK02、SC05	
	不明	—	—	—	(0.06~0.10)		—	—	—	後		
出土遺物	土器[第1図/図版-]							その他の遺物[第1図/図版-]				
	出土遺物は微量。いずれも図示するに至らなかったが、外面にタタが残る甕の破片などから弥生終末前後に比定される。							出土遺物なし				
概要	調査区北東隅で検出し、大半が調査区外へと広がる住居である。西側はSC05、南側はSD02に切られ全容は不明。住居としたのは、調査区北壁とわずかに貼床と思われる硬化する面を確認できたからである。											

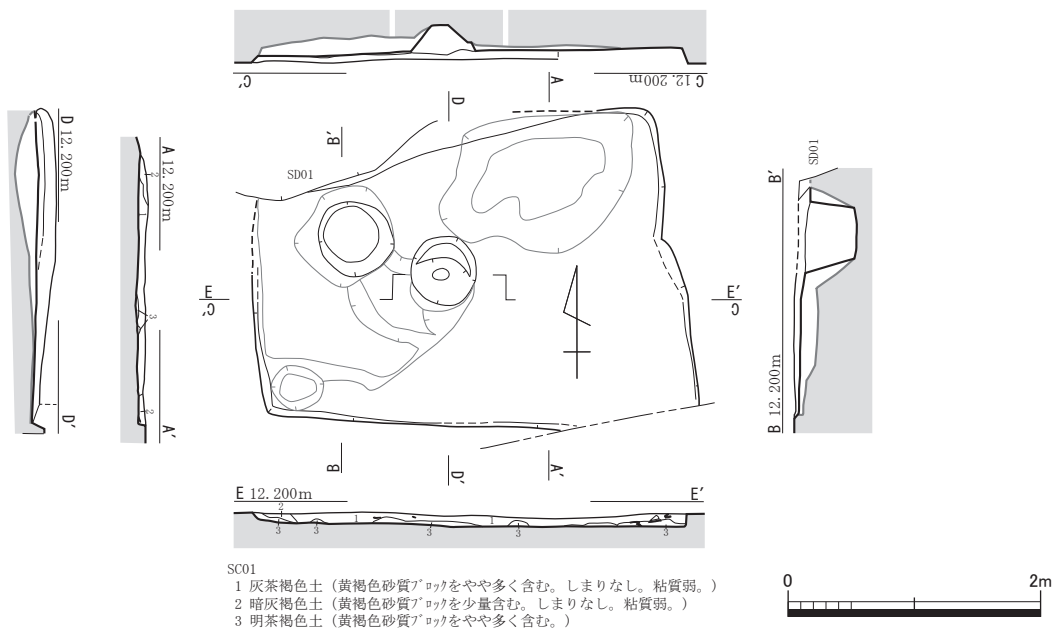
A区		9号住居跡			第7図/図版-				主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	支柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01、SB01	
	方形か?	あり	(3.10)	(2.26)	0.18	0.18	—	N-68°-W	後		
出土遺物	土器[第11図/図版4]						その他の遺物[第-図/図版-]				
	9は、外面丹塗りで、口縁部に穿孔が確認できる。時期は弥生中期末と比定されよう。						出土遺物なし				
概要	北側はSD01に切られ、南側は調査区外へと広がり、全容は不明である。表土剥ぎ時掘りすぎの為、一部貼床が露呈している状態で検出。さらに、雨天後の精査時に住居西側7イが消失したため、調査区南壁面より住居西側を復元した。火床施設は確認できなかったが、東側において焼土を検出した。何らかの火床施設が存在した可能性がある。										

A区		11号住居跡			第8図/図版-				主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	支柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02、SC12	
	方形	—	(2.40)	(0.80)	(0.05~0.10)	—	—	N-60°-E	後	SC13	
出土遺物	土器[第-図/図版-]						その他の遺物[第-図/図版-]				
	出土遺物なし						出土遺物なし				
概要	住居の北東隅部分のみを検出した。住居の全容は不明である。										

A区		12号住居跡			第8図/図版-				主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	支柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02	
	方形か?	—	(2.64)	(0.70)	(0.08~0.10)	—	—	N-72°-E	後	SC11、SC13	
出土遺物	土器[第11図/図版-]						その他の遺物[第-図/図版-]				
	弥生土器の口縁部片が出土。弥生中期後葉に比定されよう。						出土遺物なし				
概要	住居の北東隅コーナー部分を検出した。住居の全容は不明である。										

A区		13号住居跡			第8図/図版-				主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	東西軸	深さ	支柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01、SD02、SC07	
	方形か?	—	(3.60)	(1.00)	(0.06~0.10)	—	—	N-75°-W	後		
出土遺物	土器[第-図/図版-]						その他の遺物[第-図/図版-]				
	出土遺物は微量で、細片である。弥生中期後葉以降であろう。						出土遺物なし				
概要	検出できたのは住居西南隅部分であろう。上層を表土剥ぎ時に掘りすぎ、大半が他の遺構に切られるため、全容は不明である。住居西側において住居壁面に沿うように溝状の掘り込みが確認できた。										

SC01



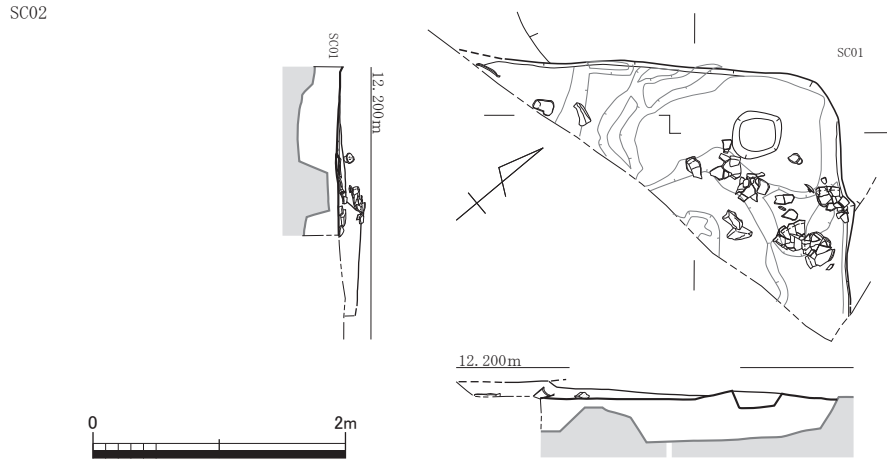
第3図 A区1号住居跡遺構実測図 (1/60)

2. 掘立柱建物跡 (S B) (第 8 図 / 図版一)

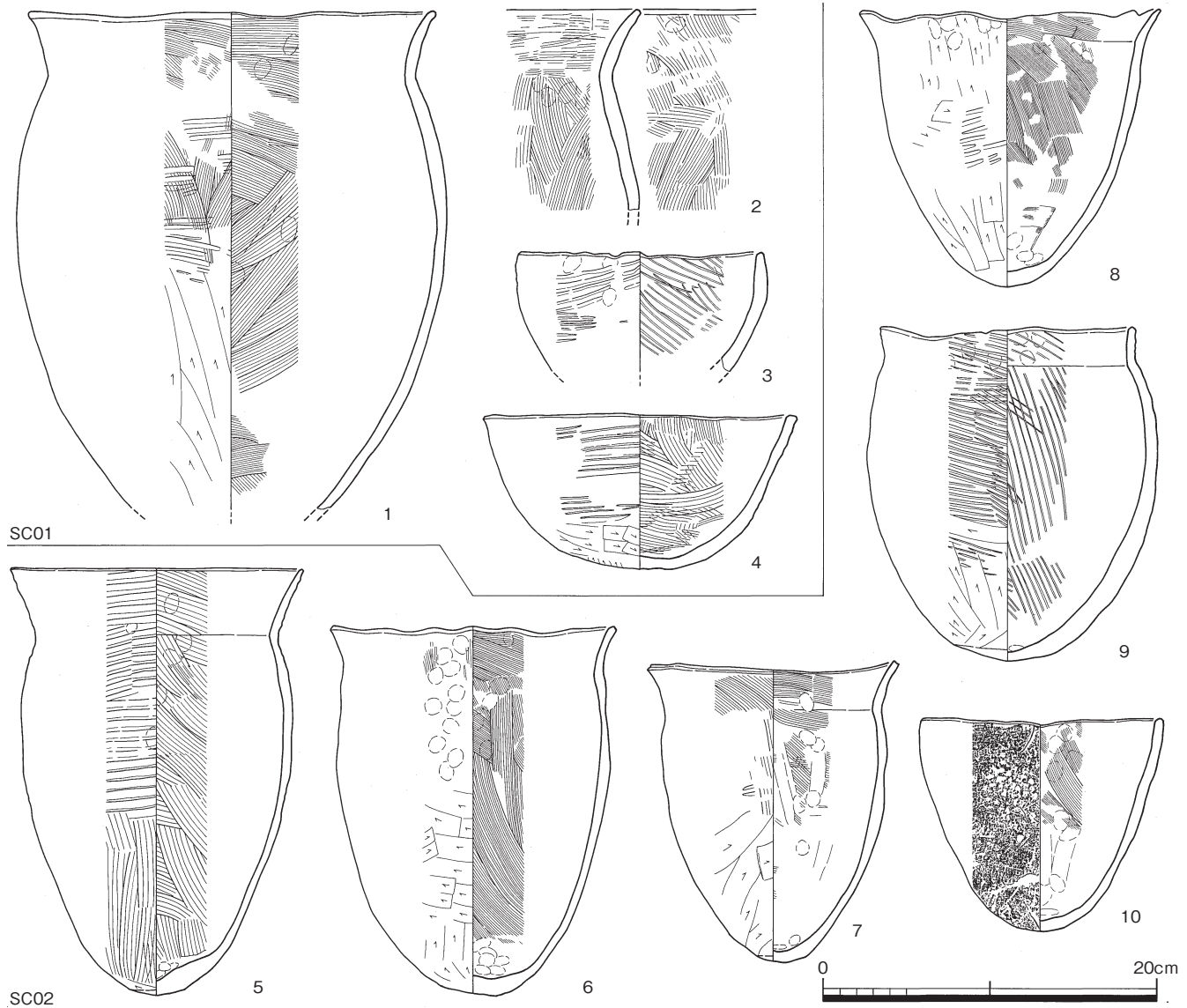
1号掘立柱建物跡はA区南西で検出した。北側を1号溝に、東側を9号住居跡に切れ南側は調査区外へと広がり、極めて残存状況が悪い。確認できたのは建物の北側で、規模は柱間3間であろう。

出土遺物 (第 11 図 / 図版一)

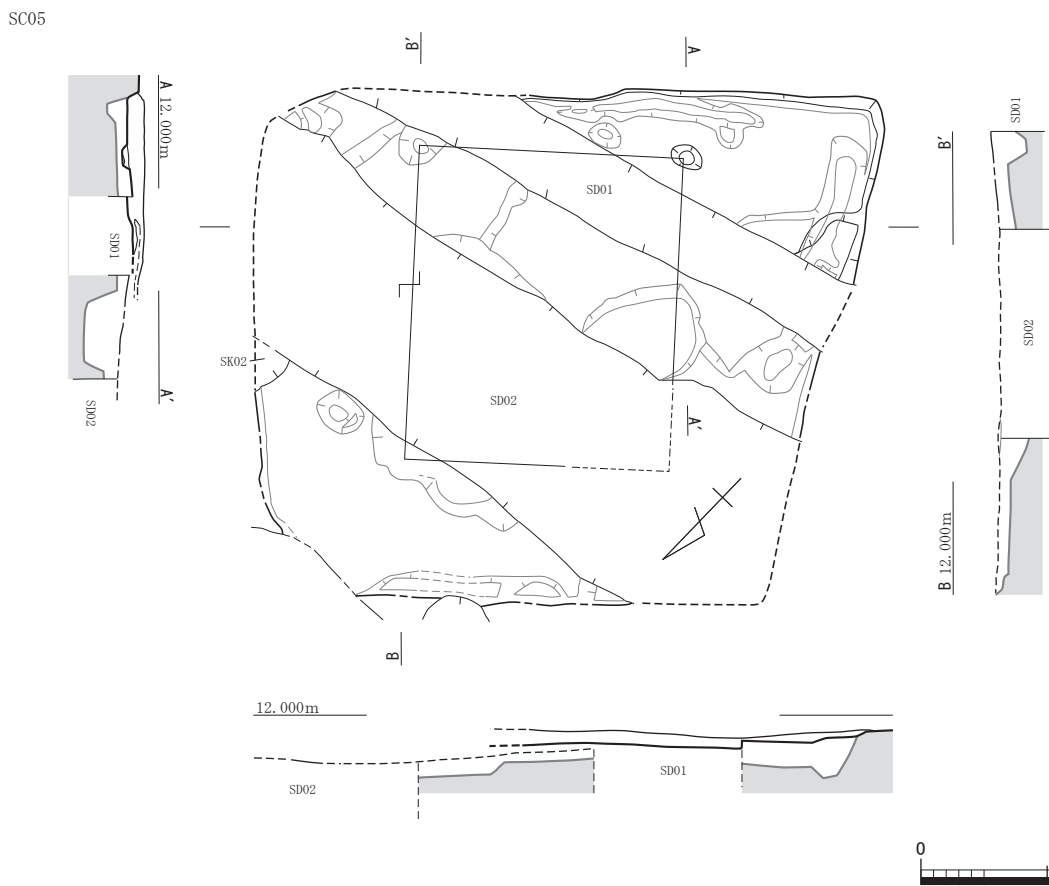
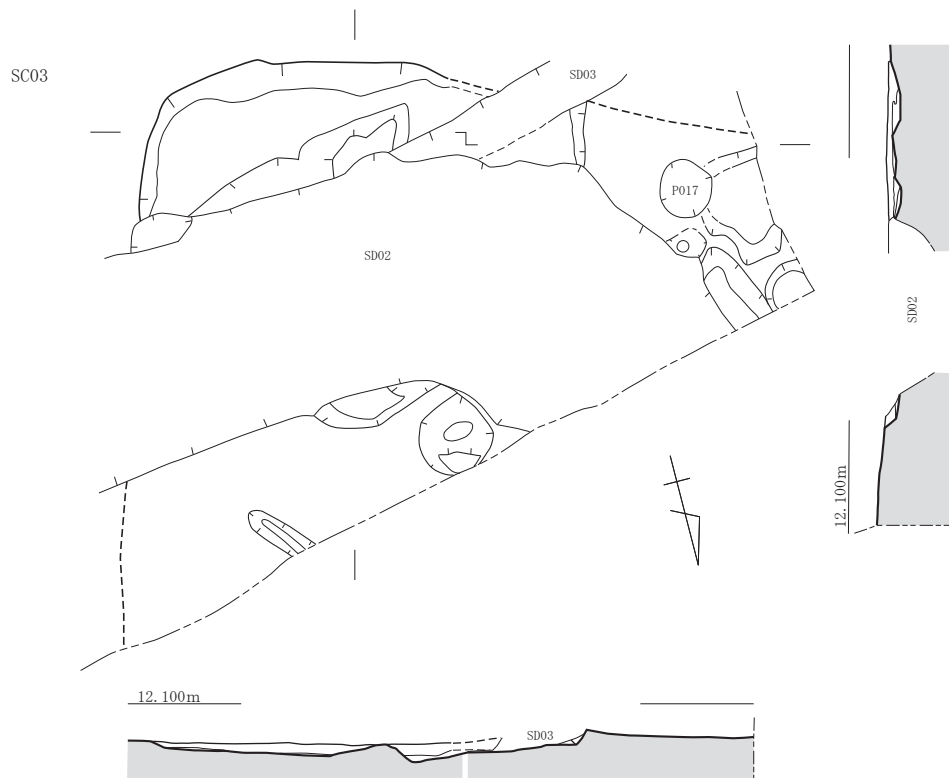
出土遺物は弥生土器の小片などあるが、図化するに至ったのはP-1の出土遺物のみである。11は弥生土器鉢片で内外面ハケメ調整を施している。時期は弥生中期以降であろう。



第 4 図 A区2号 住居跡遺構実測図 (1/60)

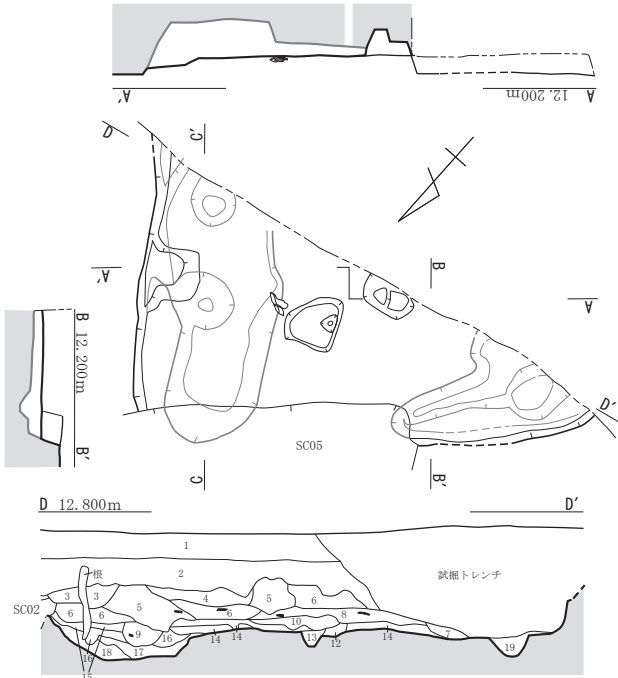


第 5 図 A区1・2号住居跡出土遺物実測図 (1/4)



第6図 A区3・5号住居跡遺構実測図(1/60)

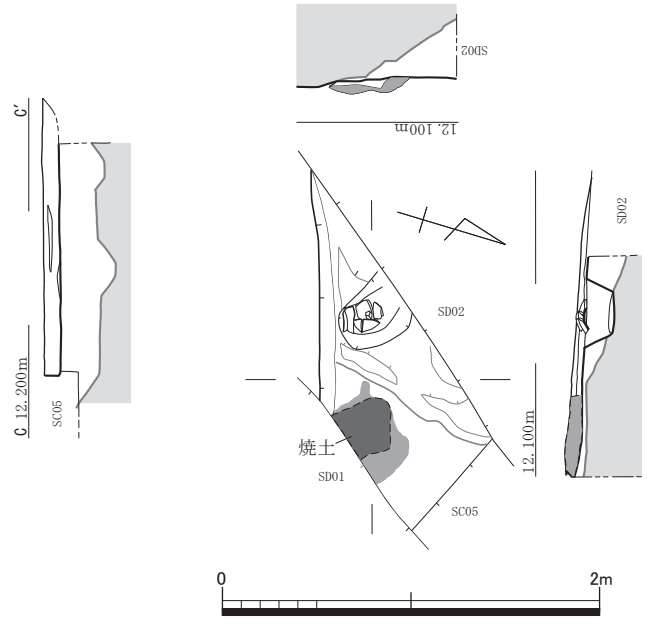
SC06 (60)



SC06

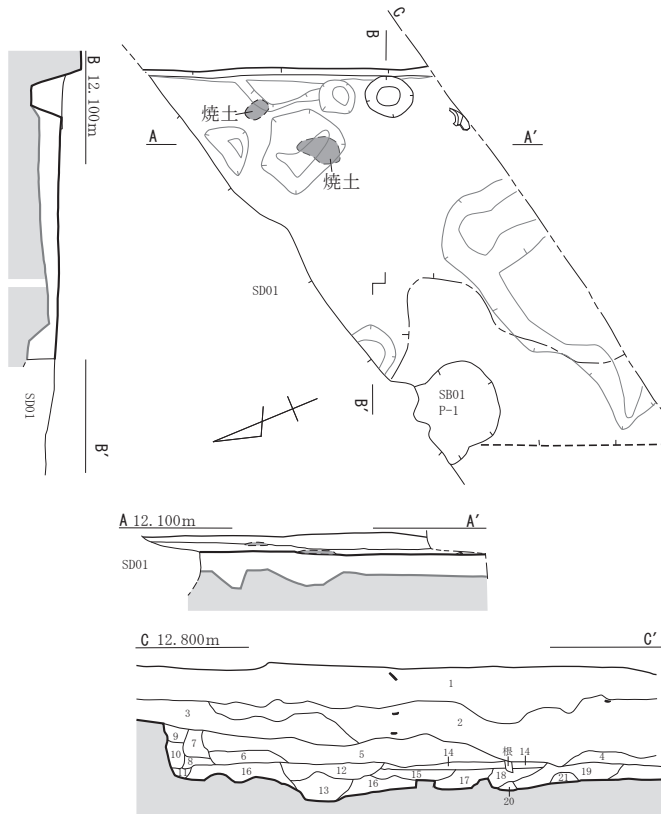
- 1 灰褐色土
- 2 明灰褐色土
- 3 明灰褐色土
- 4 明灰褐色土
- 5 明灰黄褐色土 (3~8cmの黄褐色地山ブロックをやや多く含む。しまり弱、粘質弱、土器をわずかに含む。)
- 6 明灰褐色土 (淡黒褐色土をやや多く含む。しまり弱、粘質あり、土器をやや多く含む。)
- 7 淡灰黄褐色土 (3~6cmの茶褐色地山をブロック状に微量含む。固くしまる。)
- 8 暗灰黄褐色土 (黄褐色地山をまだらに少量含む。やや固くしまる、粘質弱。)
- 9 淡暗灰黄褐色土 (黄褐色地山土をまだらに非常に多く含む。)
- 10 暗灰褐色土 (しまり弱、粘質弱。)

SC07 (40)



- 11 淡明灰黄褐色土+黄褐色地山砂質土 (非常に固くしまる、粘質弱。)
- 12 淡明灰黄褐色土+茶褐色地山土 (黄褐色砂質地山土を少量含む、ややしまる、粘質弱。)
- 13 淡明灰黄褐色土+黄褐色地山砂質土 (ややしまる、粘質弱。)
- 14 黄褐色砂質地山土+淡灰+茶褐色地山土 (非常に固くしまる)
- 15 淡明灰褐色土+茶褐色地山土 (黄褐色砂質地山土を少量含む、非常に固くしまる。)
- 16 淡明灰黄褐色土 (黄褐色地山土を少量、淡黒色土と微量に含む。非常に固くしまる、粘質弱。)
- 17 暗黄灰褐色土 (やや硬くしまる、砂質土。)
- 18 29層土とほぼ同じ (29層土より褐色が強く、淡灰色の混じり弱。)
- 19 暗灰色土 (黄褐色砂質地山土を少量含む、ややしまる。)

SC09 (60)

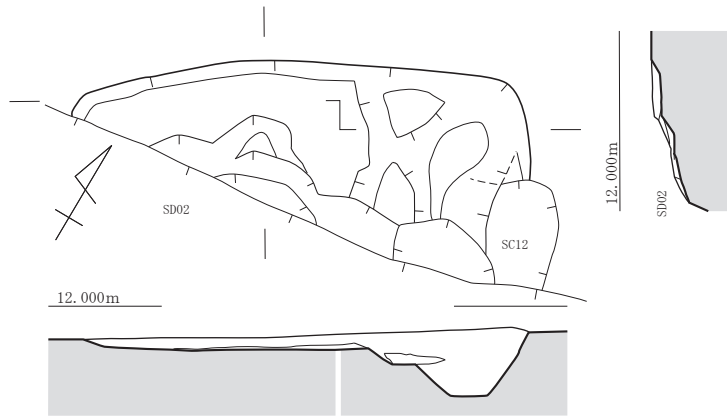


SC09

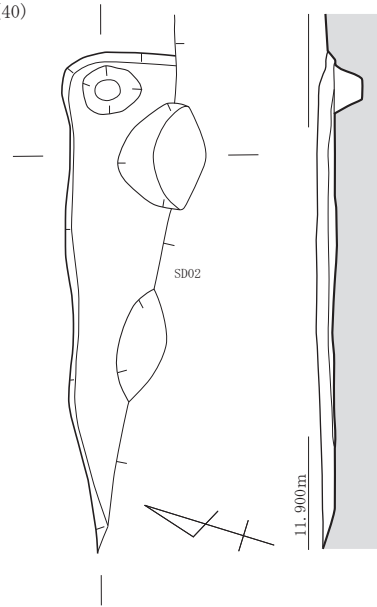
- 1 灰褐色土 (土器をやや多く含む。現代の耕作土。)
- 2 暗灰茶褐色土 (土器をやや多く含む。1層土を少量含む。)
- 3 暗灰黄褐色土 (黄褐色土をブロック状に少量含む。)
- 4 暗灰黄褐色土 (3層土より暗。黄褐色土を含まない。)
- 5 暗灰褐色土 (2~4cmの淡黒色ブロック土を少量含む。しまりなし。粘質弱。)
- 6 暗灰褐色土 (焼土を非常に多く含む。しまりなし。粘質弱。)
- 7 暗灰褐色土 (5層土より暗。ブロック土は含まない。しまりなし。粘質弱。)
- 8 暗灰褐色土 (5、7層土より褐色が強い。黄褐色地山土を少量含む。ややしまる。)
- 9 暗灰褐色土 (5層土に近いがブロック土を含まない。しまりなし。粘質ややあり。)
- 10 暗灰褐色土 (7、8層土に近いが褐色が弱い。しまりなし。明茶褐色地山を少量含む。)
- 11 灰黄褐色土 (黄褐色砂質地山土をやや多く含む。掘削時には検出できなかったが壁溝の可能性あり。)
- 12 淡黒色+淡灰褐色土+黄褐色地山の混じり土 (固くしまる)
- 13 淡灰褐色土+明茶褐色地山+淡黒色土の混じり土 (固くしまる)
- 14 淡灰褐色土+黄褐色地山+明茶褐色地山の混じり土 (非常に固くしまる)
- 15 淡灰褐色土 (明茶褐色土に淡黒色土をブロック状にやや多く含む固くしまる。)
- 16 黄褐色砂質地山土+淡灰褐色土+淡黒色土 (固くしまる)
- 17 淡灰褐色土 (淡黒色ブロックを少量、黄褐色砂質地山土を微量に含む。固くしまる。)
- 18 淡灰褐色土 (黄褐色砂質地山ブロックをやや多く含む、固くしまる。)
- 19 暗淡灰褐色土 (淡黒色ブロックをやや多く含む黄褐色砂質地山を多く含む固くしまる。)
- 20 暗灰褐色土 (ややしまる)
- 21 暗黄褐色砂質土 (淡灰褐色ブロックを少量含む。固くしまる。)

第7図 A区6・9・7号住居跡遺構実測図 (6, 9は 1/60、7は 1/40)

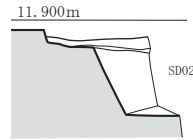
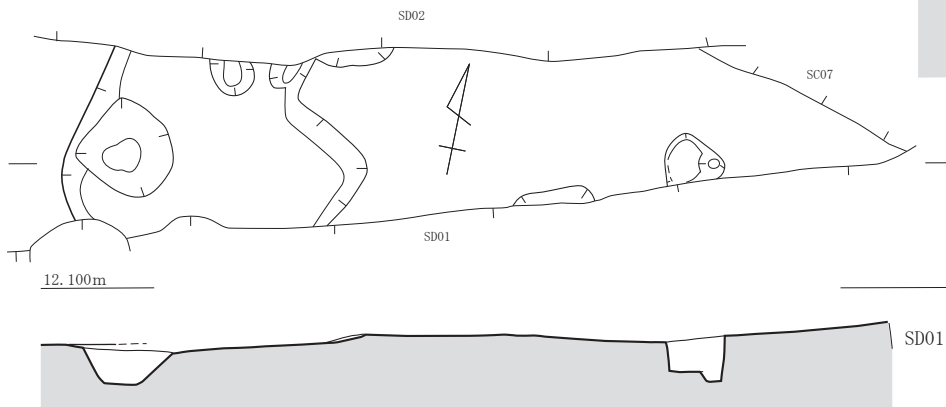
SC11 (40)



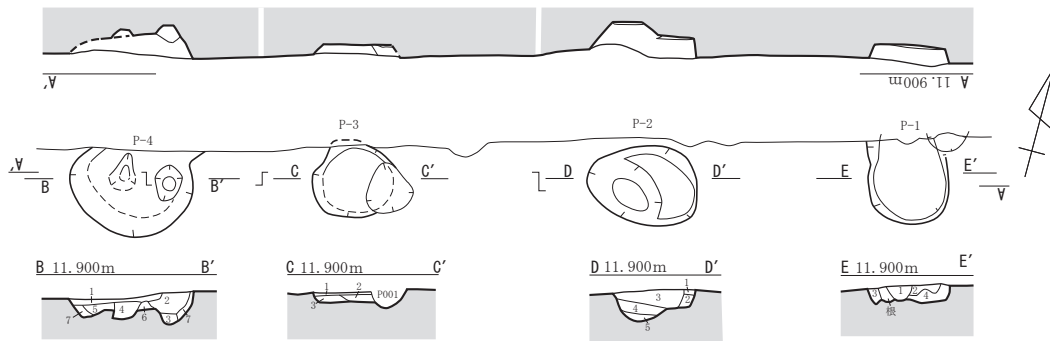
SC12 (40)



SC13 (40)



SB01 (60)



- SB01 P-4 (B-B')
- 1 暗灰褐色土 (砂質混じり。しまりなし。)
 - 2 暗灰褐色土 (黄褐色地山砂質土を少量含む。)
 - 3 暗灰褐色土+黄褐色地山砂質土の混じり土 (粘質弱。)
 - 4 暗灰褐色土 (砂質混じり。2層土に近い。)
 - 5 淡灰褐色土 (砂質混じり。しまりなし。)
 - 6 黄褐色地山+淡灰褐色土の混じり土
 - 7 黄灰褐色土 (黄褐色地山土を非常に多く含む。流れ込みか。)
- SB01 P-3 (C-C')
- 1 灰褐色土 (砂質を非常に多く含む。固くしまる。)
 - 2 明灰褐色土 (砂質を非常に多く含む。固くしまる。)
 - 3 淡灰褐色土 (砂粒を非常に多く含む。しまりなし。)
 - 4 黄灰褐色土 (砂質、黄褐色砂質地山土非常に多く含む。)
 - 5 暗黄灰褐色土 (砂質、黄褐色砂質地山土非常に多く含む。やや固くしまる。)

- SB01 P-2 (D-D')
- 1 灰褐色土 (砂質を非常に多く含む。)
 - 2 淡灰褐色土
 - 3 淡灰褐色土+黄褐色砂質地山土混じり (砂質気味。固くしまる。)
- SB01 P-1 (E-E')
- 1 灰褐色土 (しまりなし。)
 - 2 灰褐色土 (黄褐色地山土を粒子状にやや多く含む。)
 - 3 暗黄灰褐色土 (黄褐色砂質地山土を多く含む。しまる。)
 - 4 黄灰褐色土 (黄褐色砂質地山土を非常に多く含む。)



第8図 A区11~13号住居跡 (1/40)、1号掘立柱建物跡遺構実測図 (1/60)

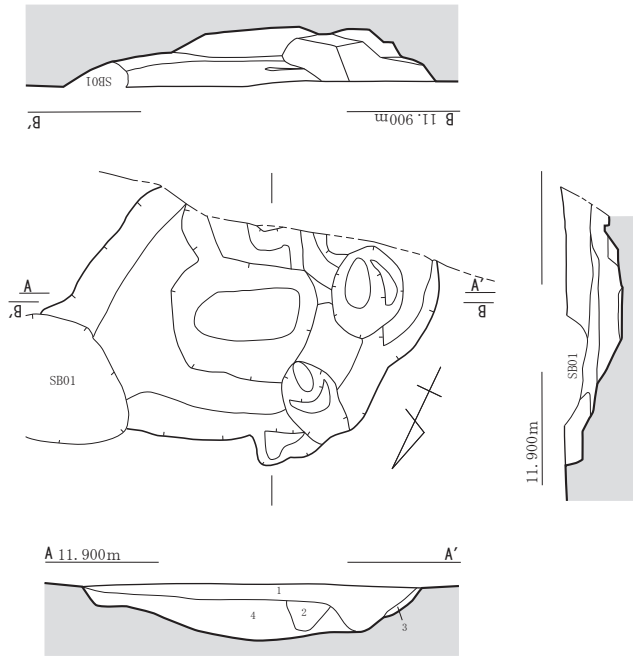
2、土坑 (SK)

A区		1号土坑					第9図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SB01		
	やや方形	やや方形	1.94	(1.46)	0.20~0.32	N-64.5°-E	後			
出土遺物	土器[第-図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
	少量の弥生土器片が出土した。時期は弥生中期後葉以降であろう。					出土遺物なし				
概要	南側が調査区外へと広がり全体形は不明だが、方形であろう。土坑東側にテラスをもち、中央部分が東西70cm、南北60cmの楕円状に下がる。									

A区		2号土坑					第9図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD02、		
	楕円	楕円	1.13	(0.84)	0.34	N-78.5°-E	後	SC05・08		
出土遺物	土器[第-図/図版-]					その他の遺物[第12図/図版4]				
	遺物の出土はわずかである。外面を調整している鉢片が出土した。時期は弥生後期終末以降であろう。					砥石が出土している。確認できた砥面は3面である。表面に沈着物が見られる。				
概要	土坑の南半分がSD02に切られ、全容は不明である。									

A区		3号土坑					第9図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD03、P003		
	円形	円形	(1.1)	1.00	0.10~0.20	N-11°-W	後			
出土遺物	土器[第-図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
	出土遺物はわずかである。いずれも細片で図示するに至らなかった。時期は弥生中期後葉以降であろう。					出土遺物なし				
概要	他遺構に切られ、土坑北側にテラスをもち。									

SK01

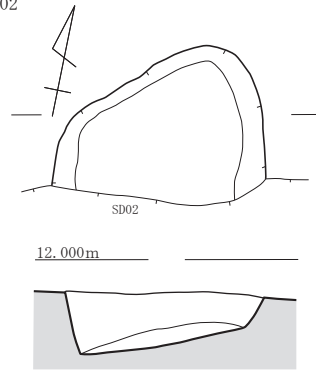


SK01

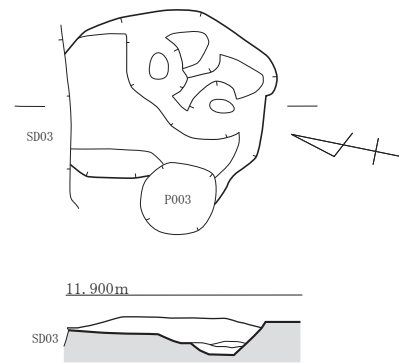
- 1 暗灰褐色土 (砂質まじり。しまりなし。軟らかい。)
- 2 淡灰黄褐色土 (砂質まじり。しまりなし。軟らかい。)
- 3 淡黄褐色砂質土 (地山土に近い。茶褐色粘質地山ブロックを少量含む。流れ込みか。)
- 4 黄褐色砂質地山土+淡灰黄褐色ブロックの混じり土



SK02



SK03

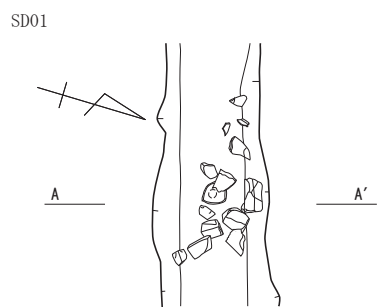


第9図 A区1~3号土坑遺構実測図 (1/40)

A区		1号溝		第10図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SC01・05・07・091・13、SB01
	(17.63)	0.50~0.90	0.20	逆台形状	N-73.5°-E	後	
出土遺物	土器[第11図/図版-]			その他の遺物[第12図/図版-]			
	出土遺物の量は多く、時期も様々である。SD02との先後関係より17世紀以降には埋没したと考えられる。				砥石と石鍋が出土している。石鍋は口縁部の破片で口縁に工具痕が残る。砥石は被熱を受けた可能性あり。		
概要	調査区南側を東西方向に横断する溝である。溝の中央部付近西寄りにおいて30cm大の石がまとまった状態で出土している。何らかの石組遺構の可能性はある。検出標高は11.800m。						

A区		2号溝		第10図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SD01
	(15.86)	1.60~2.2	0.82	お椀形	N-77°-E	後	
出土遺物	土器[第11図/図版-]			その他の遺物[第12・13図/図版8]			
	遺物の出土量は非常に多く、多期にわたる。時期は17世紀以降であろう。				砥石、紡錘車、土錘、金属製品など多くの遺物が出土している。		
概要	調査区ほぼ中央を東西方向に横断し、西側は北へカーブする。検出標高は11.800m~11.900m。						

A区		3号溝		第10図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SD02
	(2.76)	0.40	0.12	逆台形	N-78.5°-E	後	
出土遺物	土器[第-図/図版-]			その他の遺物[第-図/図版-]			
	遺物の出土は確認されなかった。				出土遺物なし		
概要	SD02に切られるため、全容は不明である。検出標高は11.900m。						



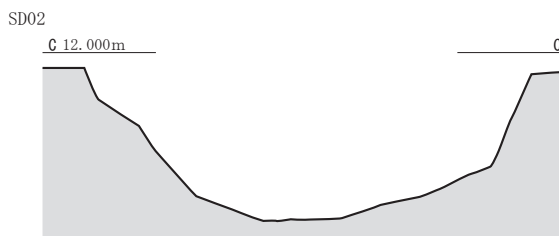
A 12.000m A'

SD01B-B' 土層
B 11.900m B'

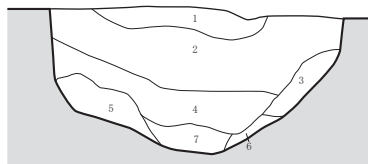


SD01
1 暗灰色土(軟らかい。しまりなし。粘質弱。)

SD03
S 12.000m N

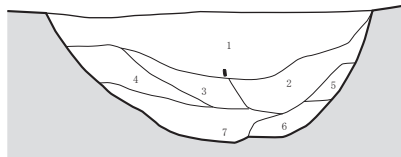


SD02B-B' 土層
B 12.000m B'



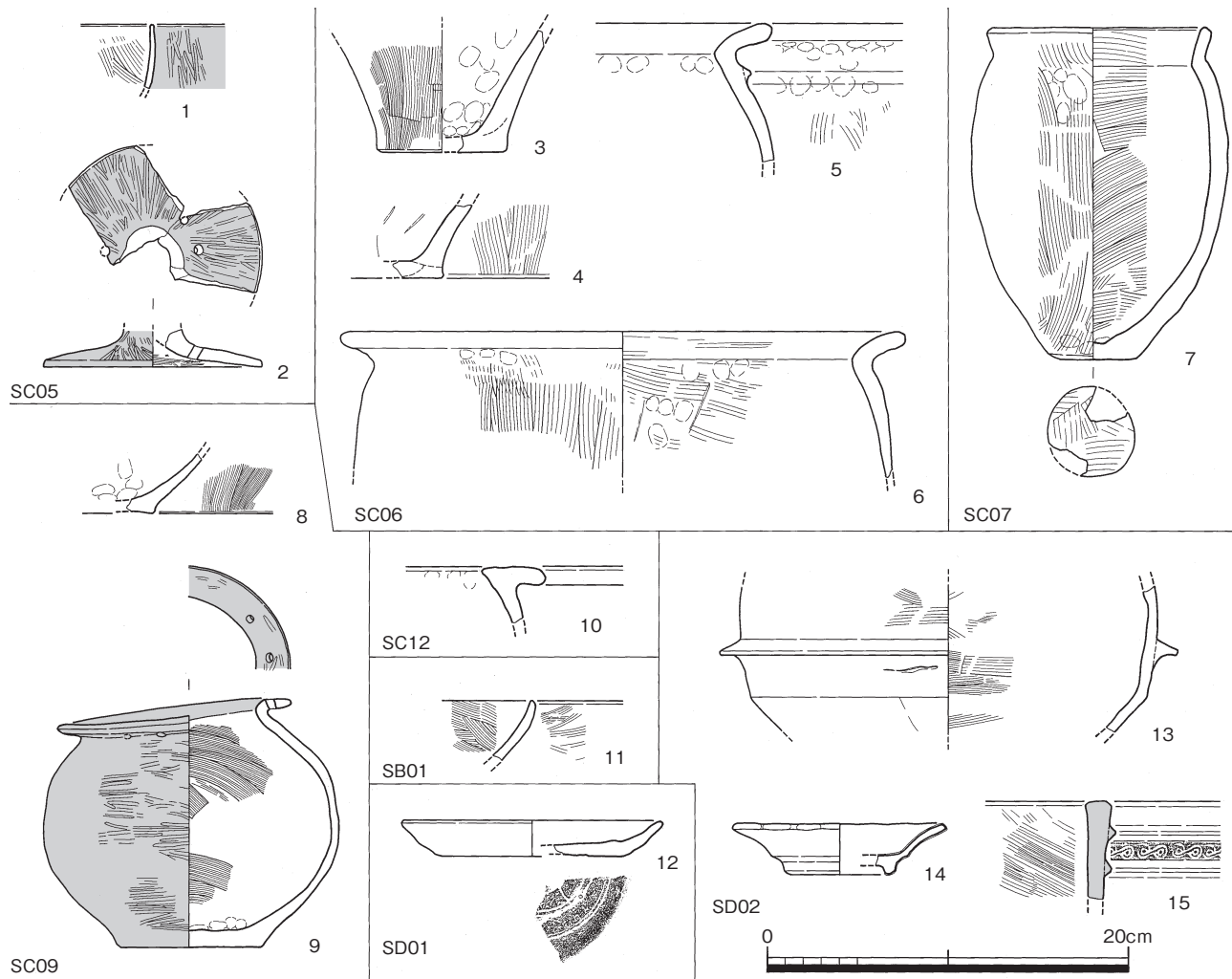
- SD02B-B'
- 1 明灰褐色土(粘質弱。砂質を少量含む。)
 - 2 灰褐色土(砂粒を多く含む。しまりなし。粘質弱。土器をやや多く含む。)
 - 3 暗灰褐色土(明茶褐色砂質土をやや多く含む。砂粒をやや多く含む。しまりなし。粘質弱。)
 - 4 暗灰褐色土(砂粒を非常に多く含む。黄褐色砂質土をやや多く含む。)
 - 5 灰黄褐色土(やや大きい砂粒を非常に多く含む。固くしまる。粘質弱。)
 - 6 灰褐色土(明茶褐色砂質土・黄褐色砂質土をやや多く含む。砂粒を非常に多く含む。しまる。)
 - 7 暗灰黄褐色土(砂粒を非常に多く含む。)

SD02C-C' 土層
C 12.000m C'

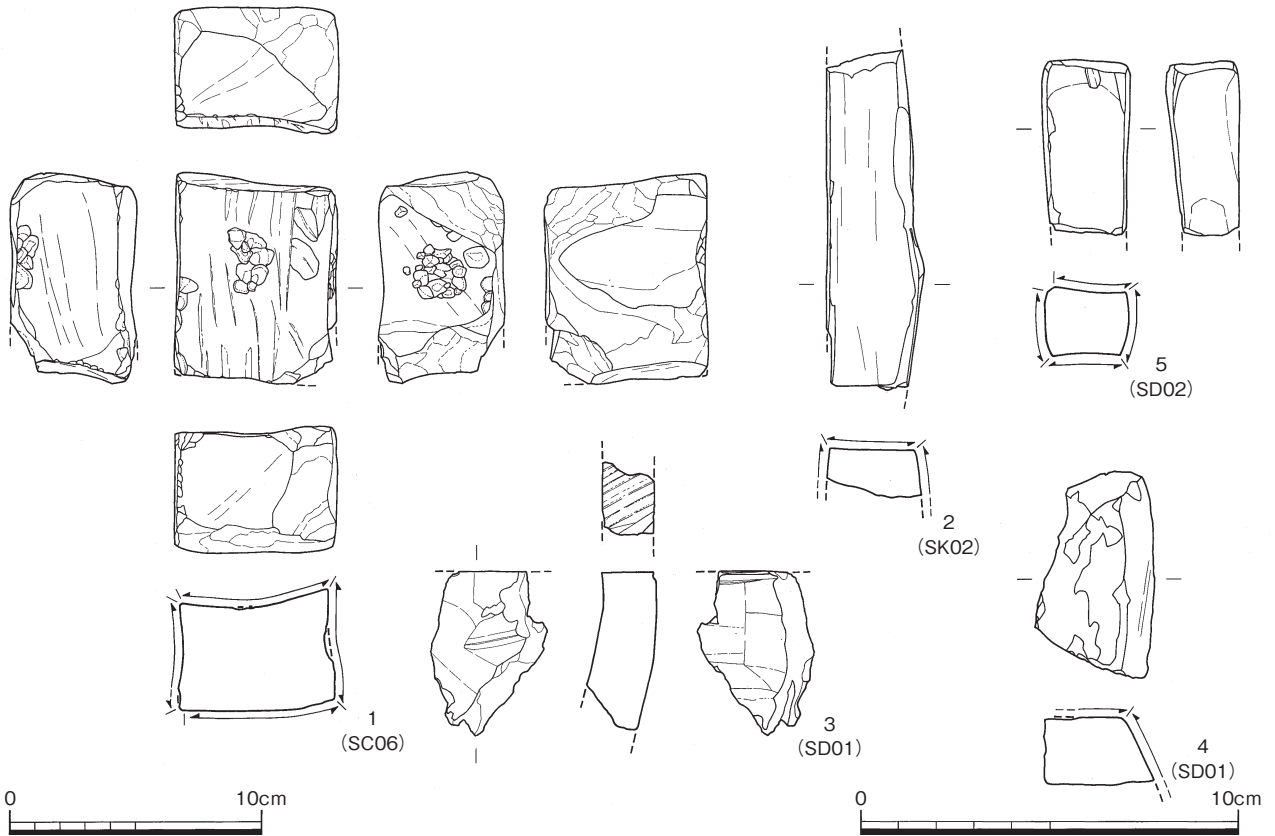


- SD02C-C'
- 1 B-B' の2層土と同じ
 - 2 暗灰褐色土(砂粒を少量含む。しまりなし。粘質弱。軟らかい。)
 - 3 暗灰褐色土(砂粒を非常に多く含む。しまりあり。粘質弱。)
 - 4 灰褐色土(砂粒を非常に多く含む。しまりあり。粘質弱。黄褐色砂質を微量含む。)
 - 5 B-B' の3層土と同じ
 - 6 B-B' の6層土と同じ
 - 7 B-B' の5層土と同じ

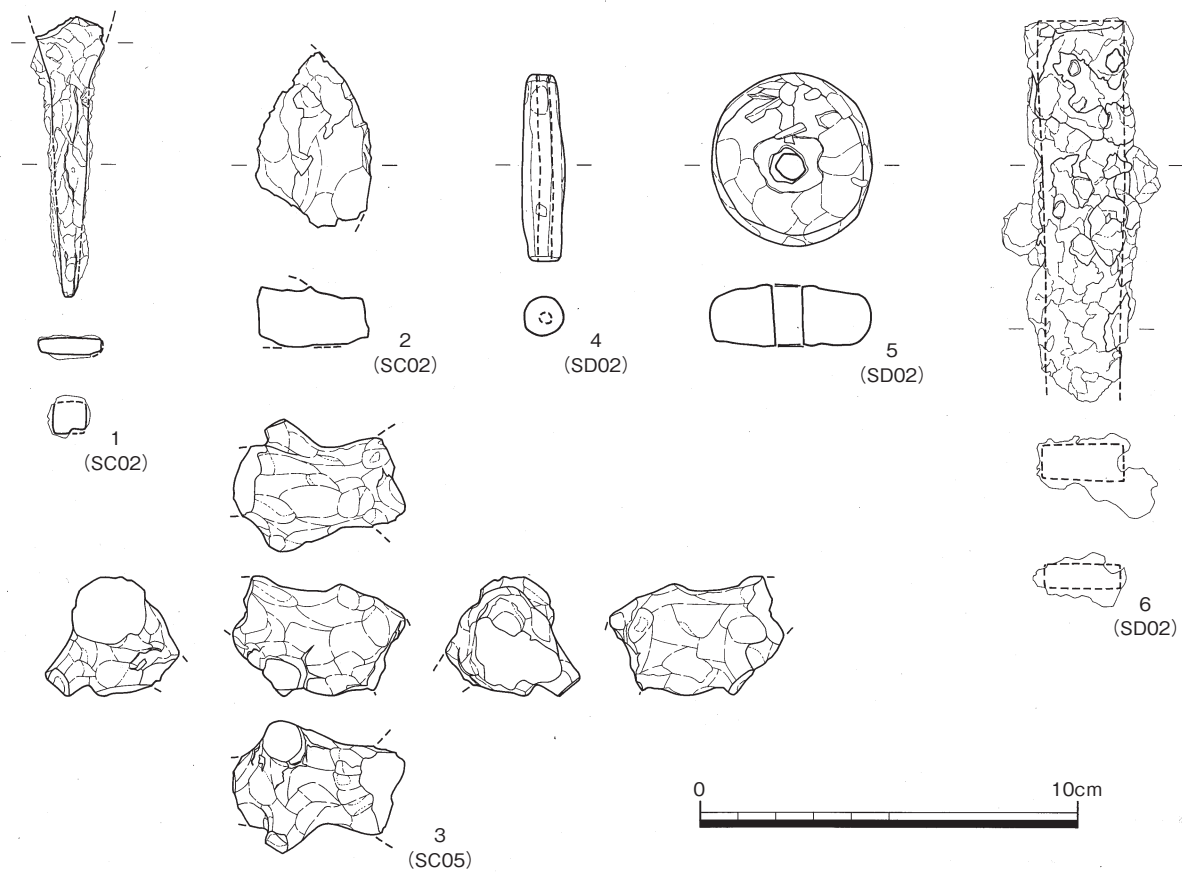
第10図 A区1~3号溝遺構実測図(1/40)



第1 1 图 A区5~7·9·12号住居跡、1号掘立柱建物跡、1·2号溝出土遺物実測図(1/4)



第1 2 图 A区出土石製品実測図(1/2,1/3[1,3])



第13図 A区出土土製品・金属製品実測図(1/2)

5. ピット (P) (付図／－)

検出したピットは、約30基である。そのうちの多くのピットから遺物が出土しているが、いずれも図示にいたらなかった。

第5章 B区の遺構と遺物

B区で検出した遺構は小児甕棺1基、祭祀土坑5基、土坑10基、溝6条、その他ピット50基である。以下、表形式で報告する。表についての留意点は第3章2を参照。

1. 甕棺墓（ST）（第14図／図版2）

1号甕棺は3・4号溝に切られる形で検出した。甕棺の埋納角度は約30°である。

出土遺物（第15図／4）

上甕は底部が欠損している。内面に布あて具痕が残る。下甕はほぼ完形である。時期は弥生時代中期中葉以降と比定される。

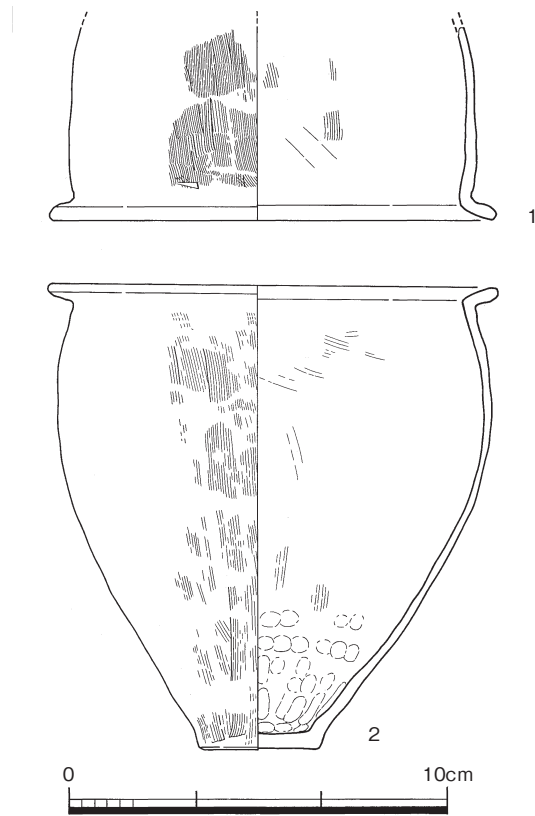
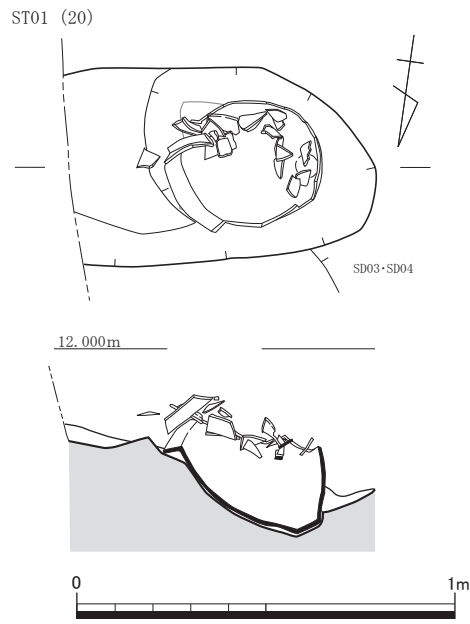
B区		1号祭祀土坑 第14図／図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD02
	楕円	楕円	2.05	1.13	0.34～0.65	N-23.5° - E	後	
出土遺物	土器[第16・17図／図版4・5]					その他の遺物[第21図／図版8]		
	数多くの遺物が出土している。器種も甕・壺をはじめとして蓋、器台、支脚などが出土している。時期は弥生時代中期中頃以降に比定される。					多くの遺物が出土している。2は安山岩製の石鏃である。3は砂岩の砥石である。欠損箇所があるが、ほぼ全面を砥面として利用している。		
概要	調査区南側中央で検出。北側にテラス状の段を持つ二段掘りの土坑である。検出面から大量の土器を確認しており、埋土中からも土坑全体から大量の土器が出土した。また、埋土中上位の北東部中央よりから、標高11.7mの地点で黒曜石の原石を検出した。							

B区		2号祭祀土坑 第18図／図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD02
	楕円?	楕円?	3.44	1.30	0.28	N-52.0° - E	後	
出土遺物	土器[第19・20図／図版5]					その他の遺物[第-図／図版-]		
	数多くの遺物が出土。また、器種も多種にわたる。第19図の10は黒塗壺の頸部で、第20の1は坏部外面に僅かだが丹が残る。時期は弥生中期中頃～後葉に比定される。					図示できなかった。		
概要	調査区南側中央で検出。北西側と南東側にテラス状の段を持つ祭祀土坑である。祭祀土坑中央の平坦面より、検出面から埋土中にかけて大量の土器が出土した。							

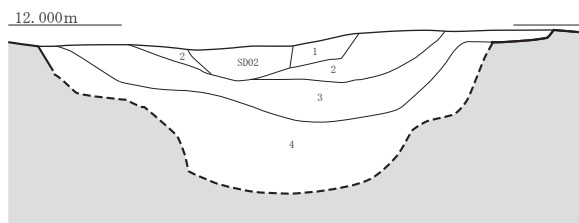
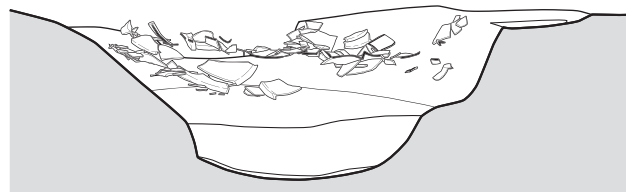
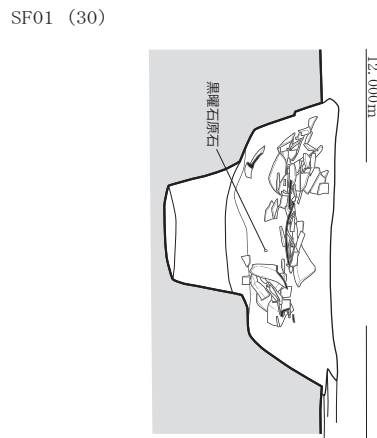
B区		3号祭祀土坑 第22図／図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円?	楕円?	3.55	1.32	0.26～0.57	N-14.0° - E	後	
出土遺物	土器[第23図／図版5]					その他の遺物[第-図／図版-]		
	数多くの遺物が出土。器種は甕・壺・支脚など多種にわたる。時期は弥生中期中葉～中葉に比定される。					図示できなかった。		
概要	調査区中央東側で検出。南側にかけてテラス状の段を持つ祭祀土坑である。特に、南側のテラス状の段上から、大量の土器が出土した。また、土器とともに焼土も確認した。							

B区		4号祭祀土坑 第22図／図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円?	楕円?	4.38	0.65	0.09～0.38	N-12.5° - W	後	
出土遺物	土器[第23図／図版-]					その他の遺物[第25図／図版-]		
	やや多くの遺物が出土。器種も多種にわたる。時期は弥生中期中葉～中葉と比定される。					黒曜石の剥片が3点出土している。		
概要	調査区中央で検出。東側隅と西側隅にピットをもち、これらのピットをテラス状の段でつないでいる土坑である。東側隅のピットからは、残りがほぼ半分の甕が押しつぶされたような形で出土した。							

B区		5号祭祀土坑 第22図／図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD01
	楕円	楕円	1.67	1.32	0.40～0.83	N-9.5° - W	後	SK13
出土遺物	土器[第24図／図版5]					その他の遺物[第-図／図版-]		
	頸部に突帯を持つ壺や底部に丸みを持つ甕などが出土している。時期は古墳初頭か?					図示できなかった。		
概要	調査区西側隅中央で検出。南側から北側にかけて徐々に傾斜する壁面に二段掘りをした土坑である。土器は、南側から北側にかけて徐々に傾斜する壁面に沿って土坑中央よりから出土した。							

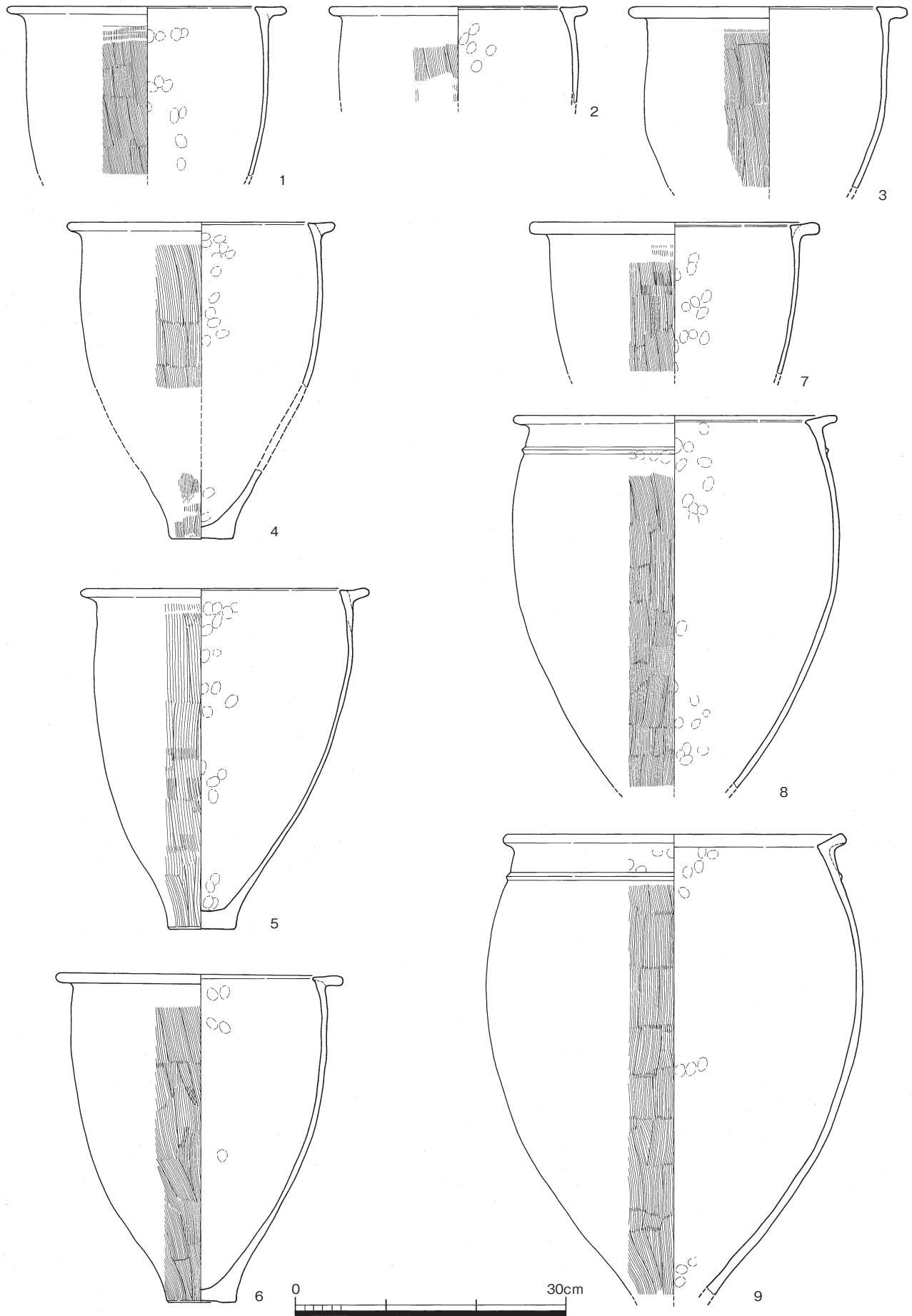


第15図 B区1号甕棺実測図(1/6)

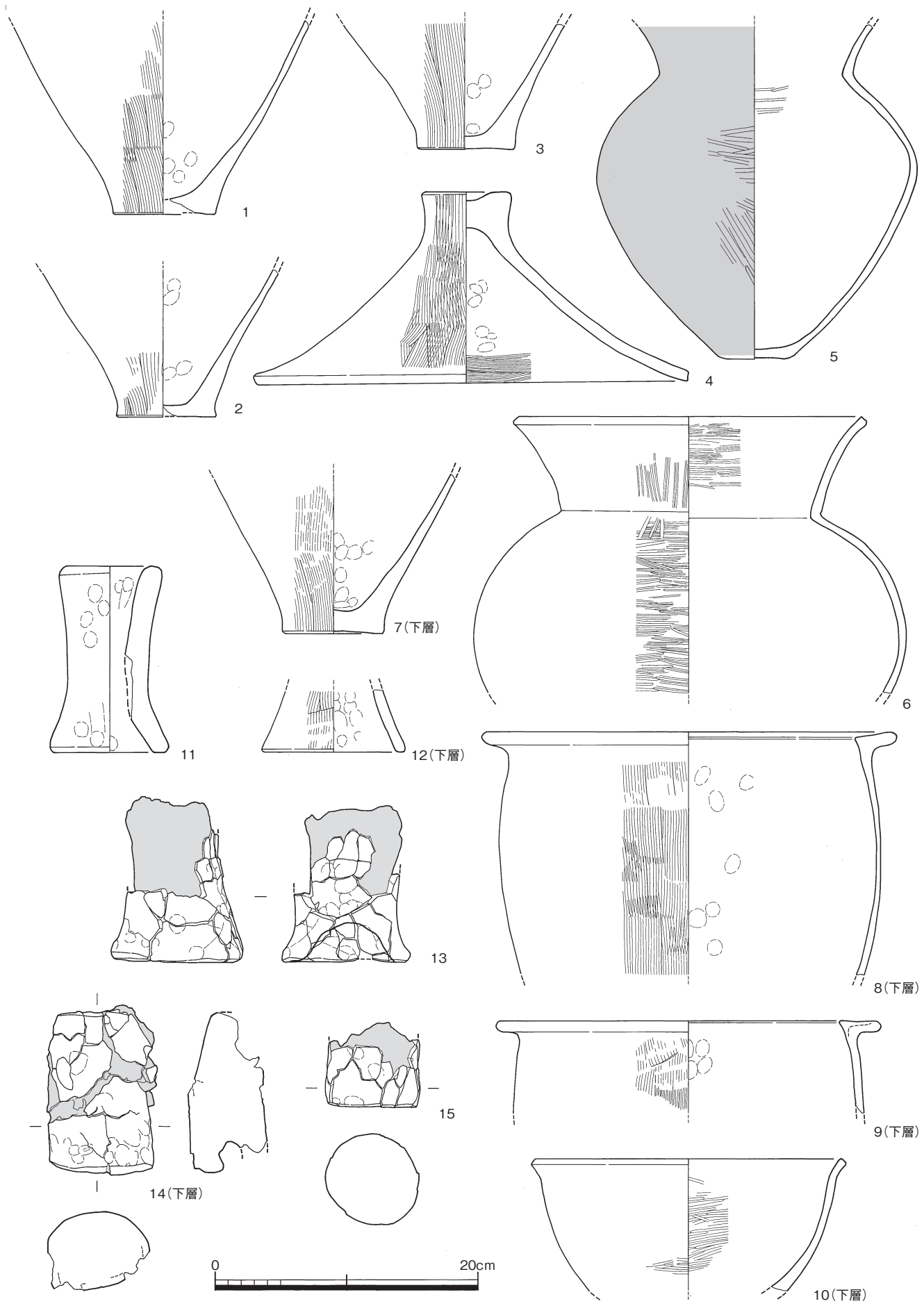


SF01 土層
 1 灰褐色土(褐色のブロック(2cm大)少し含む。1mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
 2 暗灰褐色土(1mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
 3 暗灰褐色土(2層より濃い色。1mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
 4 灰褐色土(1層より濃い色。1mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)

第14図 B区1号甕棺墓、1号祭祀土坑遺構実測図 (ST01は1/20、SF01は1/30)

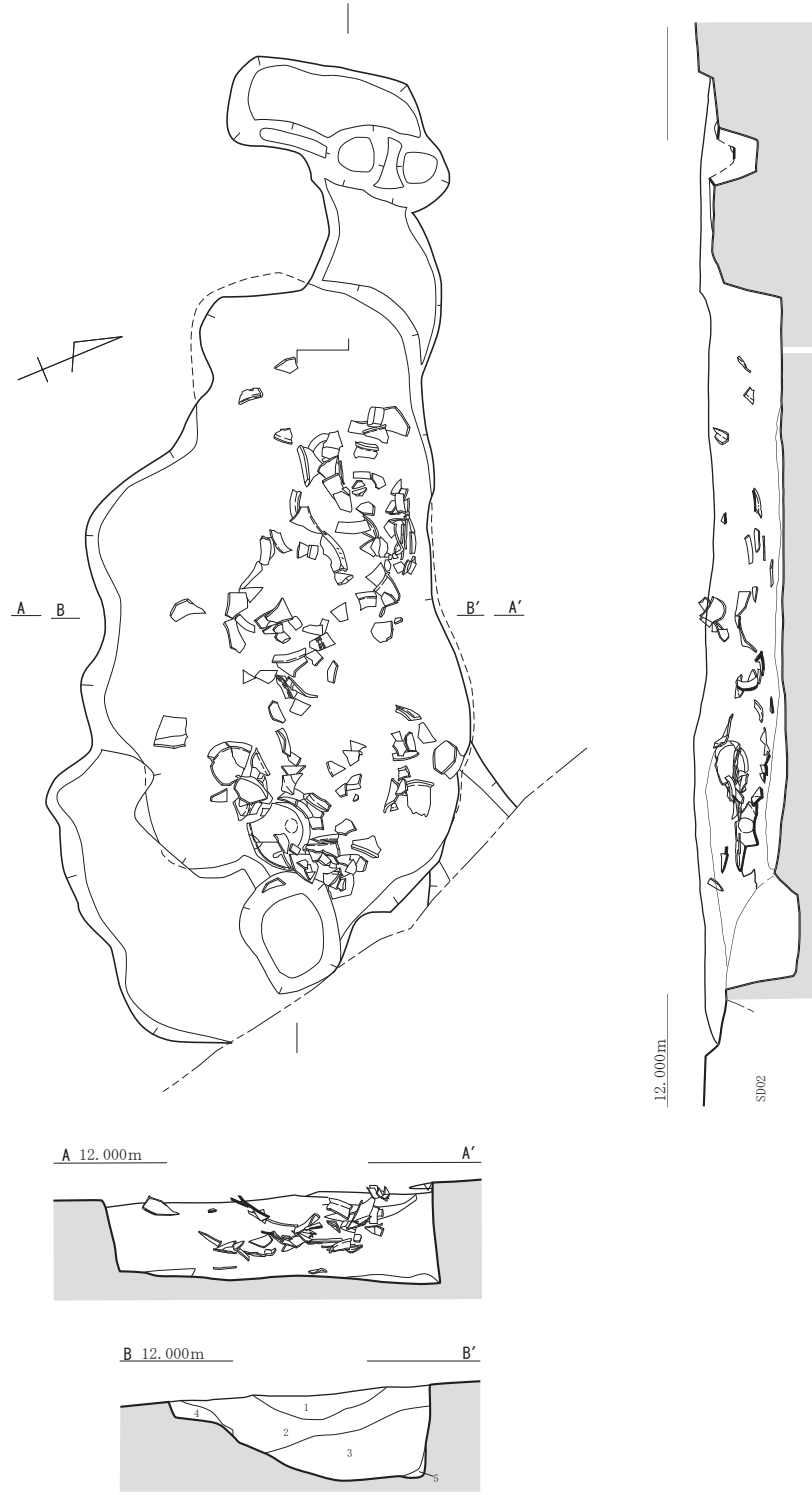


第 1 6 图 B区 1 号祭祀土坑出土遺物実測図① (1/6)

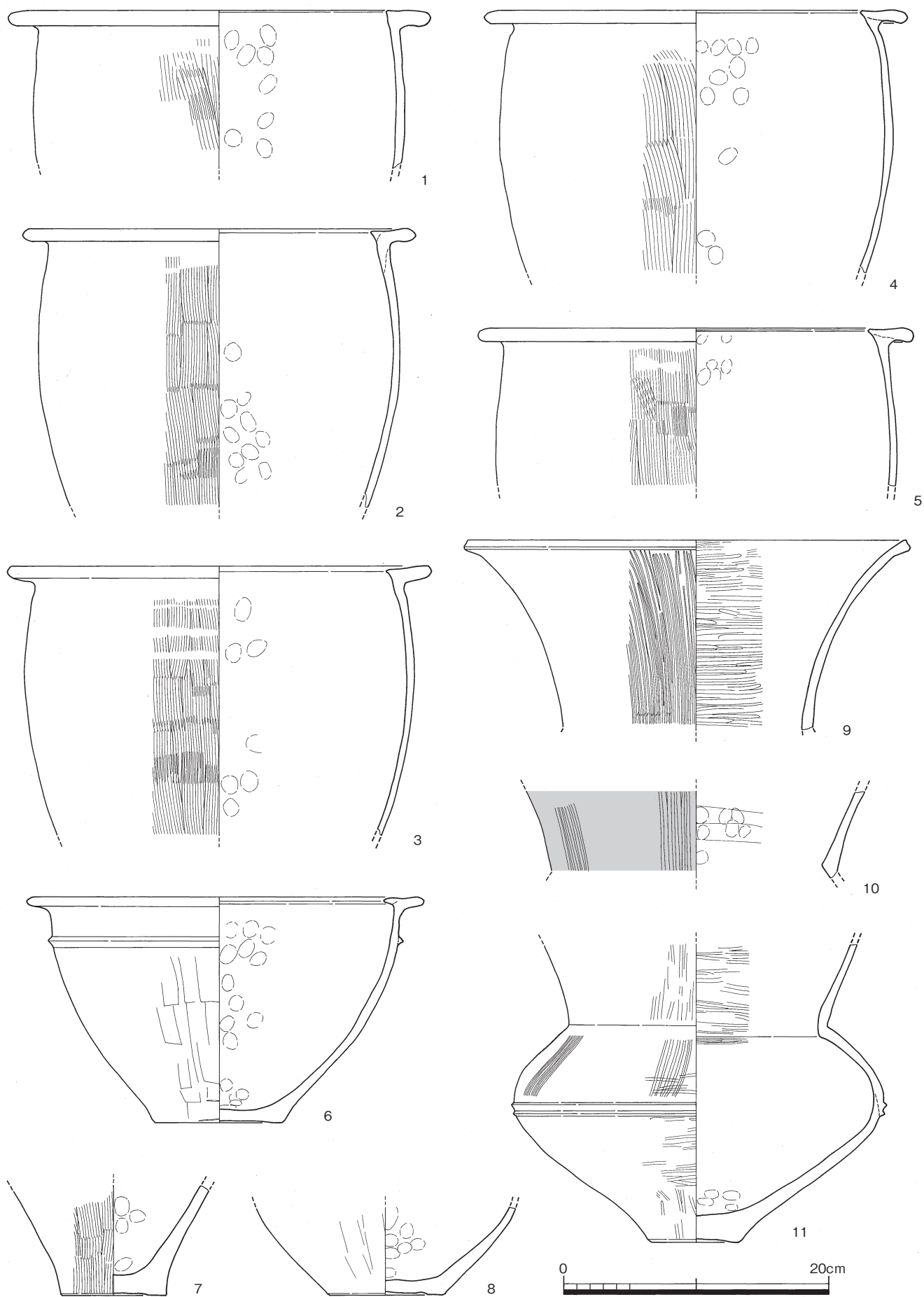


第 17 图 B 区 1 号祭祀土坑出土遺物実測図② (1/4)

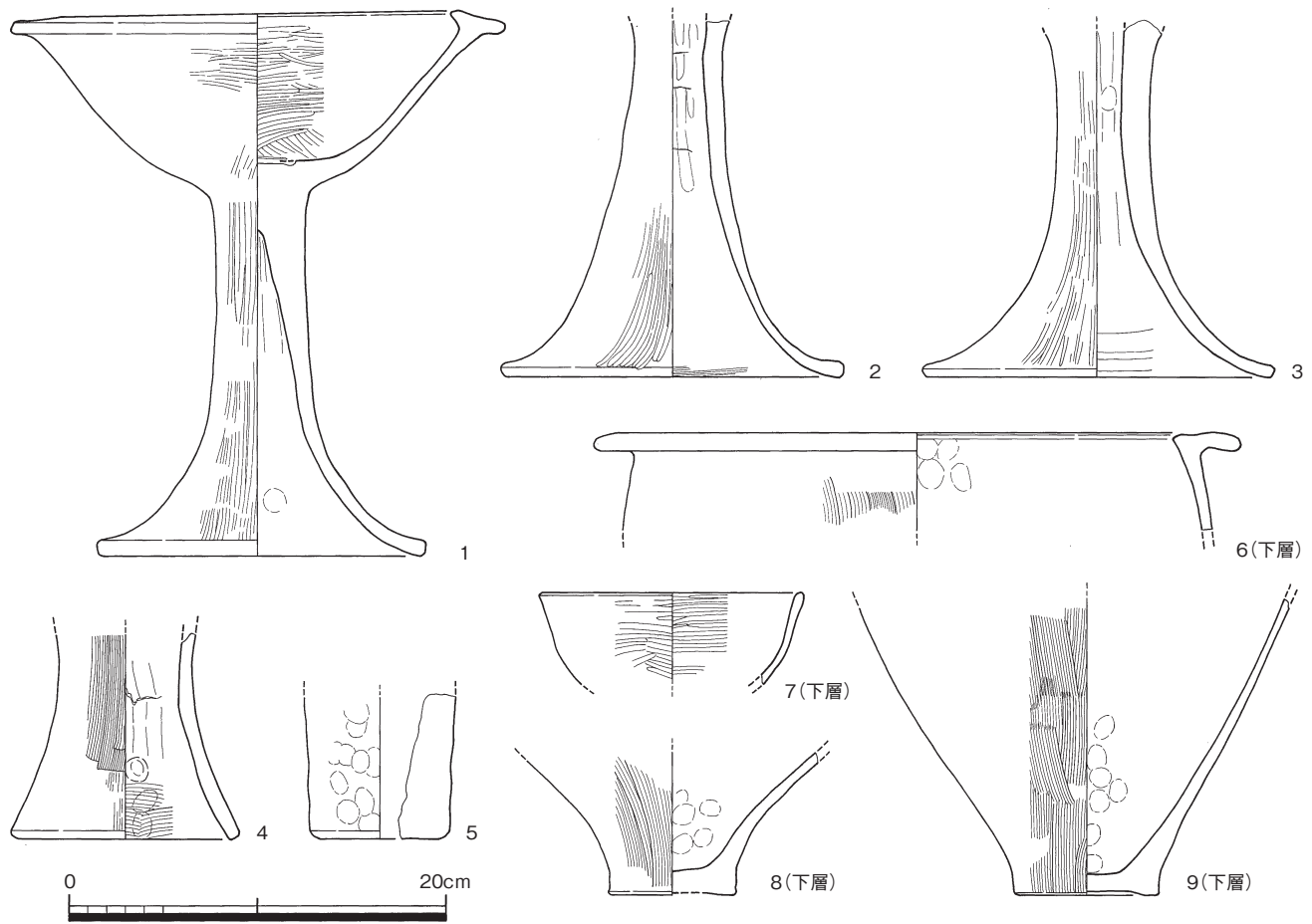
SF02 (30)



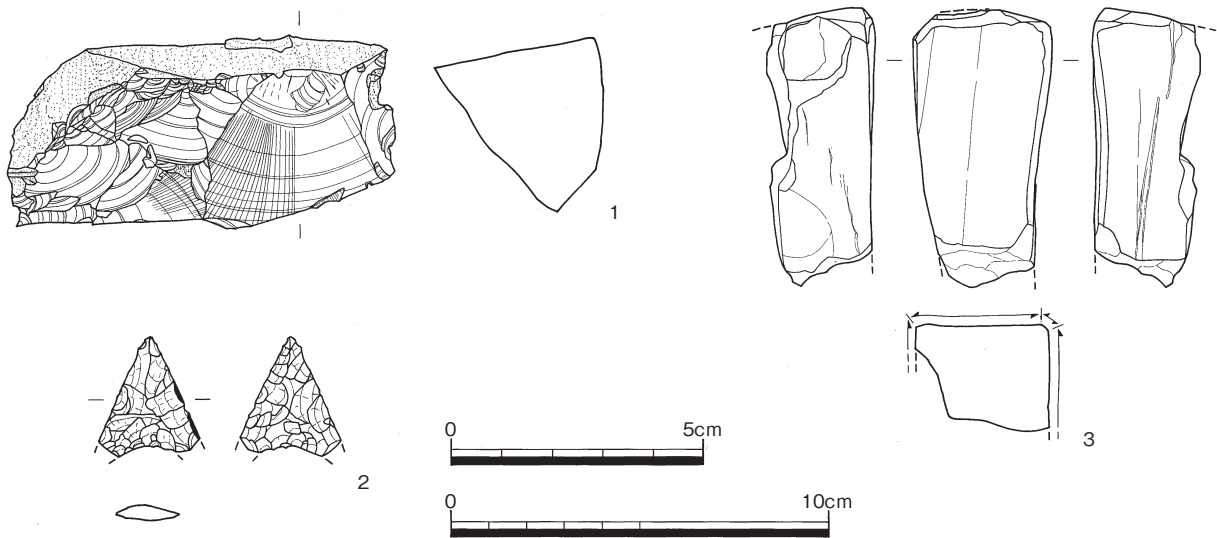
第18図 B区2号祭祀土坑遺構実測図(1/30)



第19图 B区2号祭祀土坑出土遗物实测图① (1/4)

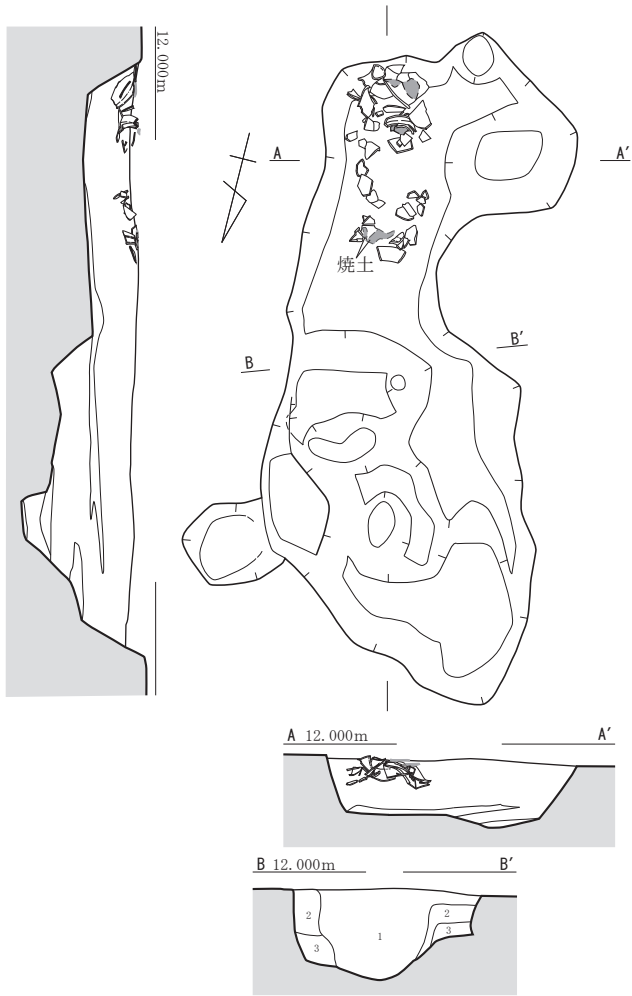


第20图 B区2号祭祀土坑出土遺物実測図②(1/4)



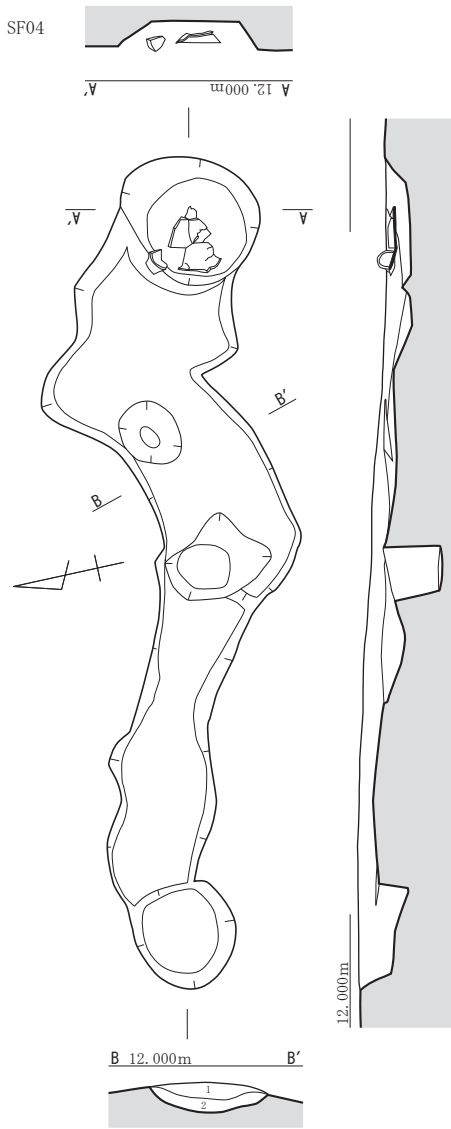
第21图 B区1号祭祀土坑出土石製品実測図(2/3[1,2]、1/2[3])

SF03



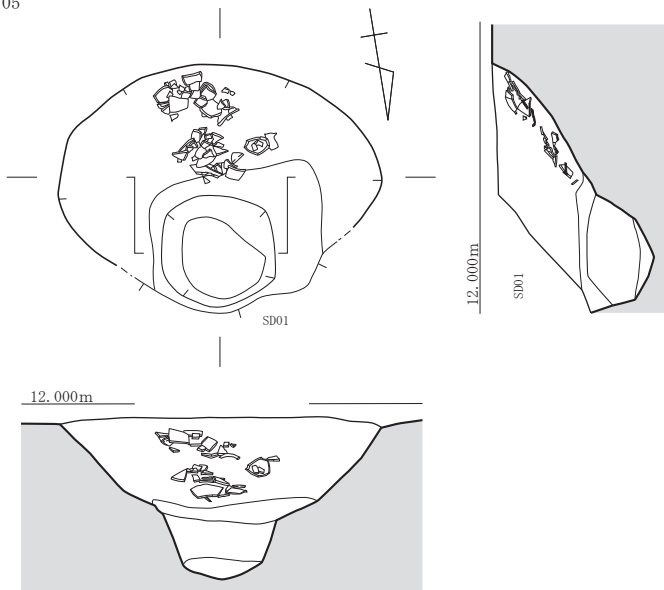
SD08 土層
 1 暗灰褐色土(5cm大×5cm大の黄褐色砂⁷ロクを多く含む。3mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
 2 褐色砂(3cm大の暗灰褐色土⁷ロクを少し含む。しまりあり。)
 3 褐色砂(砂層。)

SF04



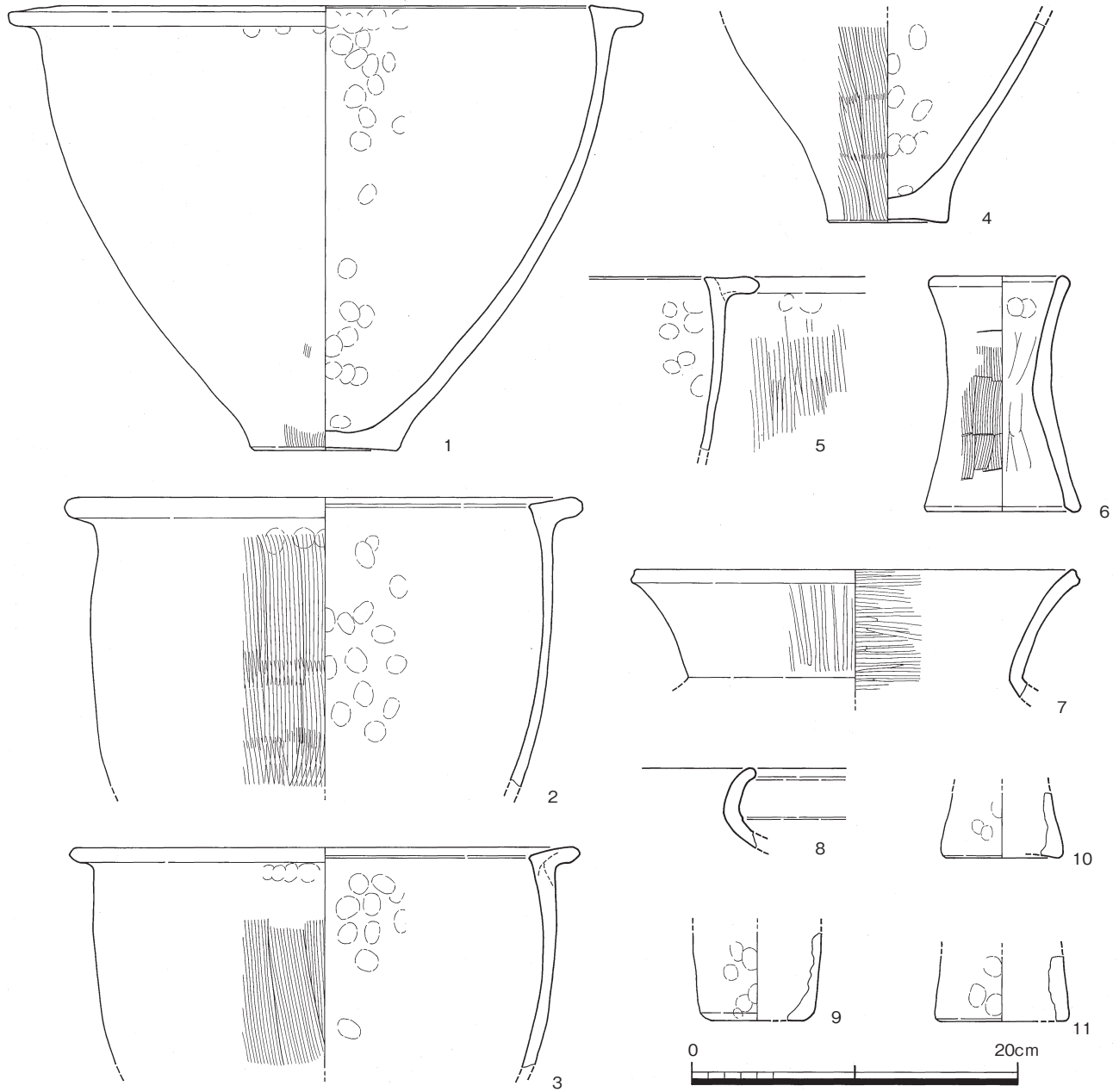
SF04 土層
 1 暗灰褐色土(1mm以下の微砂を多く含む。しまりあり。)
 2 褐色砂(暗灰褐色土を少し含む。砂質。)

SF05

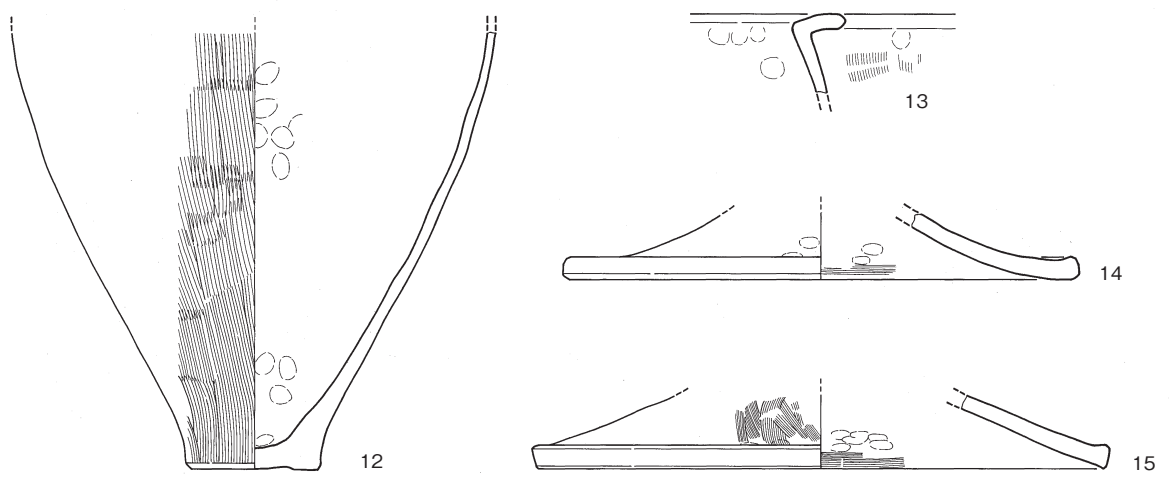


第22図 B区3~5号祭祀土坑遺構実測図(1/30)

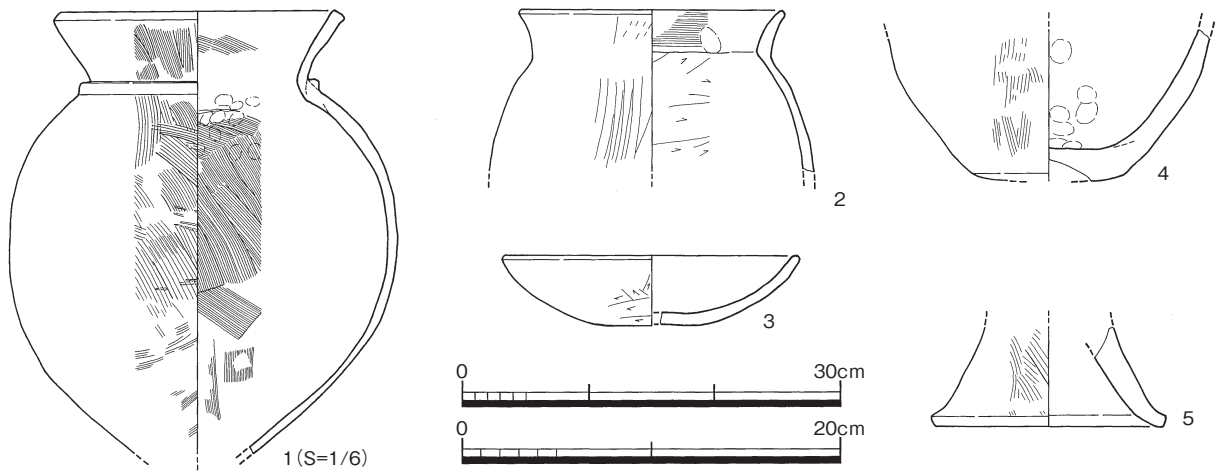
SF03



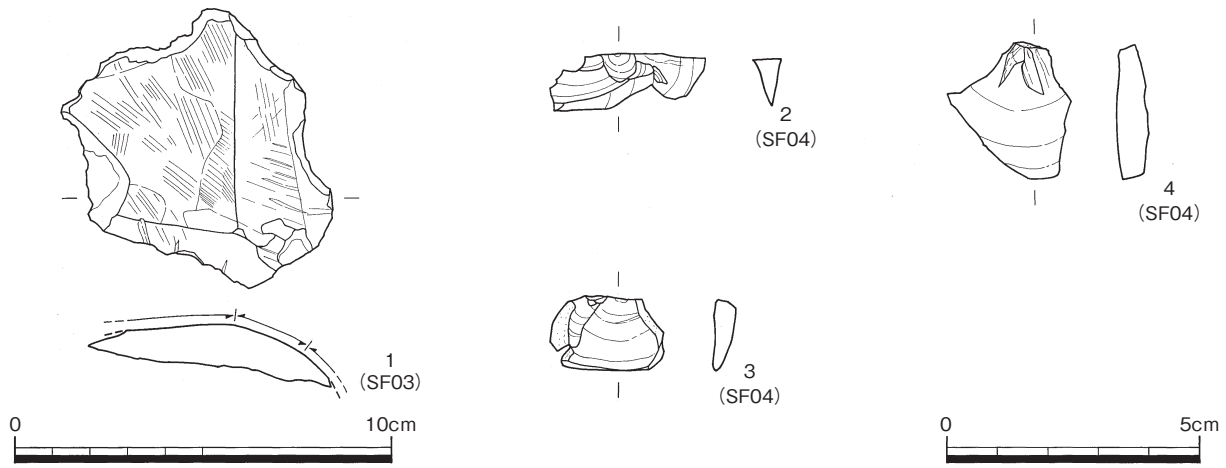
SF04



第23图 B区3・4号祭祀土坑出土遗物实测图(1/4)



第24図 B区5号祭祀土坑遺物実測図 (1/6[1]、他 1/4)



第25図 B区3・4号祭祀土坑出土石製品実測図 (1/2[1]、他 2/3)

B区		2号土坑		第26図/図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SF04
	楕円	楕円	2.35	1.93	0.32~0.63	N-8.5° - E	後	
出土遺物	土器[第29図/図版 -]				その他の遺物[第一図/図版 -]			
	2・4は瓦器碗で、高台は貼り付けである。時期は11世紀末~12世紀前半に比定される。				出土遺物なし			
概要	調査区中央で検出。埋土中上位の土坑中央より、残りの良い土器が出土。その他にも埋土中より多数の土器が出土。東側にテラス状の段を持つ土坑である。							

B区		3号土坑		第26図/図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円	楕円	1.92	1.73	0.26~0.73	N-9.5° - W	後	SD01
出土遺物	土器[第29図/図版 -]				その他の遺物[第一図/図版 -]			
	5は土師器の皿で上層からの出土である。時期は12世紀中頃までに埋没したと考えられる。				出土遺物なし			
概要	SK01同様、調査区中央で検出。SD01に北東側が一部切られる。西側にテラス状の段を持つ土坑である。							

B区		4号土坑		第26図/図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円	楕円	1.10	(1.05)	0.21	N-2° - W	後	SD01
出土遺物	土器[第29図/図版 -]				その他の遺物[第一図/図版 -]			
	7・8は甕である。時期は弥生時代中期中葉と比定される。				出土遺物なし			
概要	調査区北東で検出。SD01に北側が一部切られる。埋土中上位の土坑南側より、土器が出土。							

B区		5号土坑					第27図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円	楕円	1.47	0.90	0.26~0.63	N-38.5° - E	後			
出土遺物	土器[第29図/図版 -]					その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	10~12は甕である。弥生中期中葉と比定される。					出土遺物なし				
概要	調査区南西隅で検出。南西側にテラス状の段を持つ土坑である。									

B区		6号土坑					第27図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円?	楕円?	1.00	(0.41)	0.15	N-6° - E	後	SD02		
出土遺物	土器[第29図/図版 -]					その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	13・14は甕である。15は丹塗り高坏の破片である。時期は弥生中期中葉に比定される。					出土遺物なし				
概要	調査区南側中央で検出。SD02に北側が切られる。東隣には、SF01がある。									

B区		8号土坑					第27図/図版2		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD07		
	方形?	方形?	1.83	1.54	0.80~0.20	N-25.0° - E	後			
出土遺物	土器[第 - 図/図版 -]					その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	遺物の出土はあったが、図示することができなかった。					出土遺物なし				
概要	調査区中央で検出。南から北へ向かいテラス状の段を持つ土坑である。									

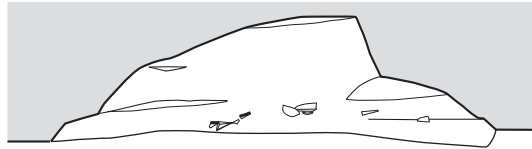
B区		9号土坑					第27図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円	楕円?	0.91	0.89	0.32	N-11.5° - E	後			
出土遺物	土器[第29図/図版 -]					その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	出土遺物はいずれも破片である。時期は弥生中期中葉か?					出土遺物なし				
概要	調査区北東隅で検出。土坑南側は掘りすぎたため不明。土坑中央に向かって徐々に深くなる。									

B区		11号土坑					第28図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	台形?	台形?	1.88	1.03	0.28~0.45	N-18.5° - W	後			
出土遺物	土器[第 - 図/図版 -]					その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	遺物の出土はあったが、図示することができなかった。					出土遺物なし				
概要	調査区南側中央で検出。東側にテラス状の段を持つ土坑である。									

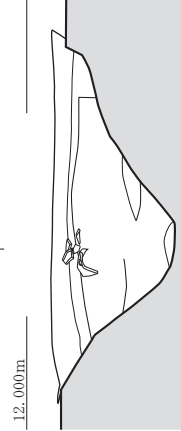
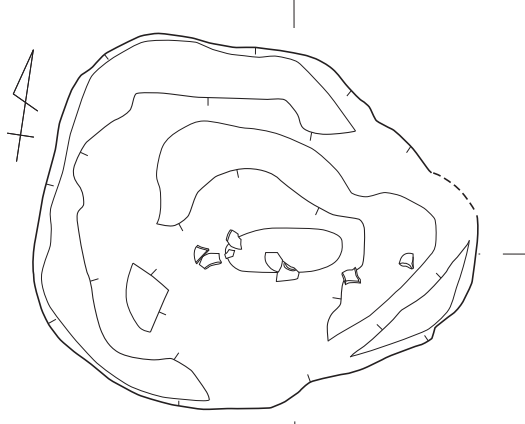
B区		12号土坑					第28図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円	楕円	1.29	0.85	0.11~0.57	N-33.5° - E	後	SD07		
出土遺物	土器[第29図/図版 -]					その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	出土遺物はいずれも破片である。時期は弥生中期中葉か?					出土遺物なし				
概要	調査区西側中央で検出。土坑は二段掘りされている。									

B区		13号土坑					第28図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円	楕円?	1.27	(1.20)	0.18~0.33	N-6.5° - E	後	SF05		
出土遺物	土器[第 - 図/図版 -]					その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	遺物の出土はあったが、図示することができなかった。					出土遺物なし				
概要	調査区西側隅で検出。テラスが土坑全体に広がり入り組んだ形をしている。									

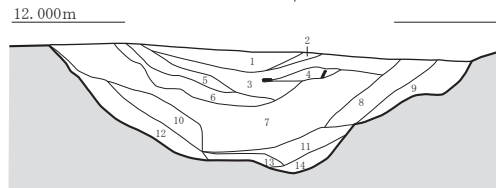
SK02



12.000m



12.000m



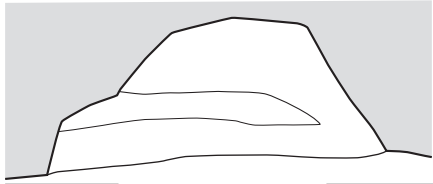
12.000m

SK02 土層

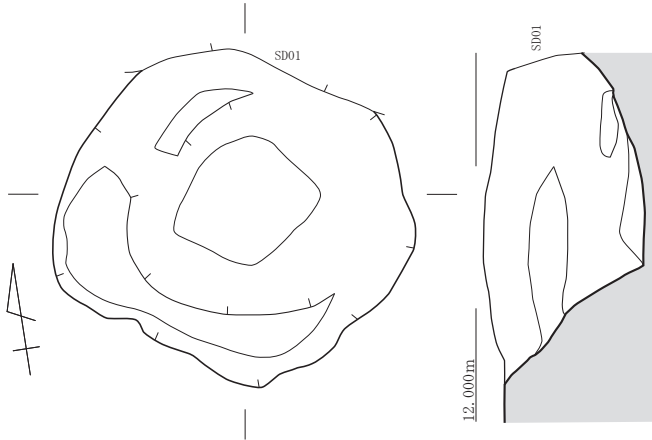
- 1 灰褐色土(1~3mm大の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 2 褐色砂(砂層。しまりあり。)
- 3 灰褐色土(1~3mm大の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 4 褐色砂(砂質。しまりあり。)
- 5 黄褐色砂(1~3cm大の灰褐色土ブロック少し混じる。)
- 6 暗灰褐色土(1mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)
- 7 暗灰褐色土(1~3mm大の砂粒をやや多く含みしまりあり。)
- 8 灰褐色土(褐色砂をやや多く含む。1mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)
- 9 茶褐色砂(砂質。しまりあり。)
- 10 灰褐色土(褐色砂をやや多く含む。1mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)
- 11 灰褐色土(褐色砂をやや多く含む。1mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)
- 12 明茶褐色砂(砂質。しまりあり。)
- 13 灰褐色土(1mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)
- 14 灰褐色土(茶褐色砂をやや多く含む。しまりあり。)

※土層より多数土器出土

SK03



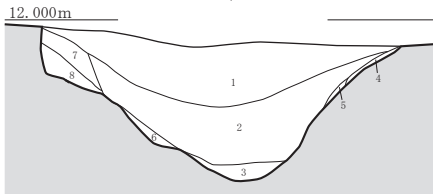
12.000m



SD01

SD02

12.000m



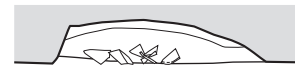
12.000m

SK03 土層

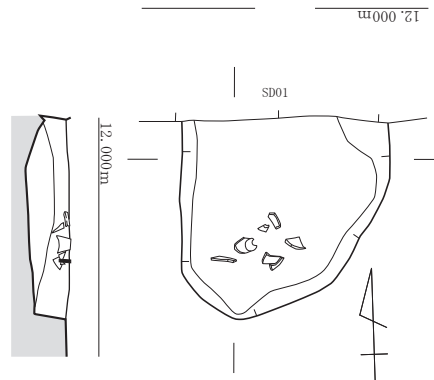
- 1 暗褐色土(1mm以下の微砂をやや多く含む。土器出土。やや粘質。しまりあり。)
- 2 灰褐色土(1mm以下の微砂をやや多く含む。土器出土。やや粘質。しまりあり。)
- 3 褐色砂(灰褐色のブロック(1cm大)少し混じる。しまりあり。やや砂が多く混じる。)
- 4 褐色砂(暗褐色土少し混じる。しまりあり。)
- 5 暗褐色砂(褐色土少し混じる。しまりあり。)
- 6 暗褐色土(灰褐色土少し混じる。しまりあり。)
- 7 灰褐色土(黄褐色土のブロック(3cm大)少し混じる。)
- 8 黄褐色土(灰褐色土のブロック(1cm大)少し混じる。)



SK04

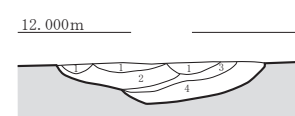


12.000m



SD01

12.000m



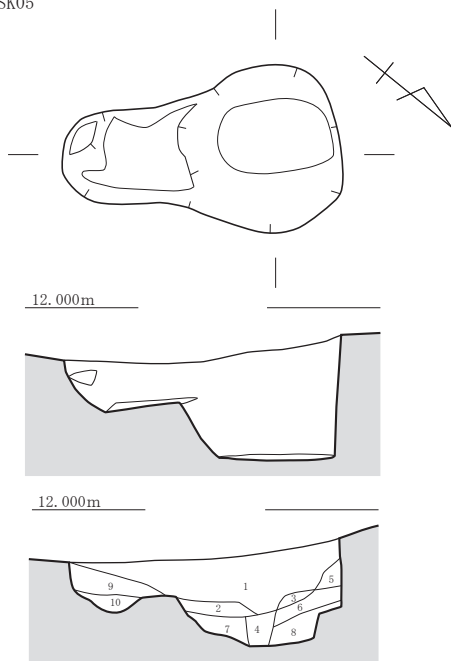
12.000m

SK04 土層

- 1 暗灰褐色土(1mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
- 2 黄褐色砂(暗灰褐色土(1層)が少し混じる。)
- 3 褐色土(1mm以下の微砂を多く含む。)
- 4 褐色砂(灰褐色土を少し含む。しまりあり。)

第26図 B区2~4号土坑遺構実測図(1/40)

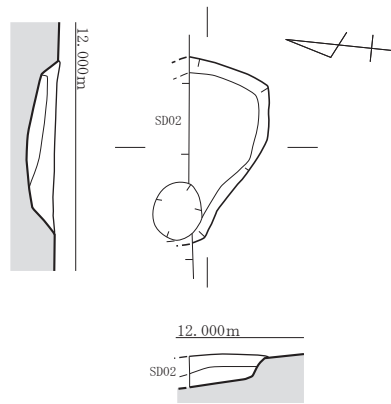
SK05



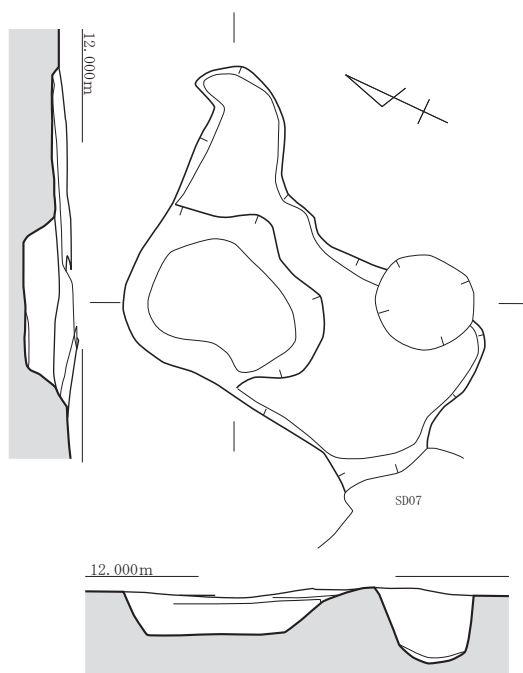
SK05 土層

- 1 暗灰褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 2 褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 3 黄褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 4 灰褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 5 黒褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 6 灰褐色土(1cm大黒褐色土のフックが少し混じる。1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 7 暗褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 8 褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。1cm大の灰褐色土のフックを少し含む。)
- 9 灰褐色土(黄褐色砂を少し含む。1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 10 褐色土(黄褐色砂を少し含む。1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)

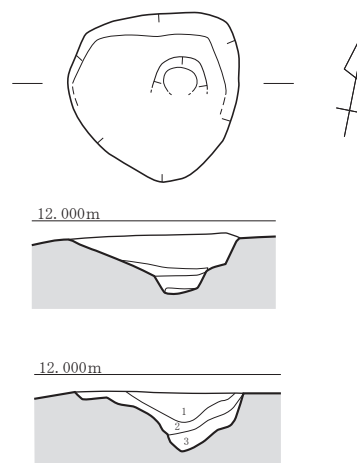
SK06



SK08



SK09

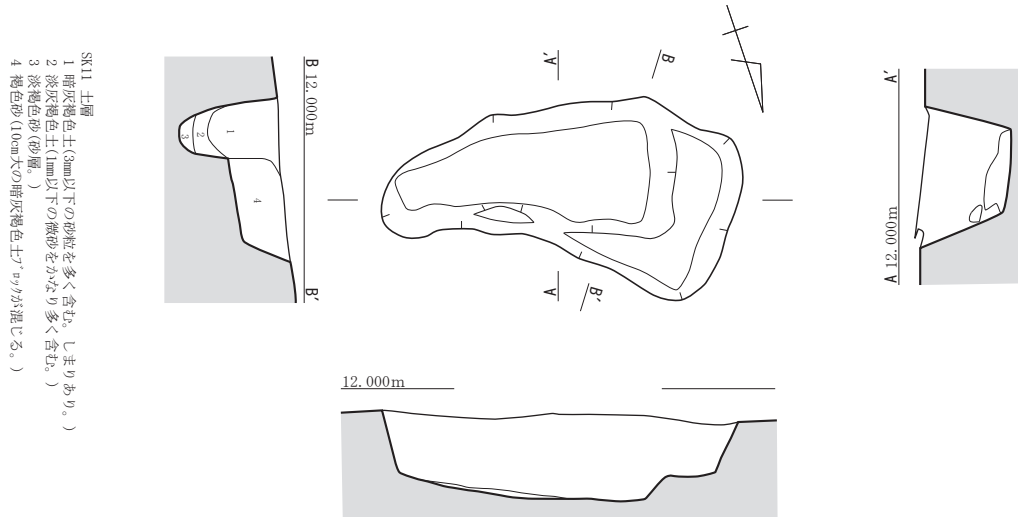


SK09 土層

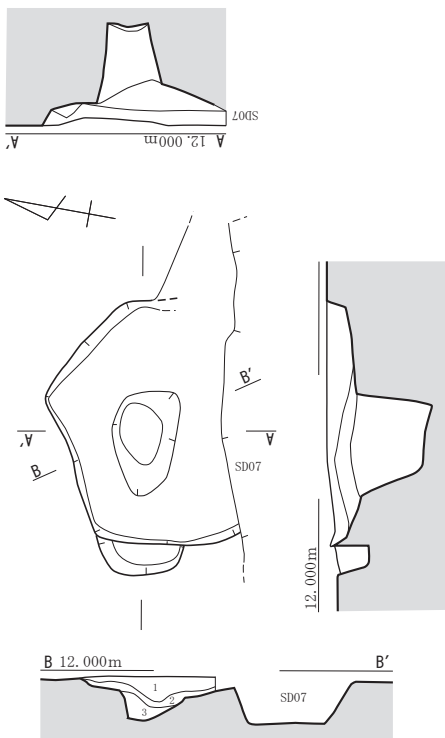
- 1 暗灰褐色土(1mm以下の微砂をやや多く含む。やや粘質。しまりあり。)
- 2 灰褐色土(1mm以下の微砂を多く含む。やや粘質。)
- 3 灰褐色土(2層より土の色は薄い。褐色砂少し混じる。)

第27図 B区5・6・8・9号土坑遺構実測図(1/40)

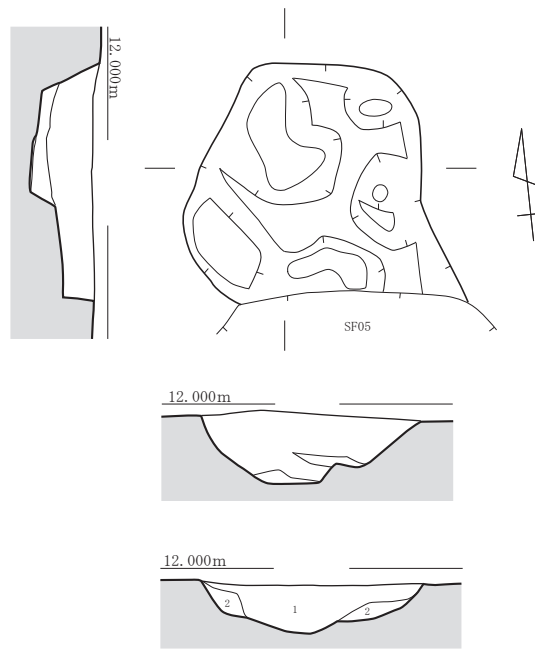
SK11



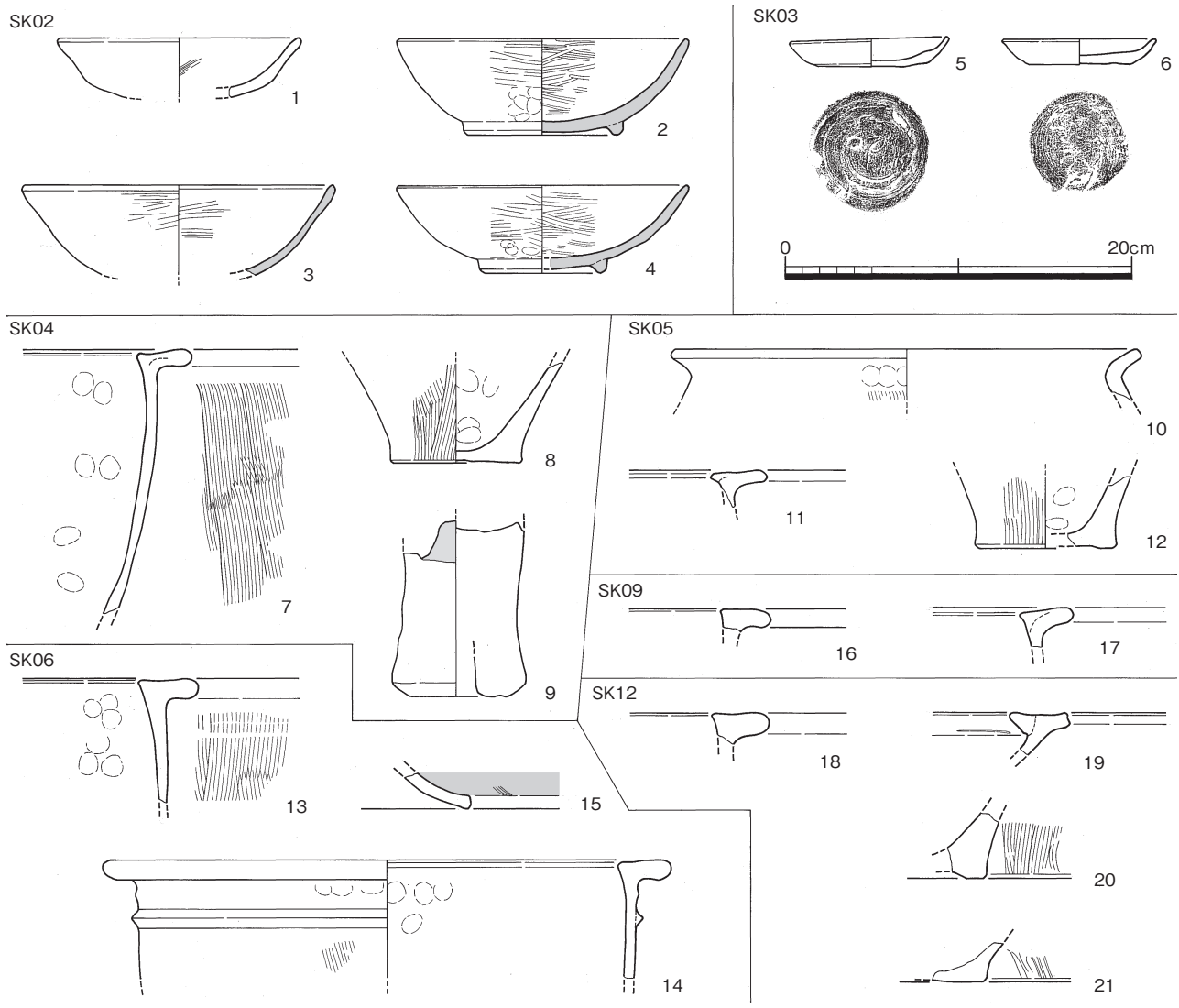
SK12



SK13



第28図 B区11~13号土坑遺構実測図(1/40)



第29图 B区2~6·9·12号土坑出土遗物实测图(1/4)

B区		1号溝			第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SF05、SK03・04	
	(11.95)	2.58	0.88~0.96	逆台形状	N - 73.5° - E	後		
出土遺物	土器[第31図/図版 -]				その他の遺物[第32図/図版8]			
	1は上層より出土。3は下層より出土である。時期は17世紀中頃と比定される。				不明鉄製品が出土。			
概要	調査区北側を東西方向に横断する溝である。溝の中央部付近より東側にかけては、調査区外に広がっている。							

B区		2号溝			第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SF01・02、SK06・11	
	(13.10)	0.25~0.54	0.30	逆台形状	N - 77° - E	後	SD03	
出土遺物	土器[第 - 図/図版 -]				その他の遺物[第 - 図/図版 -]			
	遺物の出土はあったが、図示することができなかった。				出土遺物なし			
概要	調査区南側を東西方向に横断した後、東側隅でSD03に沿って北へカーブする溝である。祭祀土坑を切っており、特に、SF01付近では埋土中より多量の弥生土器が出土した。おそらくSF01を一部削平して溝を掘ったと考えられる。							

B区		3号溝			第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	ST01、SD02・04	
	(5.99)	0.52~1.11	0.36	お椀形	N - 78.5° - E	後		
出土遺物	土器[第31図/図版 -]				その他の遺物[第 - 図/図版 -]			
	時期は17世紀後半以降と比定される。				出土遺物なし			
概要	調査区南東側隅を西側から東側にカーブした後、SD02の東側を切りながら南北方向に伸びる溝である。ST01も切っているため、ST01は上部を削平された状態で出土した。							

B区		4号溝			第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先		
	(0.67)	(0.61)	0.14~0.48	逆台形状	N - 73.5° - E	後	SD03	
出土遺物	土器[第31図/図版 -]				その他の遺物[第 - 図/図版 -]			
	時期は17世紀後半以降と比定される。				出土遺物なし			
概要	調査区南東側隅を南北方向に伸びる溝である。溝の大半をSD03に切られているため、全容は不明である。							

B区		5号溝			第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先		
	(1.20)	0.25	0.20	逆台形状	N - 77° - E	後		
出土遺物	土器[第 - 図/図版 -]				その他の遺物[第 - 図/図版 -]			
	遺物の出土はあったが、図示することができなかった。				出土遺物なし			
概要	調査区南側東よりから東側へのびる溝である。							

B区		7号溝			第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先		
	(3.65)	0.40~0.93	0.35	逆台形状	N - 78.5° - E	後		
出土遺物	土器[第31図/図版 -]				その他の遺物[第 - 図/図版 -]			
	いずれも細片であるが。時期は弥生中期中葉か。				出土遺物なし			
概要	調査区西側壁面より南東方向へのびる溝である。南東側が浅く、西側壁面に向かうにしたがい深くなる。							

5. ピット・その他

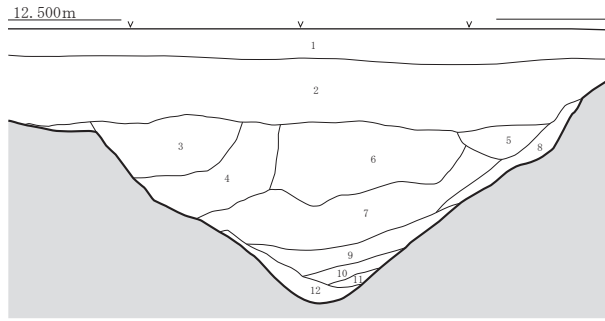
・ピット (P) (付図/一)

検出したピットは約30基である。多くのピットから遺物が出土したが図示できたピットはP004、P007、P034、P055のみである。

出土遺物 (第31・32図/一)

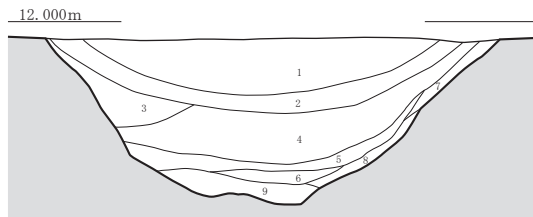
P004、P007は弥生土器甕である。いずれも中期中葉以降に比定される。P055は石錘である。

SD01 西壁土層



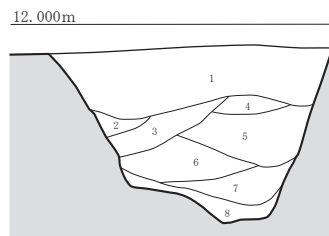
- SD01 西壁土層
- 1 灰褐色土(1mm大の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
 - 2 暗灰褐色土(1~2mm大の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
 - 3 灰褐色土(1~2mm大の微砂を少し含む。しまりあり。)
 - 4 暗灰褐色土(6層よりは色が薄い。1~2mm大の微砂を少し含む。しまりあり。)
 - 5 暗灰褐色土(2mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)
 - 6 暗灰褐色土(2mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。土器を含む。)
 - 7 灰褐色土(3mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
 - 8 暗灰褐色土(1mm大の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
 - 9 灰褐色土(3cm大の黄褐色ブロックを少し含む。しまりあり。)
 - 10 褐色砂(1mm大の微砂をやや多く含む。5cm大の灰褐色のブロックを少し含む。しまりあり。)
 - 11 灰褐色砂(砂層。しまりあり。)
 - 12 灰褐色土(1mm大の微砂をやや多く含む。しまりあり。)

SD01 中央土層



- SD01 中央土層
- 1 暗灰褐色土(3mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
 - 2 灰褐色土(10cm大の黄褐色ブロックを少し含む。1mm以下の微砂を多く含む。)
 - 3 暗灰褐色土(2mm以下の微砂をやや多く含む。)
 - 4 灰褐色土(3mm以下の微砂をやや多く含む。)
 - 5 灰褐色土(2mm以下の微砂を少し含む。)
 - 6 淡灰褐色土(1cm大の褐色砂ブロックを少し含む。1mm以下の微砂をやや多く含む。)
 - 7 茶褐色砂(灰褐色土が少し混じる。砂層。)
 - 8 灰褐色土(1mm以下の微砂を含む。)
 - 9 淡灰褐色砂(砂層。しまりあり。)

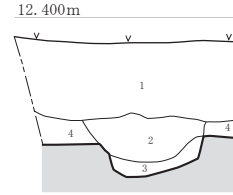
SD01 東側土層



- SD01 東側土層
- 1 暗灰褐色土(2mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
 - 2 暗茶褐色土(砂層。)
 - 3 暗灰褐色土(2mm以下の微砂を多く含む。)
 - 4 灰褐色土(4cm大の黄褐色土ブロックを少し含む。1mm以下の微砂を多く含む。)
 - 5 灰褐色土(2mm以下の微砂を多く含む。)
 - 6 淡灰褐色土(1mm以下の微砂を多く含む。)
 - 7 淡灰褐色土(2mm以下の微砂を多く含む。6層より薄い色の土。)
 - 8 褐色砂(砂層。しまりあり。)

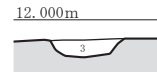


SD02 西壁土層



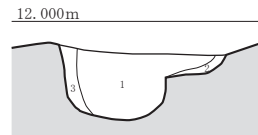
- SD02 西壁土層
- 1 淡灰褐色土(シルト。1mm以下の微砂をやや多く含む。やや粘質。しまりあり。)
 - 2 暗褐色土(シルト。1mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)
 - 3 暗灰褐色土(シルト。1mm以下の微砂を少し含む。やや粘質。しまりあり。)
 - 4 灰褐色土(黄褐色土のブロック(4cm大)少し含む。1mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)

SD02 ベルト土層



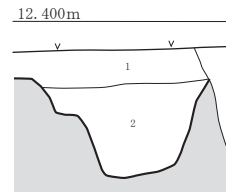
- SD02 ベルト土層
- 3 ※SD2西壁土層4と同じ。

SD03 ベルト土層



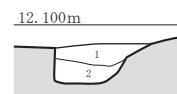
- SD03 土層 ベルト
- 1 灰褐色土(1mm以下の微砂を少し含む。やや粘質。しまりあり。)
 - 2 淡灰褐色土(1mm以下の微砂をわずかに含む。やや粘質。しまりあり。)
 - 3 黄褐色砂(淡灰褐色土少し混じる。砂質。しまりあり。)

SD04 南壁土層



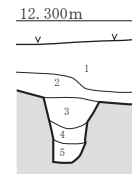
- SD04 土層 南壁
- 1 淡灰褐色土(3mm以下の砂粒を多く含む。しまりあり。)
 - 2 灰褐色土(SD03の1層よりやや濃い土。3mm以下の砂粒をやや多く含む。やや粘質。しまりあり。)

SD05 南壁土層



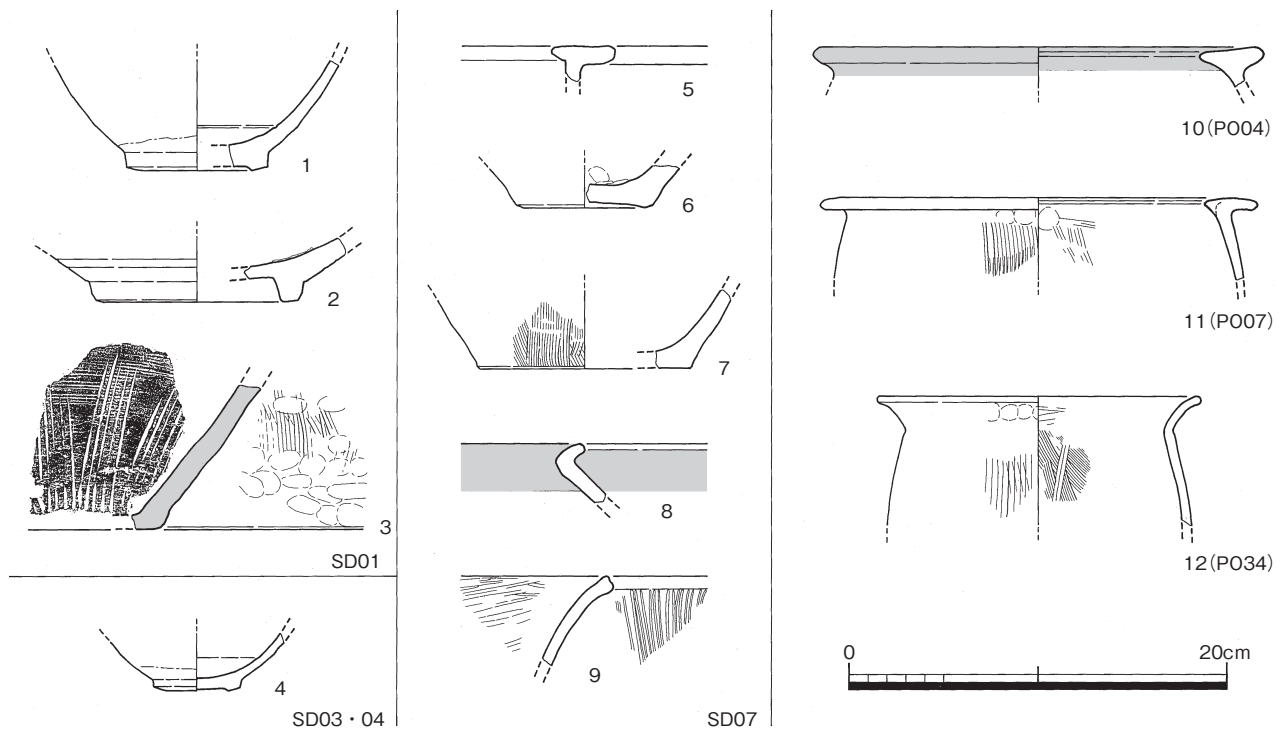
- SD05 土層 南壁
- 1 暗灰褐色土(3mm以下の砂粒を少し含む。3cm大の黄褐色ブロックをわずかに含む。やや粘質。しまりあり。)
 - 2 灰褐色土(褐色の砂が少し混じる。1mm以下の微砂をわずかに含む。しまりあり。)

SD07 土層

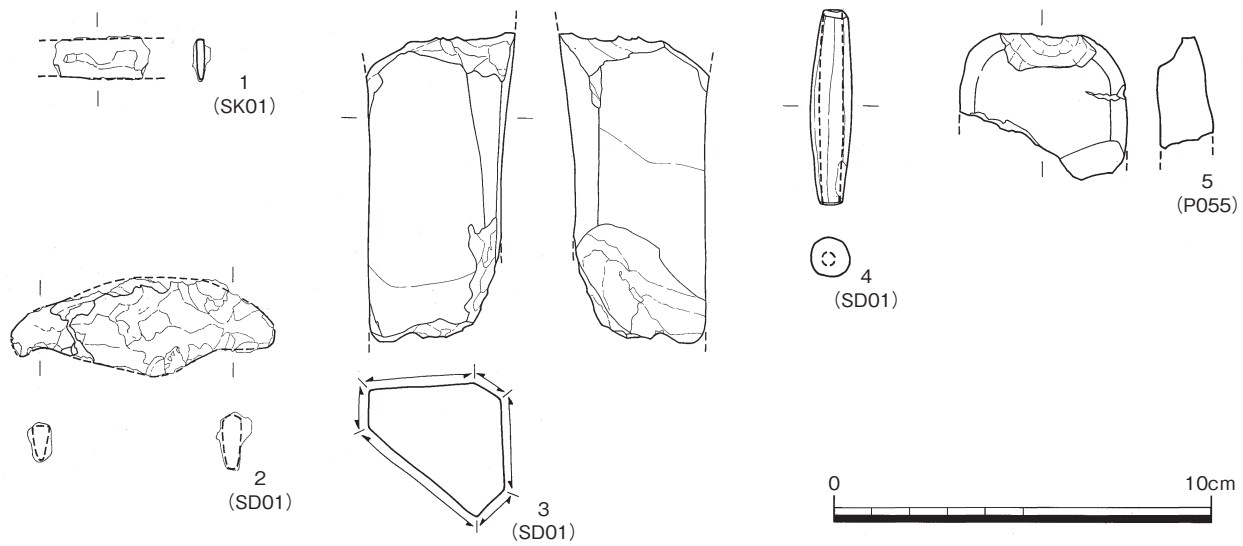


- SD07 土層
- 1 暗灰褐色土
 - 2 暗灰褐色土(3cm大の黄褐色土ブロックを少し含む。)
 - 3 灰褐色土(3mm以下の砂粒をやや多く含む。)
 - 4 褐色砂(2mm以下の砂粒を多く含む。砂層。しまりあり。)
 - 5 暗灰褐色砂(1mm以下の微砂を多く含む。砂層。しまりあり。)

第30図 B区1~5・7号溝遺構実測図(1/40)



第3 1 図 B区溝、ピット出土遺物実測図 (1/4)



第3 2 図 B区土坑、溝、ピット出土石製品・土製品・金属製品実測図 (1/2)

第6章 C区の遺構と遺物

C区で検出した遺構は住居跡17基、土坑21基、周溝状遺構1基、溝13条、その他ピット約140基である。以下、表形式で報告する。表についての留意点は第3章2を参照。

C区		2号住居跡							第33図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形?	あり	(2.34)	(2.14)	0.08	0.08	—	—	N-75.5°-E		SC04
出土遺物	土器[第38図/図版-]							その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	出土遺物は貼床埋土中より甕底部が出土している。時期は弥生中期後葉に比定される。周辺住居との先後関係より、遺構の時期は弥生後期末～古墳初頭以降であろう。							出土遺物なし				
概要	南側は表土剥ぎ時に上層を下げすぎ、西側は調査区外へ広がる為全容は不明。検出できたのは、東側から南側にかけての貼床で、露呈している状態で検出した。主柱穴は不明。下層掘り込みは北側に幅20cm前後のテラス状をもつ。											

C区		3号住居跡							第33図/図版2、3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形	あり	(1.68)	(1.50)	0.20	0.12	—	—	N-21.5°-E		SC04
出土遺物	土器[第38図/図版6]							その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	3は甕の底部である。外面下半はケリ調整、胴部はタタをナゲ消している。弥生終末期～古墳の初頭に比定できよう。							出土遺物なし				
概要	調査区北端東側で住居のコーナ部分を検出。全容は不明である。貼床と考えられる硬化する面を確認できたが、他の住居に比べやや軟質である。下層遺構は、コーナ部分にテラス状の段をもつ。											

C区		4号住居跡							第33図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形	あり	4.24	(3.56)	0.10	0.12	—	—	N-35°W		SD03、SC02・03・10
出土遺物	土器[第38図/図版5]							その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	SC02・03同様、弥生中期の遺物が混じるが、弥生終末期～古墳の初頭に比定できよう。図示可能な同時期の遺物は9のみであった。9は直頸の壺か?外面はタタ後の調整。							出土遺物なし				
概要	南側を表土剥ぎ時に下げすぎ、一部貼床が露呈。住居東側は調査区外へと広がる。貼床面にて、土器が出土している(第38図-9)。主柱穴は不明である。下層遺構は北側と南東側に掘り込みを持つ。											

C区		5号住居跡							第33図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形	あり	(2.12)	(1.96)	0.16	0.12	1	—	N-24°-E		SD03、SK04・03
出土遺物	土器[第38図/図版-]							その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	出土遺物から弥生中期後葉～末に比定される。が、住居の構造からは、弥生終末～古墳初頭の可能性も否定できない。							出土遺物なし				
概要	上層を表土剥ぎ時に下げすぎ、また住居の大半が調査区外へと広がる為、全容は不明である。主柱穴は貼床面で検出できた。											

C区		6号住居跡							第34図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形	あり	4.40	(3.70)	0.12	0.06	4	—	N-74°-E		SD01・02、SK09
出土遺物	土器[第38図/図版-]							その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	出土遺物の時期は弥生中期後葉と考えられるが、周辺の遺構より弥生終末～古墳初頭以降の可能性も否定できない。							出土遺物なし				
概要	上層を表土剥ぎ時に下げすぎたため、貼床が一部露呈している状態で検出した。											

C区		7号住居跡							第34図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形?	—	3.74	(0.92)	(0.10)		—	—	N-79.5°-W		SD11
出土遺物	土器[第-図/図版-]							その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	出土遺物は少量で支脚や甕底部片などが出土。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期中葉以降であろう。							出土遺物なし				
概要	北側が調査区外へ広がる為、詳細は不明である。貼床も確認できなかった。											

C区		8号住居跡							第34図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01・04	
	長方形	—	3.22	(2.92)	(0.20)		—	—	N-5°-W	後		
出土遺物	土器[第38図/図版 -]							その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	外面の後向きを施す壺や鉢、刃後の調整の甕などが出土している。弥生終末～古墳初頭と比定されよう。							出土遺物なし				
概要	表土剥ぎ、及び雨天後の精査段階で上層を掘り過ぎ、南側がSD01によって切られるため、全容は不明である。											

C区		9号住居跡							第35図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01・02・03	
	方形	あり	5.32	5.22	0.14	0.06	3	—	N-47.5°-E	後	SC20、SD13	
出土遺物	土器[第39図/図版5、7]							その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	多くの遺物が出土。底部が丸みを帯びる平底甕や持ち手を持つ支脚などが出土している。弥生終末～古墳初頭に比定される。							出土遺物なし				
概要	東側を表土剥ぎに時に下げすぎでおり上層は不明な点が多い。西側で、土坑状遺構に多くの遺物が出土している。また、北側では貼床面で多くの遺物を確認した。下層掘り込みは東側において顕著である。											

C区		10号住居跡							第35図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD03、SC02、SK07	
	方形	あり	(4.26)	(3.20)	0.10	0.10	2	—	N-7.5°-E	後	SC04	
出土遺物	土器[第 - 図/図版 -]							その他の遺物[第42図/図版 -]				
	出土遺物は少量の弥生中期後葉の土器細片が出土しているが、先後関係より住居はこの時期ではないと考える。							1は石製の投弾が出土している。				
概要	表土剥ぎ時に特に西側を下げすぎ、貼床を露呈している状態で検出した。また、多くの遺構に切られるため、全容は不明である。南東から、北東方向にかけて'ット'状遺構の構を検出したが、検出できた箇所がわずかで、雨天後の精査で削平してしまい図化することができなかった。											

C区		11号住居跡							第36図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SK07、SC13、P022など	
	方形	あり	(4.60)	(2.96)	0.12	0.12	—	—	N-8.5°-W	後		
出土遺物	土器[第 - 図/図版 -]							その他の遺物[第42図/図版 -]				
	出土遺物は貼床下層からの出土である。時期は弥生中期後葉。住居の時期はこれ以降であろう。							3は石剣である。住居上層より出土で未成品である。				
概要	10号住居同様、表土剥ぎ時に西側を下げすぎ、貼床が露呈している状態で検出した。また、他遺構に切られるため、全容は不明である。											

C区		12号住居跡							第36図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01・04、P029他	
	方形?	あり	4.60	(3.60)	0.10	0.22	—	—	N-70°-W	後		
出土遺物	土器[第39～41図/図5～7版]							その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	非常に多くの遺物が出土している。甕や壺、鉢、器台、支脚などバリエーションに富んでいる。時期は弥生終末～古墳初頭であろう。							出土遺物なし				
概要	表土剥ぎ時に住居東側を下げすぎ、貼床が露呈している状態で検出。住居中央部より西側において上層から貼床面まで大量の土器が確認できた。住居廃棄時に土器も一括して廃棄したと考える。住居西側では、地山をそのまま利用したと考えられるベッド状遺構を確認した。下層掘り込みは、西より南側方向に向けて、溝状の掘り込みを確認している。											

C区		13号住居跡							第36図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SK06	
	方形	—	(2.40)	(1.20)	(0.04)		—	—	N-8.5°-W	後	SC11	
出土遺物	土器[第 - 図/図版 -]							その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	遺物は出土しなかった。							出土遺物なし				
概要	上層を表土剥ぎ時に掘りすぎ、住居西側は調査区外へと広がるため、全容不明である。											

C区		14号住居跡							第37図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ		主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD06	
	方形?	—	(2.74)	(1.18)	(0.44)		—	—	N-17.5°-E	後	SC15	
出土遺物	土器[第 - 図/図版 -]							その他の遺物[第 - 図/図版 -]				
	少量の遺物が出土している。弥生後期中葉の遺物が混じるが終末～古墳初頭であろう。							出土遺物なし				
概要	東側をSD06に切られ、南側は調査区外へと広がるため詳細不明である。											

C区		15号住居跡							第37図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SC14、その他柱穴		
	方形?	—	(2.66)	(2.26)	(0.10)	—	—	N-5°-E	後			
出土遺物	土器[第-図/図版-]							その他の遺物[第-図/図版-]				
	出土遺物は図示するに至らなかったが、いずれも弥生終末~古墳初頭に比定される。							出土遺物なし				
概要	東側をSC15に切られ、南側は調査区外へと広がる。全容は不明である。											

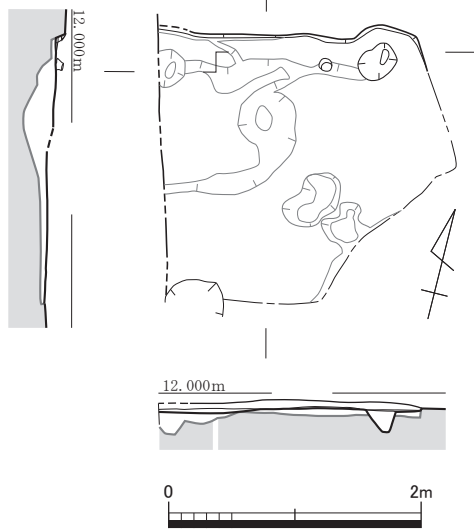
C区		16号住居跡							第37図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02		
	方形?	—	3.84	(0.78)	(0.04)	—	—	N-82°-E	後			
出土遺物	土器[第-図/図版-]							その他の遺物[第-図/図版-]				
	遺物の出土は少量で、弥生中期後葉以降であろう。							出土遺物なし				
概要	北側をSD02にきられ、南側は調査区外へと広がるため、全容は不明である。											

C区		17号住居跡							第37図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01		
	方形	—	(1.44)	(1.30)	(0.14)	—	—	N-25.5°-E	後			
出土遺物	土器[第-図/図版-]							その他の遺物[第-図/図版-]				
	弥生土器細片が微量に出土している。											
概要	検出できたのは住居コーナー部分である。SD01に切られ、全容は不明である。											

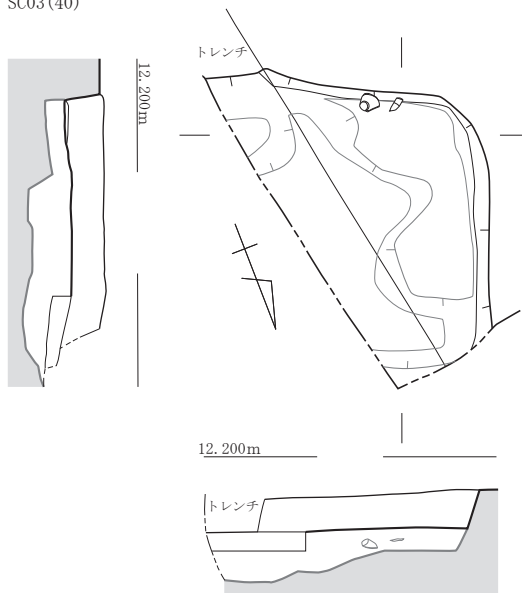
C区		20号住居跡							第37図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01・02、SC09		
	方形	あり	4.42	(3.12)		—	炉か?	N-23°-E	後			
出土遺物	土器[第38図/図版-]							その他の遺物[第42図/図版-]				
	外面に外装調整された支脚、甕などが出土している。じきは弥生終末~古墳初頭に比定される。							4は砥石である。				
概要	南側をSD02に、東側をSC09に切られる。住居北西で東側をSC09に切られるが、ベッド状遺構を検出。南北1m、東西2.2m(残存状況)である。西端で焼土・炭を検出した。炉跡かと考えられる。下層掘り込みは住居全体に及び、土坑状の掘り込みを検出した。											

C区		21号住居跡							第37図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先			
	方形?	なし	(1.5)	(0.74)	(0.3)	—		N-77.5°-E	後			
出土遺物	土器[第-図/図版-]							その他の遺物[第-図/図版-]				
	少量の弥生土器片が出土した。時期は弥生中期~後期の土器片である。いずれも図示することができなかった。							出土遺物なし				
概要	住居コーナー部分を検出した。南側が調査区外へと広がるため詳細は不明で、8号土坑としたが、隣接する小板井屋敷遺跡6(H25年度調査)の調査結果より、住居であったことが判明した。											

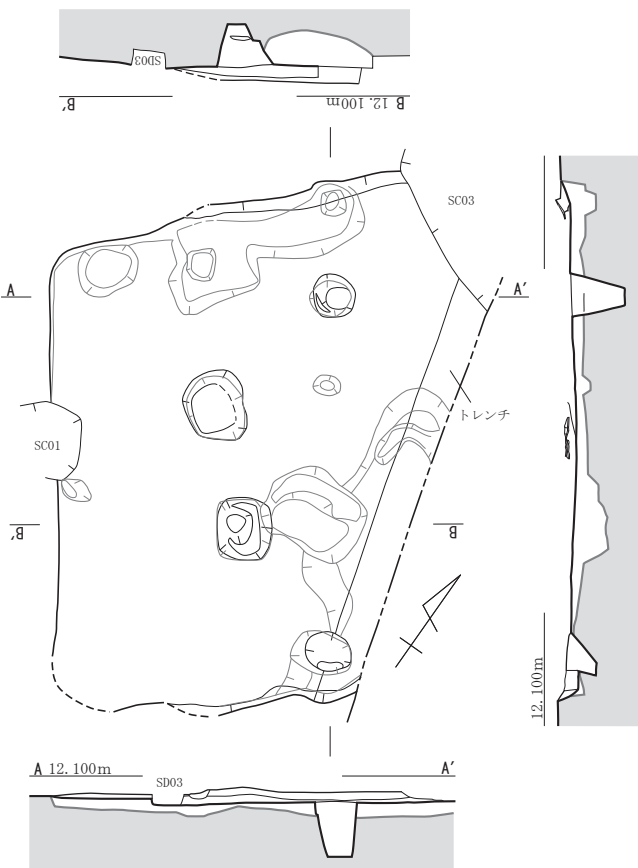
SC02 (60)



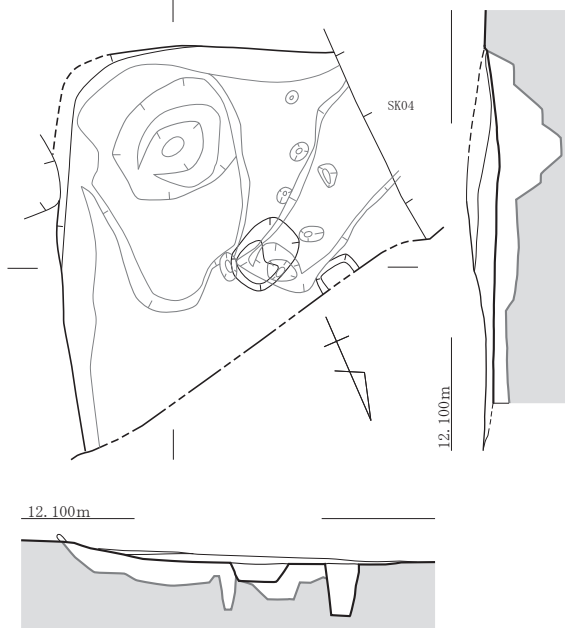
SC03 (40)



SC04 (60)

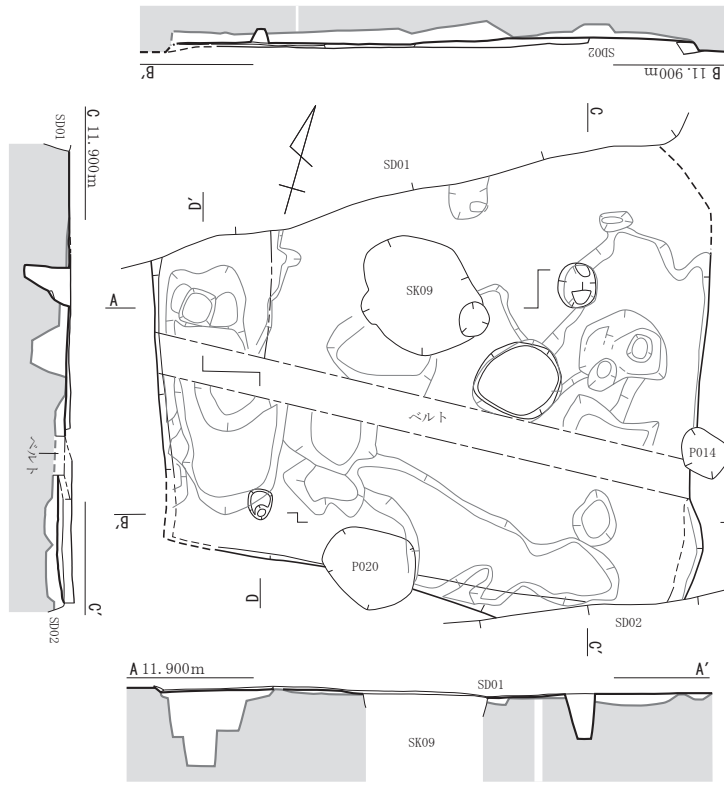


SC05 (40)

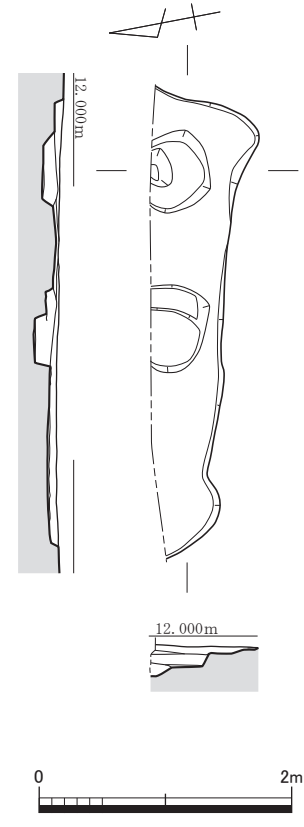


第 3 3 図 C 区 2 ~ 5 号住居跡遺構実測図 (2,4 は 1/60、3,5 は 1/40)

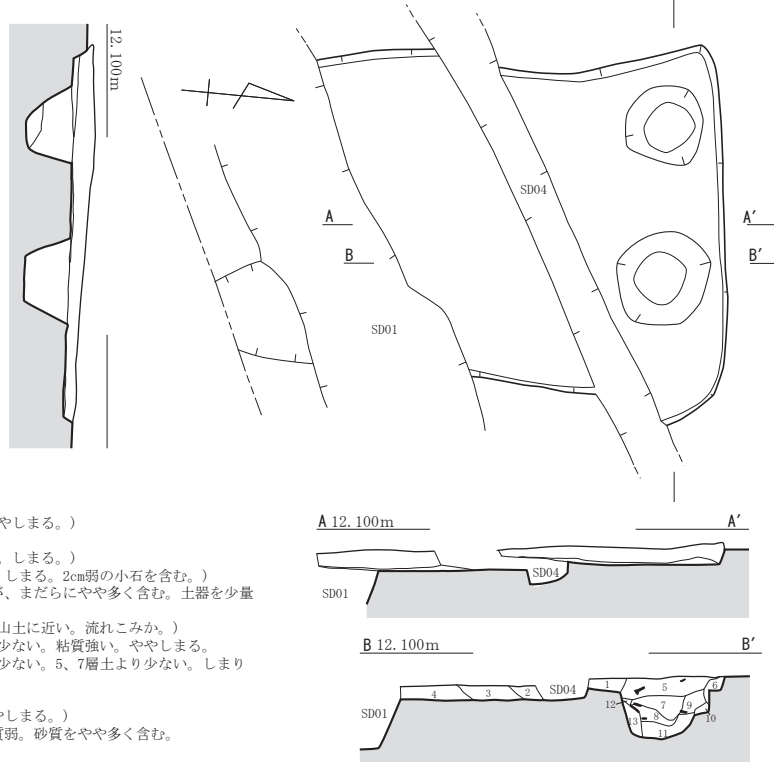
SC06 (80)



SC07 (60)



SC08 (60)

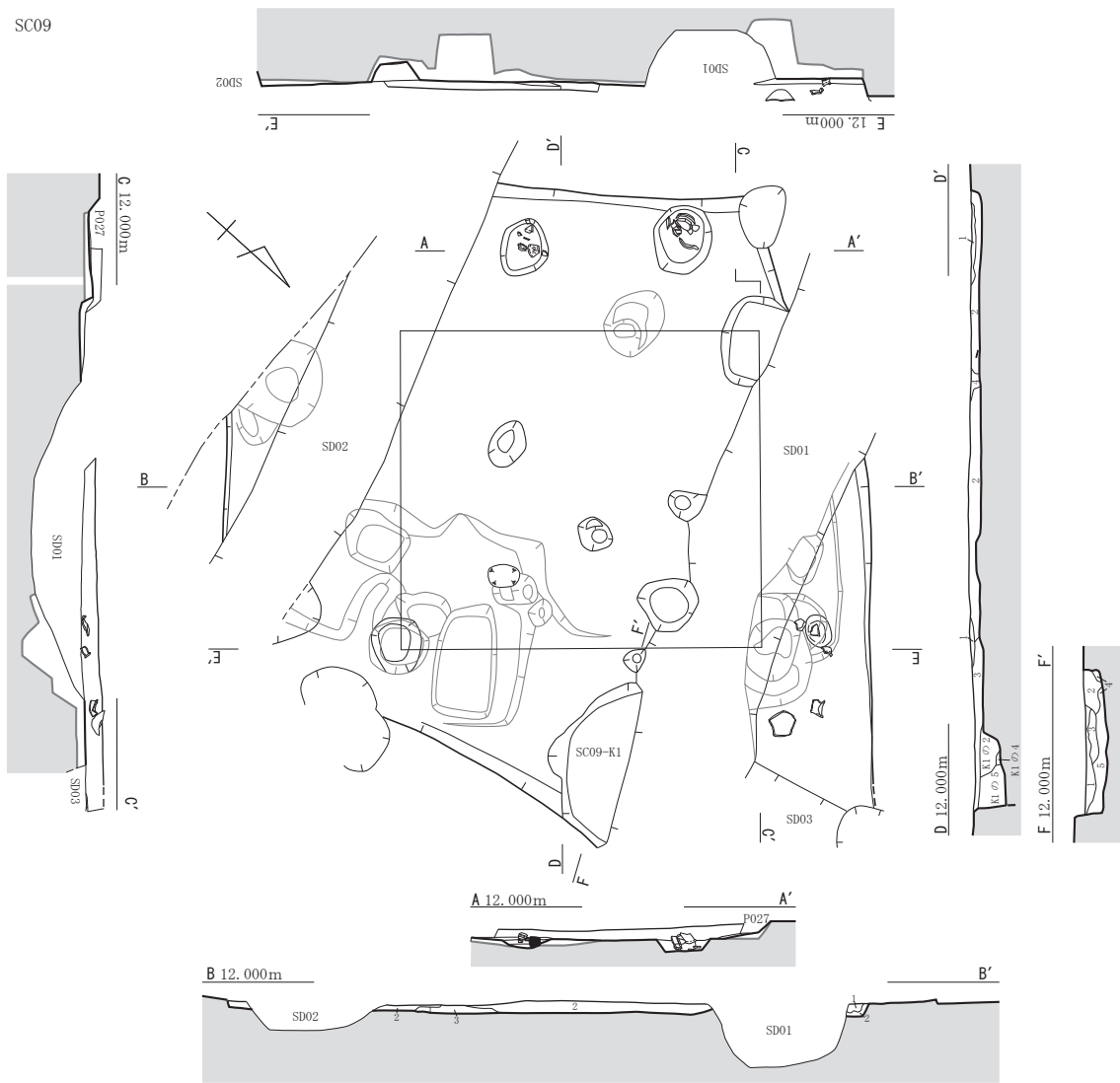


SC08

- 1 淡黒褐色+灰黄色砂質土アロック混じり土(ややしまる。)
- 2 暗黄色砂質土(しまりあり。)
- 3 灰黄色砂質土(灰褐色粘質弱を均質に含む。しまる。)
- 4 灰黄色砂質土(灰褐色アロック土を多く含む。しまる。2cm弱の小石を含む。)
- 5 暗灰褐色土(淡黒褐色、灰黄砂質アロック土が、まだらにやや多く含む。土器を少量含む。粘質弱。)
- 6 黄茶褐色砂質土(目粗い、ややしまる。地山土に近い、流れこみか。)
- 7 暗灰褐色土(5層土に近くアロックの混じりが少ない、粘質強い、ややしまる。)
- 8 暗灰褐色土(5層土に近くアロックの混じりが少ない。5、7層土より少ない。しまりゆるい。)
- 9 暗灰色土(粘質あり。砂質を少量含む。)
- 10 淡灰色土(淡黄褐色粘質アロックを含む。ややしまる。)
- 11 暗灰色土(9層土に近い。しまりなし。粘質弱。砂質をやや多く含む。)
- 12 淡黄灰色砂質土(しまる。砂やや粗い。)
- 13 暗黄灰色砂質土(しまる。やや粘質混じる。)

第34図 C区6~8号住居跡遺構実測図(6は1/80、7,8は1/60)

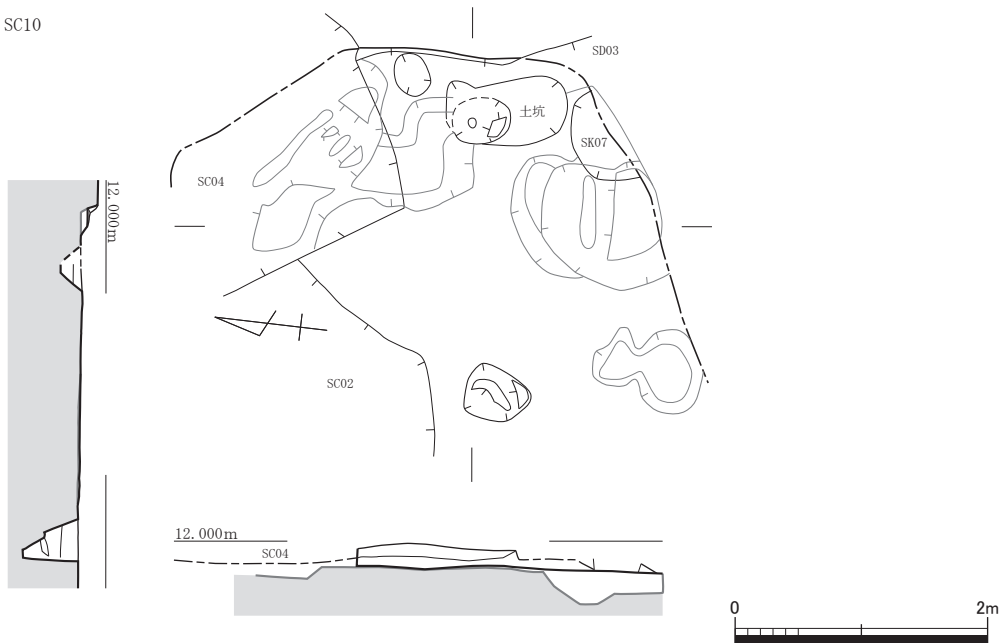
SC09



- SC09
- 1 暗灰褐色土 (粘質弱。しまりなし。)
 - 2 暗灰褐色土 (黄褐色ブロック・茶褐色地山ブロックを少量含む。ややしまる。粘質弱)
 - 3 暗灰褐色土+黄褐色ブロック土の混じり土 (やや固くしまる。)
 - 4 黒褐色土 (黄褐色地山土を粒子状に多く含む。)

- SC09-K1 (F-F')
- 1 暗灰褐色土 (1cm大の茶褐色ブロックをやや多く含む。黄褐色地山ブロックを粒子状に少量含む。粘質あり。しまりなし。)
 - 2 暗灰褐色土 (3cm大の黄褐色地山ブロックをやや多く含む。茶褐色地山を非常に多く含む。炭化物微量。粘質あり。しまりなし。)
 - 3 明灰褐色土+茶褐色地山土の混じり (炭化物を少量含む。粘質あり。)
 - 4 黄褐色地山+明灰褐色地山土の混じり土 (やや固くしまる)
 - 5 灰褐色土+黄褐色地山土+茶褐色のブロック土 (均一に混じる。固くしまる。)

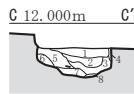
SC10



第35図 C区9・10号住居跡遺構実測図 (1/60)

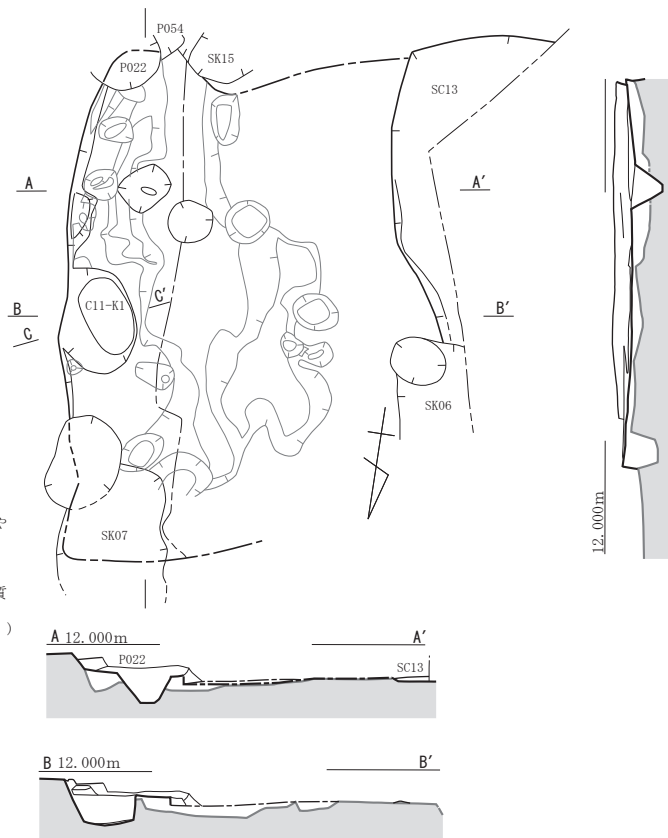
SC11

SC11-K1 (C-C')



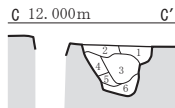
SC11-K1 (C-C')

- 1 暗灰褐色土 (黄褐色砂質ブロック土を微量に含む。)
- 2 灰茶褐色土 (茶褐色ブロック、黄褐色砂質ブロック土をやや多く含む。)
- 3 黄褐色ブロック土+淡灰褐色ブロック土の混じり土
- 4 黄褐色砂質土 (軟らかい、流れこみか?)
- 5 淡灰褐色ブロック土+茶褐色ブロック土+黄褐色砂質ブロック土 (ややしまる。)
- 6 淡黄褐色砂質土 (黄褐色地山を少し含む。流れこみ。)
- 7 淡灰褐色ブロック+黄褐色地山ブロックの混じり
- 8 6層土に近い (淡灰色土を含む。)



SC12

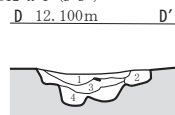
SC12 P-1 (C-C')



SC12 P-1 (C-C')

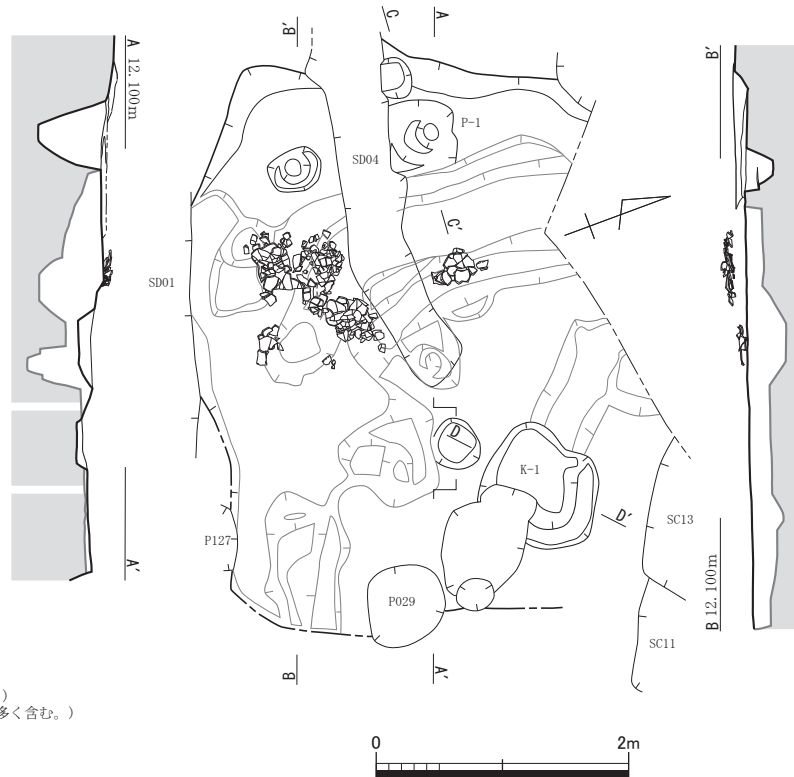
- 1 茶褐色土 (黄褐色地山土を少量含む。粘質。)
 - 2 灰茶褐色土 (黄褐色地山ブロックを少量、明茶褐色ブロックをやや多く含む。粘質。)
 - 3 明灰茶褐色土 ((黄褐色地山ブロックを多量、明茶褐色ブロックをやや多く含む。粘質。)
 - 4 明灰茶褐色土 (黄褐色地山ブロックを多量、明茶褐色ブロックを非常に多く含む。固くしまる。)
 - 5 淡黒褐色土 (茶褐色地山ブロックをやや多く含む。固くしまる。)
 - 6 淡黒褐色土 (茶褐色地山ブロックを非常に多く含む。黄褐色地山ブロックをやや多く含む。固くしまる。)
- ※4~6層ウラゴメ土か?

SC12 K-1 (D-D')



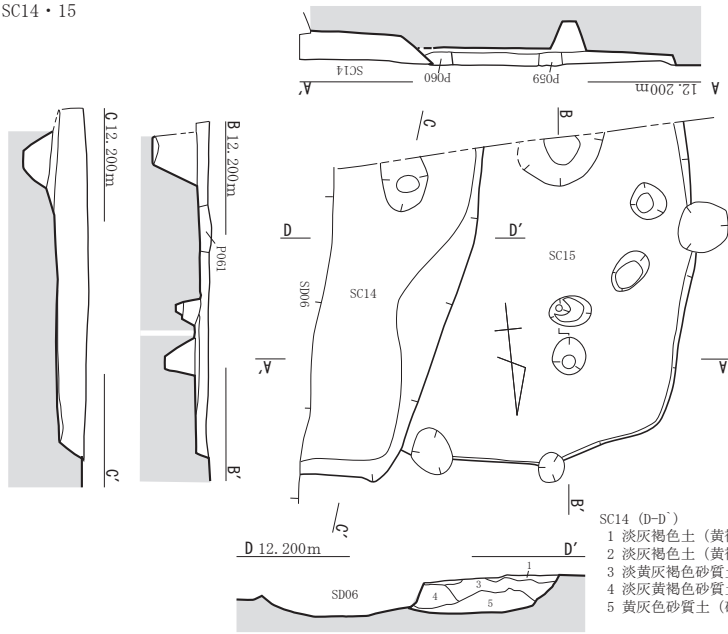
SC12 K-1 (D-D')

- 1 淡黒褐色土 (黄褐色地山ブロックを少量含む。)
- 2 淡灰黄褐色土 (黄褐色地山ブロックを、粒子状にやや多く含む。)
- 3 淡灰黄褐色土 (茶褐色地山ブロック+黄褐色地山ブロックを非常に多く含む。)
- 4 黄褐色地山ブロック+茶褐色地山ブロックの混じり土



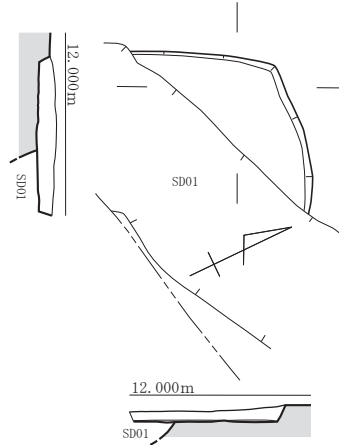
第36図 C区11・12号住居跡遺構実測図 (1/60)

SC14・15

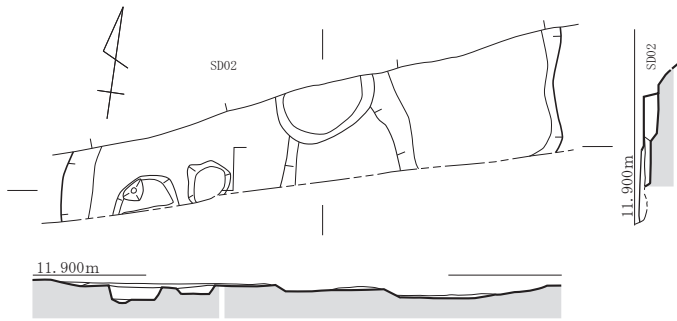


- SC14 (D-D')
- 1 淡灰褐色土 (黄褐色砂質地山土を少量混じる。しまる。砂質強い。)
 - 2 淡灰褐色土 (黄褐色砂質地山土がやや多く混じる。しまる。)
 - 3 淡黄灰褐色砂質土 (茶褐色地山ブロックをやや多く含む。しまる。)
 - 4 淡灰黄褐色砂質土 (淡灰褐色土をブロック状にやや多く含む。しまる。)
 - 5 黄灰色砂質土 (砂質の目が細かく、しまる。)

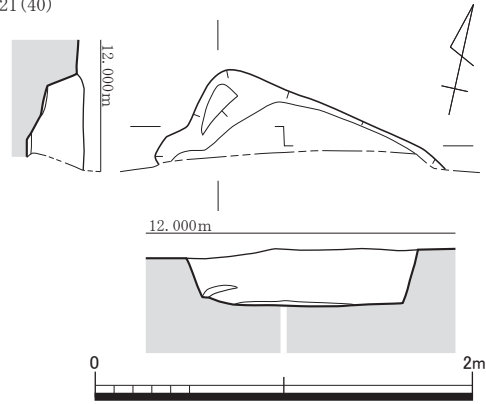
SC17



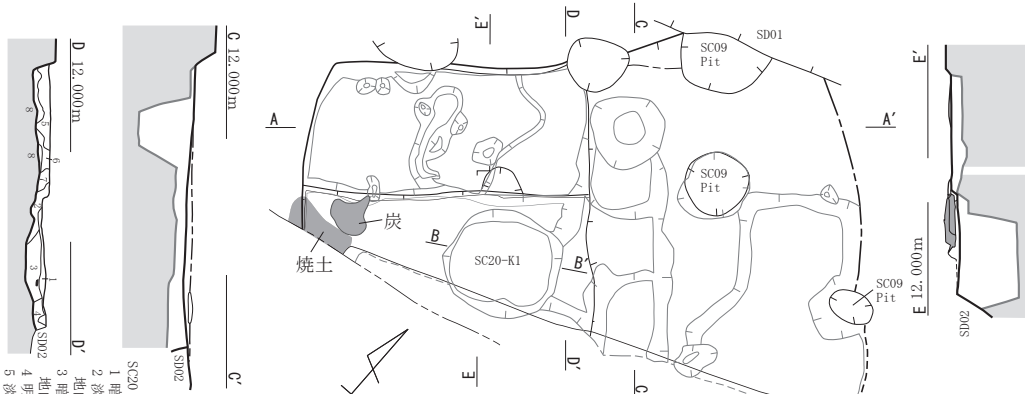
SC16



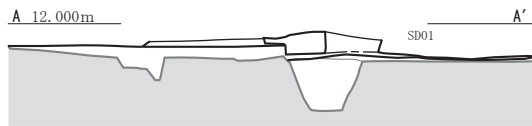
SC21 (40)



SC20

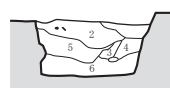


- SC20 (D-D')
- 1 暗茶灰褐色土 (黄褐色地山土を微量に含む。)
 - 2 淡茶灰褐色土 (黄褐色地山土を少量含む。)
 - 3 暗茶灰褐色土 (黄褐色地山土を少量含む。)
 - 4 明茶褐色土 (黄褐色地山土を多く含む。)
 - 5 淡茶褐色土 (黄褐色地山土を多く含む。)
 - 6 茶褐色地山ブロックを多く含む。茶褐色地山土を多く含む。)
 - 7 4層土に互い、(淡灰褐色土を少量含む。)
 - 8 明茶褐色土 (茶褐色地山土を多く含む。)
- ※5~8層は「ト」状遺構の埋土



SC20-K1 (B-B')

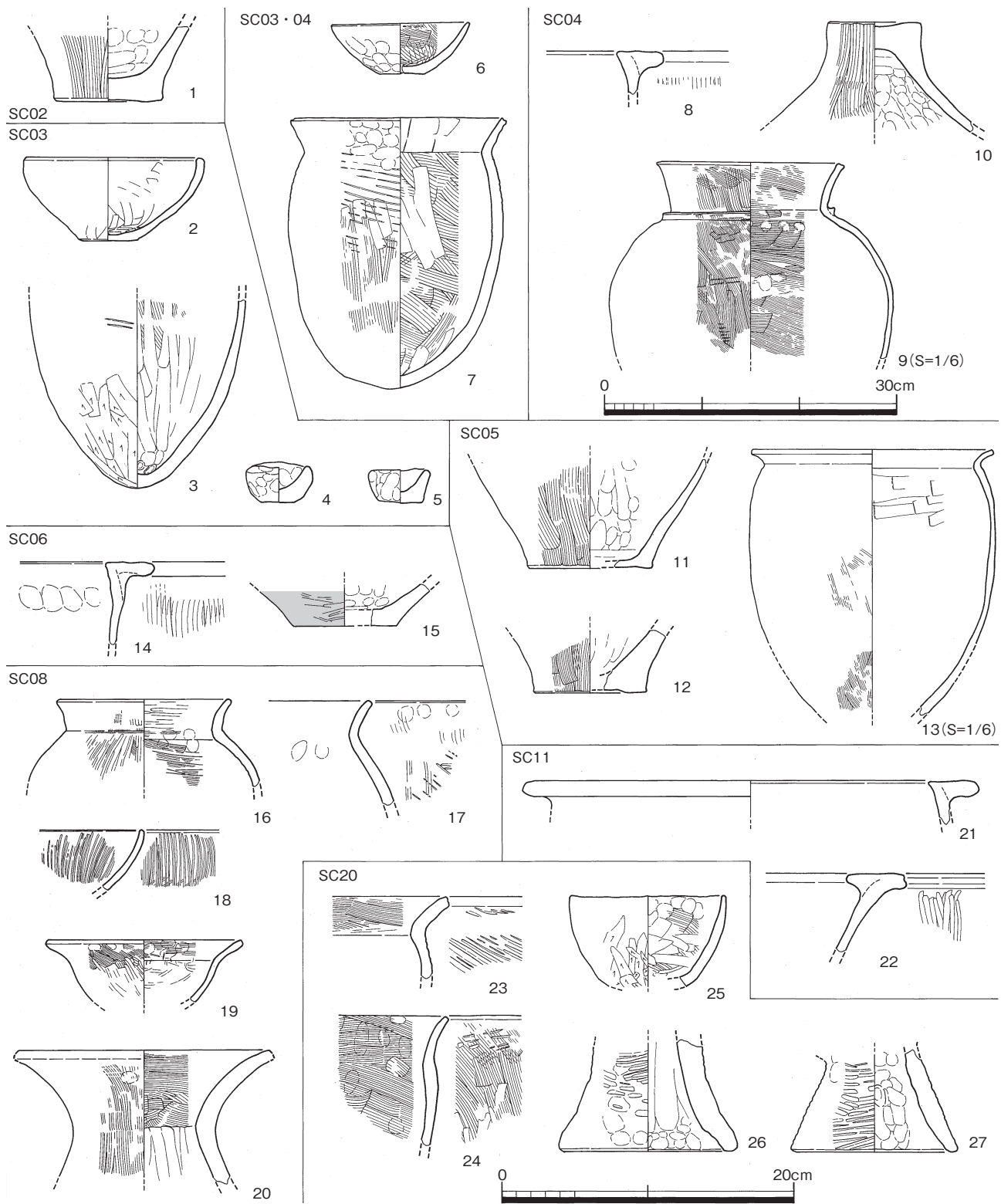
B 12.000m



- SC20-K1 (B-B')
- 1 暗灰褐色土 (黄褐色地山土を粒子状にやや多く含む。粘質。非常に固くしまる。)
 - 2 暗灰褐色土 (黄褐色地山土を微量、炭化物をやや多く含む。土器を含む。粘質。非常に固くしまる。)

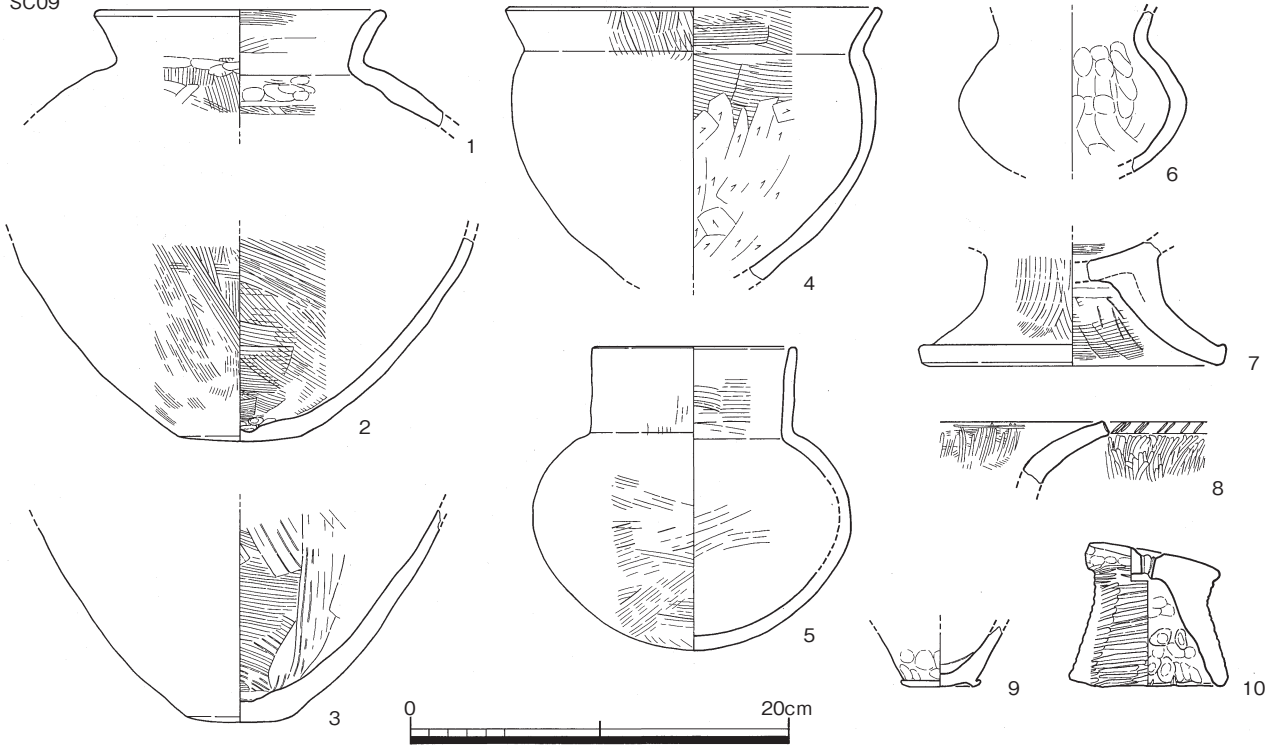


第37図 C区14~17・20・21号住居跡遺構実測図 (1/60、21は1/40)

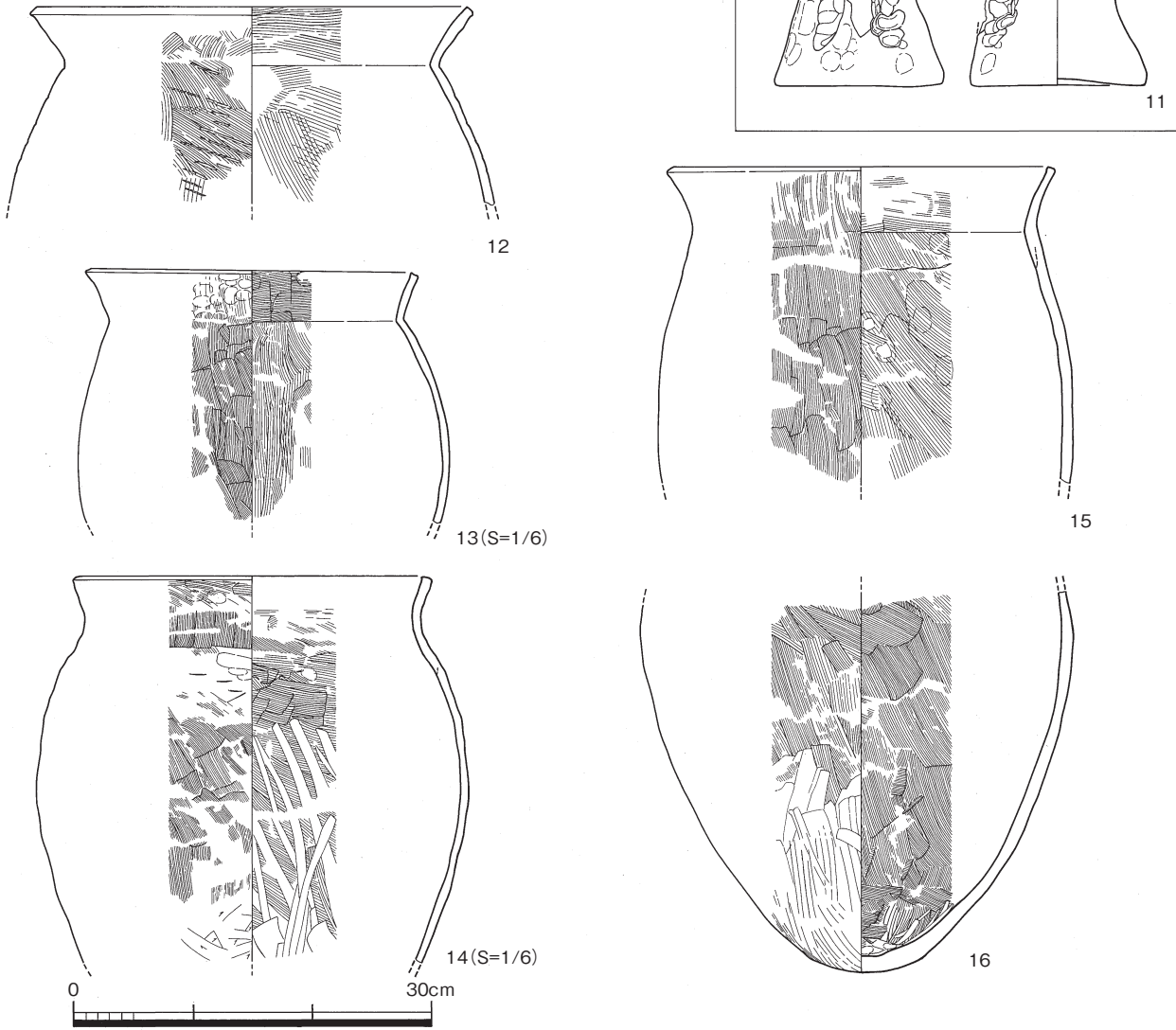


第38图 C区2~6·8·11·20号住居迹出土遺物実測図(1/4、1/6[9,11])

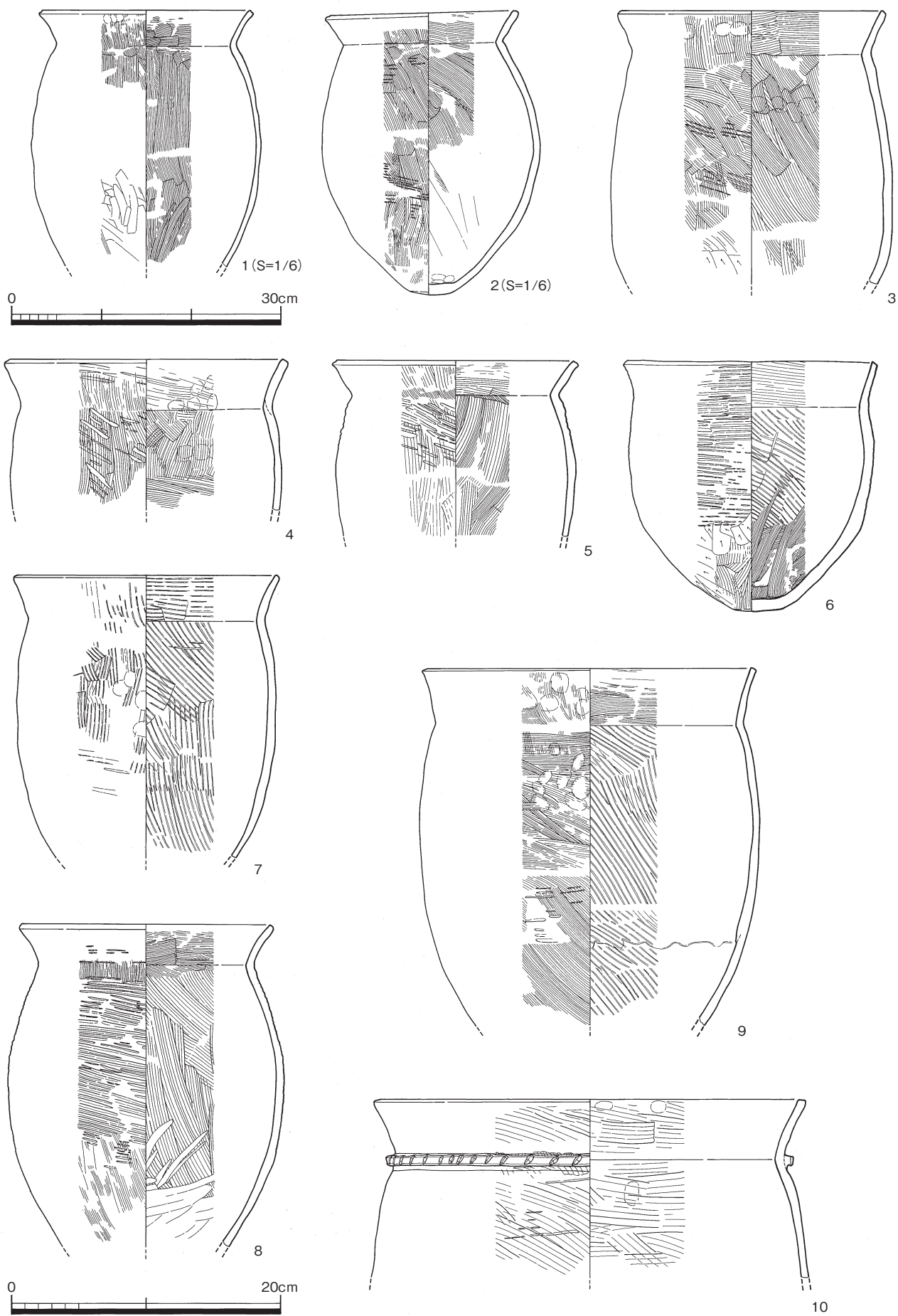
SC09



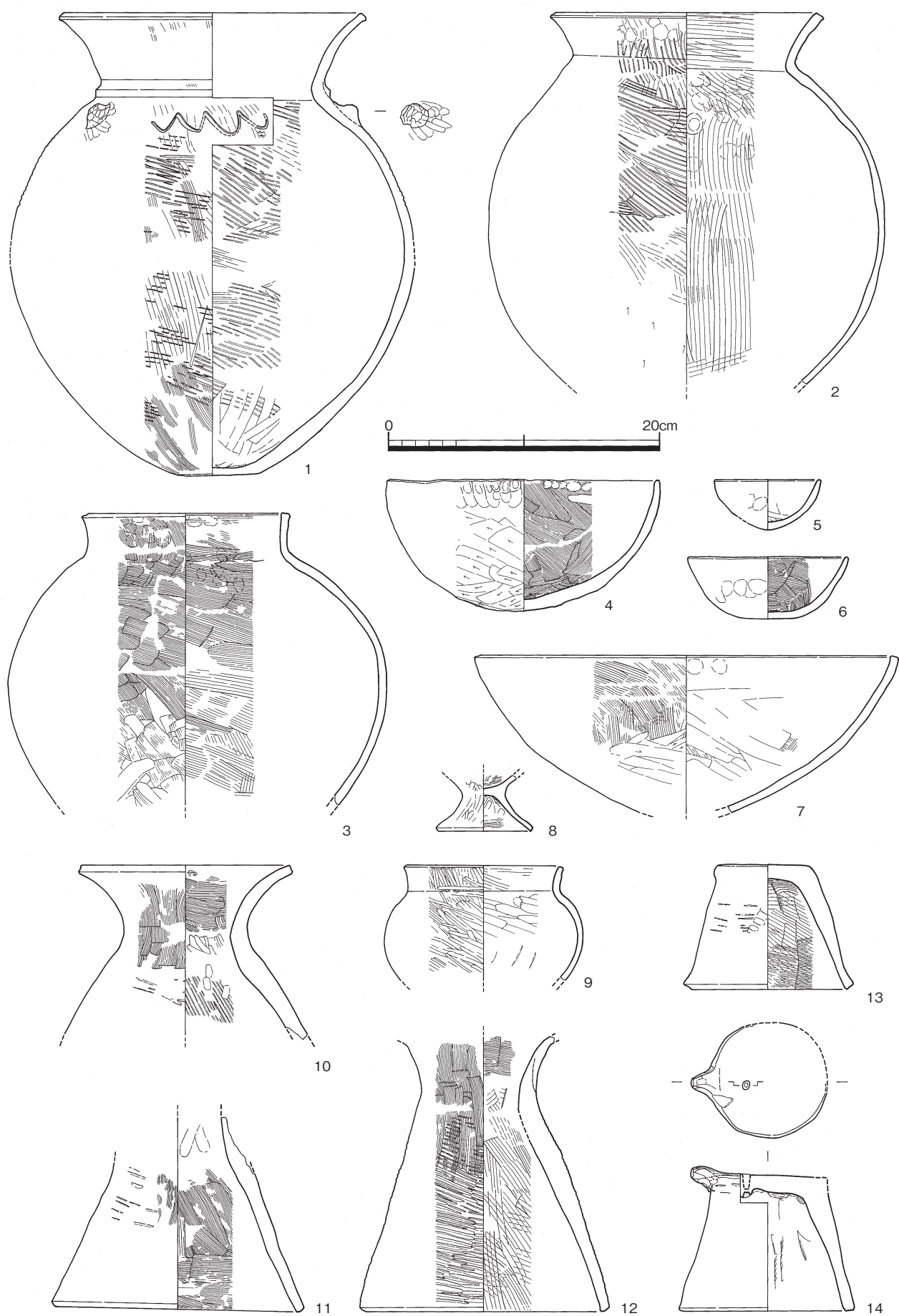
SC12



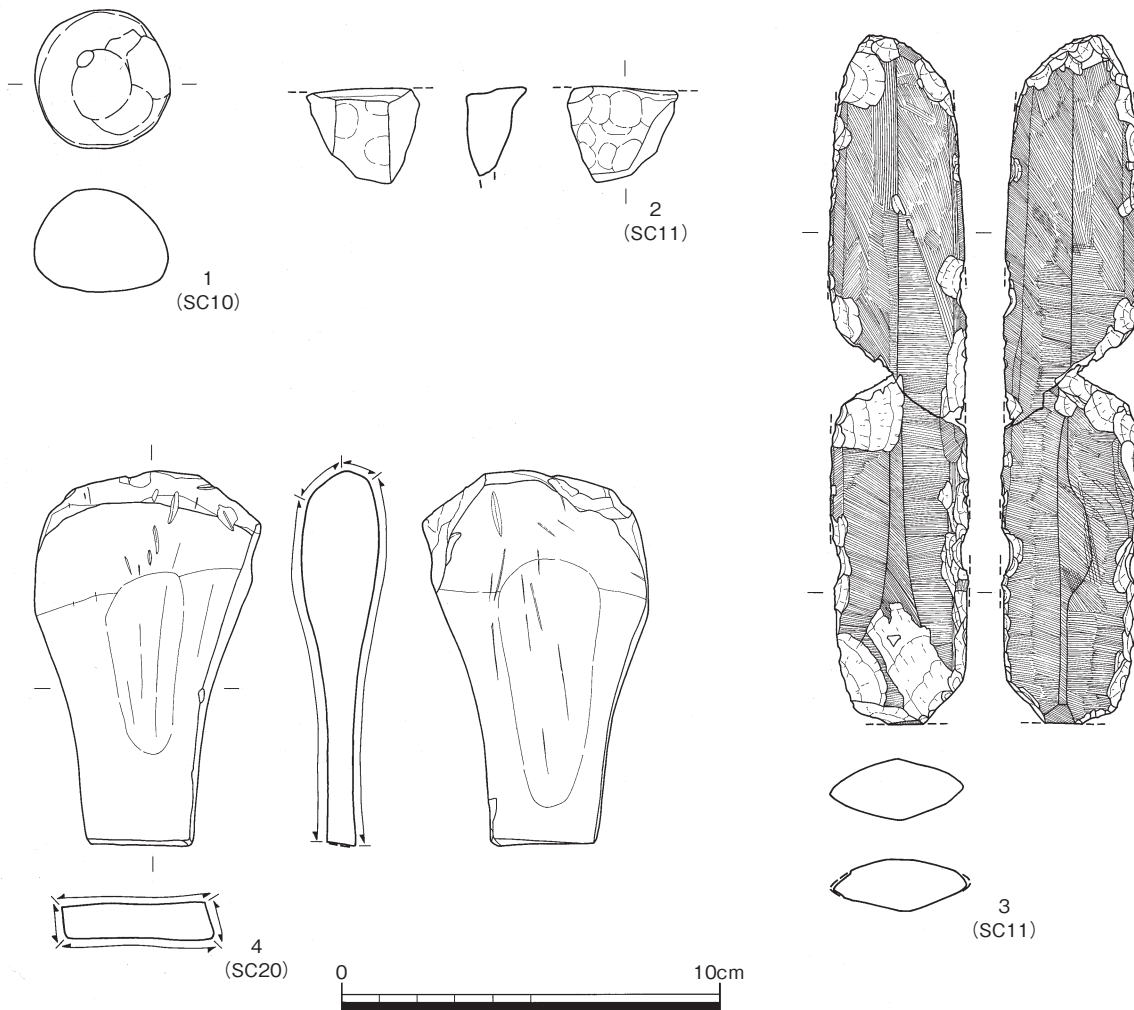
第39图 C区9·12号住居迹出土遗物实测图① (1/4、1/6[13,14])



第40图 C区12号住居跡出土遺物実測図② (1/4)



第41图 C区12号住居迹出土遗物实测图③(1/4)



第42図 C区住居跡出土石製品、土製品遺物実測図(1/2)

2、土坑 (SK)

C区		1号土坑		第43図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SK02
	楕円	楕円	(2.44)	(0.60)	0.10~0.78	N-11.5° - E	後	
出土遺物	土器[第一図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]			
	青磁片や須恵器細片などが出土したが、図示するに至らなかった。時期は中世以降であろう。				出土遺物なし			
概要	調査区北東隅で検出。大半が調査区外へと広がるため詳細は不明な点が多い。南から北へ、徐々に段を持ちながら低くなる。							
C区		2号土坑		第43図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SK01
	楕円?	楕円?	(0.92)	(0.72)	0.12~0.34	N-78.5° - W	後	
出土遺物	土器[第一図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]			
	弥生土器の細片が出土した。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期前葉~後葉であろう。				出土遺物なし			
概要	SK01同様、調査区北東隅で検出。大半が調査区外へと広がり、SK01に切られる為、詳細は不明である。北から南へと低くなる。							
C区		3号土坑		第43図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P001・002・003 SC05
	楕円	楕円	1.1	1.00	0.06	N-62° - W	後	
出土遺物	土器[第一図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]			
	弥生土器の細片が出土。いずれも図示できなかった。				出土遺物なし			
概要	検出した土坑は浅く、性格は不明である。埋土中に炭が微量だが混じる。							

C区		4号土坑					第43図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円	楕円	(3.46)	(1.28)	(0.36~0.56)	N-12.5° - W	後	SC05		
出土遺物	土器[第47図/図版7]					その他の遺物[第 図/図版 -]				
	多くの土師器杯、皿、瓦器碗などが出土した。1・3・5・8・14は油煤が付着しており、灯明皿の可能性ある。土坑の時期は12世紀中頃~13世紀前半に比定される。					出土遺物なし				
概要	土坑の東側と北側は調査区外へと広がり全容は不明である。北より南へ向かい段を持ちながら低くなる。遺物は南側で多く出土していることが特徴である。また、多くの遺物が底部を下にして出土しているが、性格不明である。									

C区		5号土坑					第44図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P067		
	楕円?	楕円?	(1.06)	(0.24)	0.14	N-14° - E	後	SK06、SC10		
出土遺物	土器[第 図/図版 -]					その他の遺物[第 図/図版 -]				
	弥生土器の細片が少量だが出土した。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期頃か?					出土遺物なし				
概要	土坑の西側は調査区外へと広がるため詳細は不明な点が多い。									

C区		7号土坑					第44図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P006・007・008		
	楕円	楕円	1.38	0.88	0.12~0.30	N-6.5° - E	後	SC10、11		
出土遺物	土器[第47図/図版 -]					その他の遺物[第47図/図版 -]				
	22は上層より出土の器台である。弥生中期後葉以降であろう。土坑の時期は弥生中期後葉~末までと比定される。					32は安山岩製の石庖丁である。全体的に摩滅している。				
概要	南から北へ向かい段を持ちながら下がる。土坑のほぼ中央中段位より、遺物が出土している。									

C区		9号土坑					第44図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円	楕円	0.96	0.96	0.19	N-12.5° - W	後	SC06		
出土遺物	土器[第47図/図版 -]					その他の遺物[第 図/図版 -]				
	23は壺か鉢の底部である。底に葎状の圧痕が残る。その他、瓢形土器片などが出土。時期は弥生中期末と比定される。					出土遺物なし				
概要	土坑のほぼ中央あたり、検出面直下において土器がまとまって出土している。									

C区		10号土坑					第44図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P030		
	楕円	楕円	(1.98)	0.96	0.12~0.47	N-0.5° - E	後			
出土遺物	土器[第 図/図版 -]					その他の遺物[第 図/図版 -]				
	弥生土器の細片が出土しているが、図示するに至らなかった。					出土遺物なし				
概要	南側にテラス状の段を持つ土坑である。埋土中に遺物を含む。									

C区		11号土坑					第45図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円	楕円	2.94	(2.20)	0.24	N-72.5° - E	後			
出土遺物	土器[第47図/図版 -]					その他の遺物[第47図/図版8]				
	遺物の出土は微量でいずれも破片である。25は弥生中期後葉~終末の甕で、内外面々で調整している。					33は土製投弾である。				
概要	中央に柱穴を検出した。北側が調査区外へと広がり詳細は不明である。住居の可能性ある。									

C区		12号土坑					第45図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD02、P031・025その他柱穴2基		
	楕円	楕円	2.04	(1.62)	0.42~0.68	N-28° - E	後	P058		
出土遺物	土器[第47図/図版 -]					その他の遺物[第 図/図版 -]				
	須恵器片や土師器片などが出土している。時期は7世紀後半以降であろう。					出土遺物なし				
概要	SD02に切られる為、全容は不明な点が多い。									

C区		13号土坑			第45図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円	楕円	2.40	1.86	0.28	N-56°-W	後	SD07
出土遺物	土器[第47図/図版-] 須恵器破片や土師器の破片が出土している。27は土師器の坏である。須恵器の模造品か?時期は7世紀以降であろう。					その他の遺物[第-図/図版-] 出土遺物なし		
概要	柱穴状の掘り込みが4基確認できたが、用途不明である。							

C区		14号土坑			第45図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	柱穴
	楕円	楕円	0.92	0.7	0.20	N-47°-E	後	SD11
出土遺物	土器[第47図/図版-] 底部はやや平底の名残が残るが丸底である。また、器台も出土している。時期は、弥生後期中葉~後葉であろう。					その他の遺物[第-図/図版-] 出土遺物なし		
概要	埋土中に遺物を含む。							

C区		16号土坑			第46図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P049
	楕円	楕円	0.86	0.76	0.42	N-83.5°-E	後	
出土遺物	土器[第47図/図版6] 遺物の出土は少量である。30は小形の鉢で、胴部中に1条の突帯、口唇部は欠損もしくは打ち欠きの可能性あり。時期は弥生中期後葉以降であろう。					その他の遺物[第-図/図版-] 出土遺物なし		
概要	土坑の上層~中層にかけて遺物を検出した。							

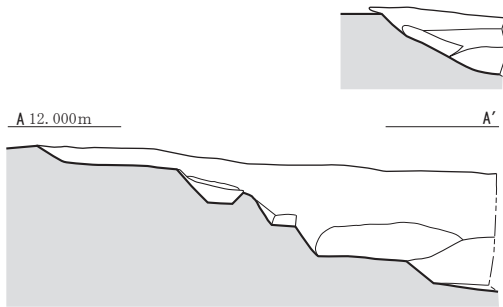
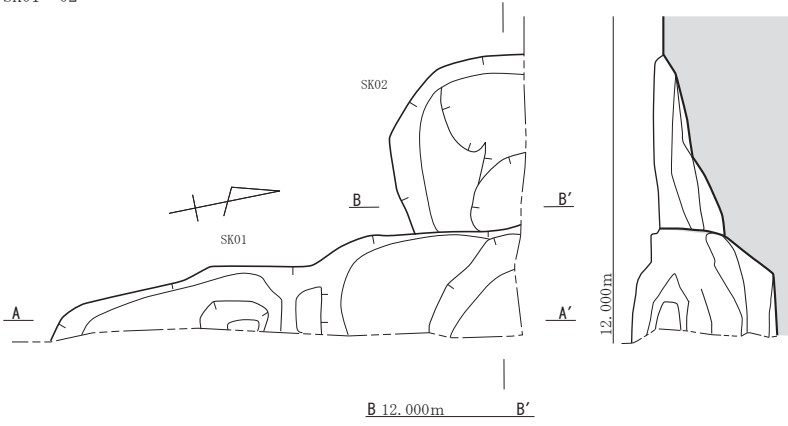
C区		17号土坑			第46図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	方形?	方形?	(1.84)	(0.46)	0.19~0.56	N-81.5°-E	後	
出土遺物	土器[第47図/図版-] 31は脚付鉢と報告しておく。内外面が調整である。上下逆の可能性ある。その他須恵器の細片が出土している。					その他の遺物[第-図/図版-] 出土遺物なし		
概要	北側及び東側は調査区外へと広がる為全形は不明であるが、検出した土坑より、方形の可能性ある。土坑の中央は柱穴状に掘り下がり下層にいくつか遺物が出土している。掘り下がっている東西両側にテラス状の段を持つ。							

C区		19号土坑			第46図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD01
	楕円	楕円	2.52	0.88	0.10	N-64°-E	後	
出土遺物	土器[第-図/図版-] 底部が凸レンズ状の甕の底部片などから、弥生後期末~古墳初頭以降に比定されよう。					その他の遺物[第-図/図版-] 出土遺物なし		
概要	SD01に切られるため、全容は不明である。							

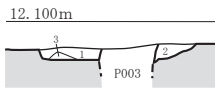
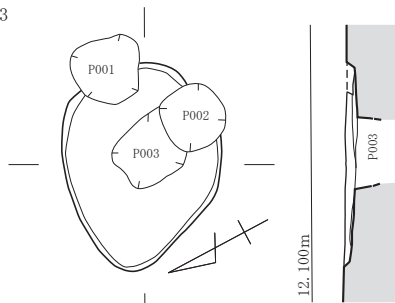
C区		20号土坑			第46図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD06
	方形?	方形?	2.94	(1.20)	0.18~0.44	N-86°-W	後	
出土遺物	土器[第-図/図版-] 丹塗土器片や弥生土器甕破片などが出土。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期以降であろう。					その他の遺物[第-図/図版-] 出土遺物なし		
概要	北側が調査区外へと広がるため全形は不明だが、検出した土坑より、方形の可能性ある。土坑は西から東へとさがる。							

C区		21号土坑			第46図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P025
	やや方形?	やや方形?	1.62	(0.50)	0.18	N-80°-E	後	
出土遺物	土器[第-図/図版-] 少量の遺物が出土した。いずれも細片のため図示するに至らなかった。時期は弥生後期中葉~終末であろう。					その他の遺物[第-図/図版-] 出土遺物なし		
概要	南側が調査区外へと広がりピット等に切られるため、全体形は不明。やや方形気味のため住居の可能性も遺構である。							

SK01・02



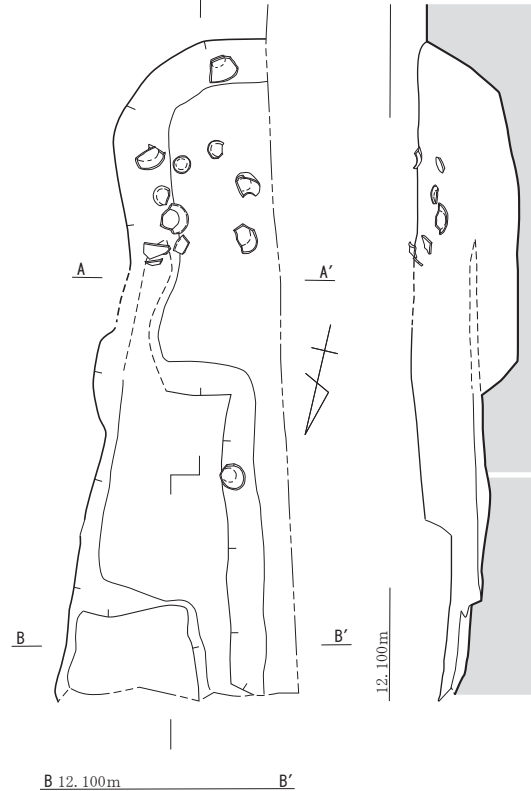
SK03



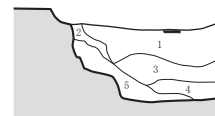
SK03

- 1 明灰褐色ブロック土（1～2cmの黄褐色アロクをやや多く含む。炭が少量混じる。固くしまる。）
- 2 明灰褐色ブロック土+黄褐色地山ブロック土（微量に炭混じる。固くしまる。）
- 3 2層土とほぼ同じ（黄褐色アロク土を2層土より多く含む、炭は混じらない。）

SK04



A 12,100m



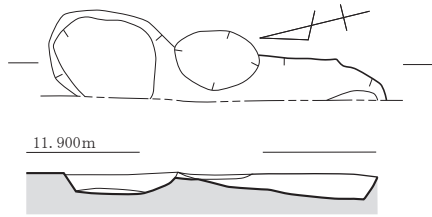
SK04

- 1 明黒褐色土（橙色アロクを少量含む。非常に柔らかい。）
- 2 黒褐色土+灰褐色粘質土の混じり土（やや固い。）
- 3 明黒褐色土+灰褐色粘質土の混じり土（2層土に比べ灰褐色が強い。）
- 4 灰褐色粘質土（橙色粒子をやや多く含む。非常に固くしまる。）
- 5 灰褐色粘質土+黄褐色地山土の混じり土（非常に固くしまる。）

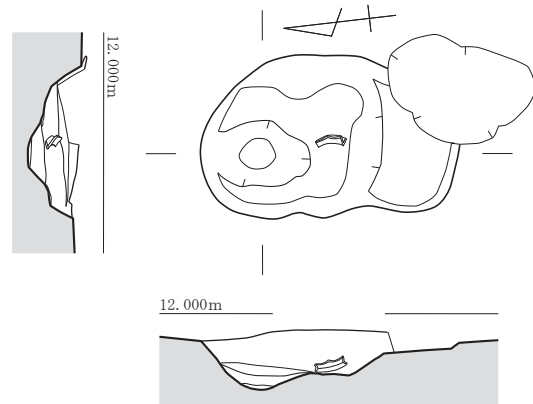


第43図 C区1～4号土坑遺構実測図（1/40）

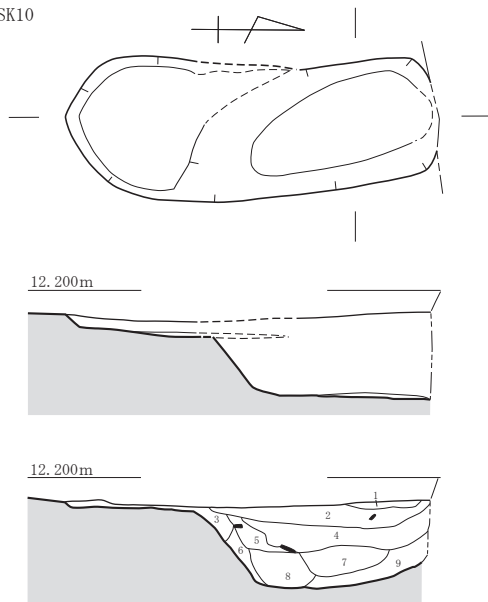
SK05



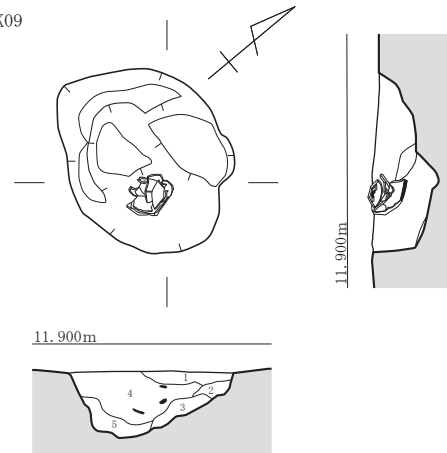
SK07



SK10



SK09



SK10

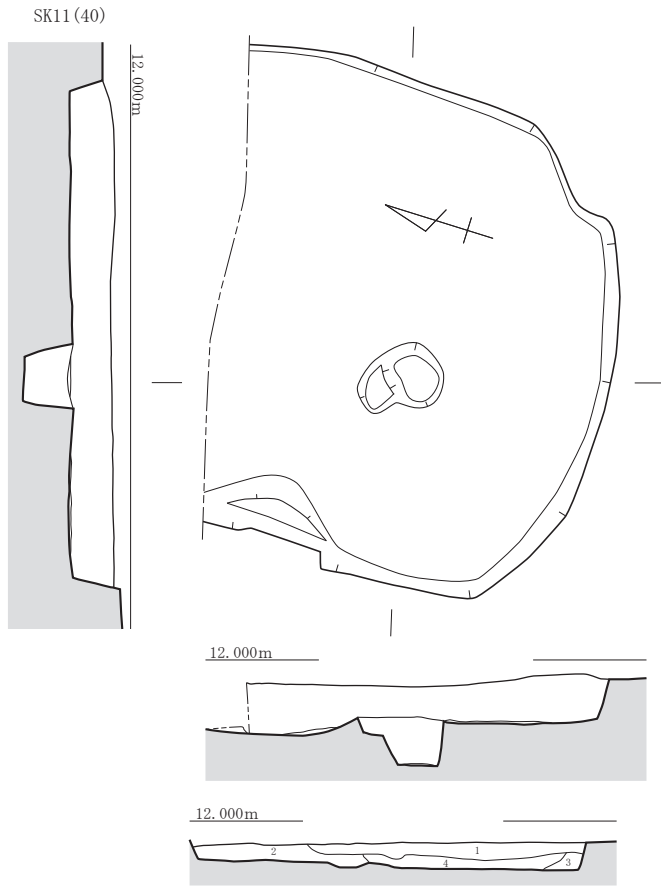
- 1 暗灰褐色土（黄褐色地山ブロックを多く含む。やや固くしまる。粘質弱。）
- 2 灰褐色土（黄褐色地山ブロックを少量含む。）
- 3 灰褐色土+黄褐色土の混じり（やや固くしまる。砂質土。）
- 4 明灰黄褐色土（黄褐色地山土をブロック状にやや多く含む。やや砂質。）
- 5 暗灰黄褐色土（やや砂質土。固くしまる。）
- 6 暗黄褐色砂質土（地山土に近い。）
- 7 灰黄褐色土（灰褐色土が強い。砂質土混じり。しまる。）
- 8 黄灰褐色砂質土（しまる。灰褐色粘質土をやや少量含む。）
- 9 黄灰褐色砂質土（8層土とほぼ同じ。灰褐色土をわずかに含む。）

SK09

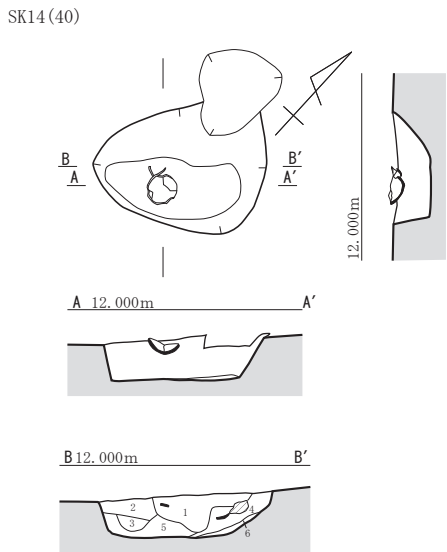
- 1 黒褐色土（黄褐色ブロックを少量含む。粘質なし。しまりなし。）
- 2 明黒褐色ブロック+黄褐色地山ブロックの混じり土（明黒褐色土が多い。粘質弱。しまり弱。）
- 3 黄褐色地山ブロック+明黒褐色ブロック+茶褐色地山ブロックの混じり
- 4 暗灰褐色土（茶褐色地山、黄褐色地山をやや多く含む。又、炭化物を少量含む。遺物混入層。）
- 5 黒褐色土（暗灰褐色ブロック土を少量含む。）



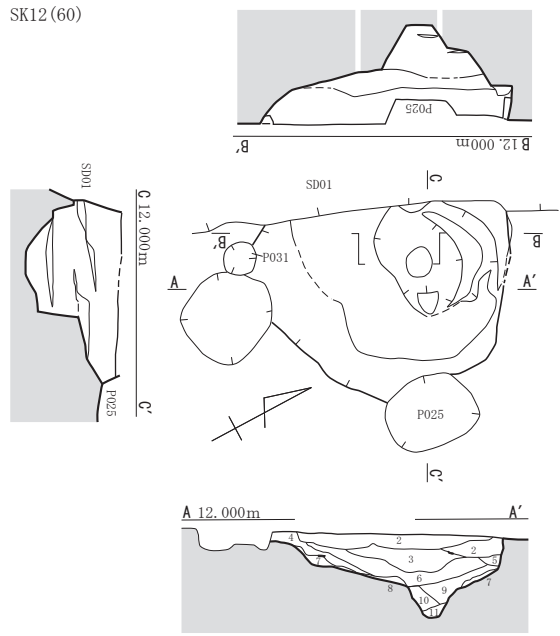
第44図 C区5・7～10号土坑遺構実測図(1/40)



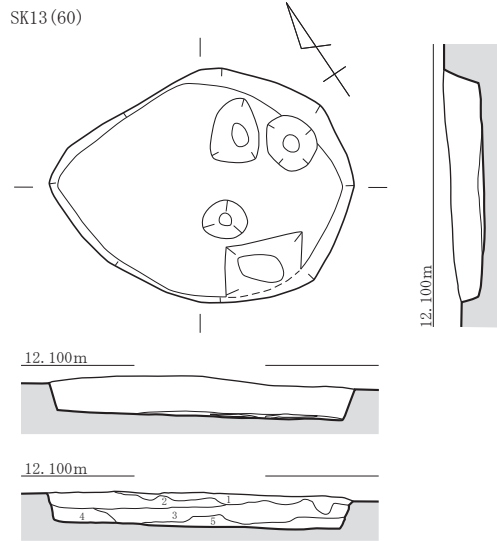
- SK11
- 1 明黒褐色土 (白色粒子をやや多く含む。砂質混じり。やや粘質。固くしまる。)
 - 2 灰黄褐色砂質土 (砂目は粗く、固くしまる。)
 - 3 暗黄褐色砂質土 (砂目は粗く、固くしまる。)
 - 4 暗黄褐色砂質土 (1層土がやや多く混じる。)



- SK14
- 1 暗灰褐色土 (白色粒子を非常に多く含む。やや固くしまるが柔らかい。)
 - 2 暗灰黄褐色土 (明黒色土ブロックを少量含む。やや砂質。非常に固くしまる。)
 - 3 暗灰黄褐色土 (2層土より黄褐色が強い。やや砂質。非常に固くしまる。)
 - 4 明灰黄褐色土 (砂質混じり。土器、小石を少量含む。やや固くしまる。)
 - 5 灰黄褐色土 (砂質混じり。暗灰色ブロックを少量含む。土器細片を微量に含む。非常に固くしまる。)
 - 6 暗灰黄褐色砂質土 (粒子の粗い砂を多く含む。やや固くしまる。)



- SK12
- 1 暗灰褐色土 (黄褐色地山ブロック・炭化物をやや多く含む。やや固くしまる。粘質あり。)
 - 2 暗灰褐色土 (1層土より褐色が弱い。土器細片・黄褐色地山ブロックを微量に含む。やや固くしまる。粘質あり。)
 - 3 暗灰褐色土 (2層土とほぼ同じ。ブロック土は含まない。土器を微量に含む。粘質あり。)
 - 4 暗灰黄褐色土 (黄褐色砂質地山を粒子状に非常に多く含む。やや固くしまる。粘質弱。)
 - 5 黄褐色地山土+淡灰色の混じり土 (流れこみか)
 - 6 暗灰褐色土 (3層土とほぼ同じ。ブロック土は含まない。砂質が微量だが混じる。)
 - 7 淡黄褐色砂質土 (黄褐色砂質地山土が混じる。流れこみか)
 - 8 灰褐色砂質土 (黄褐色砂質地山土を少量含む。しまりなし。流れこみか)
 - 9 暗灰褐色土 (1層土に近い。褐色が強い。粘質強。土器の細片を微量に含む。)
 - 10 暗灰褐色土 (砂質混じり。黄褐色地山を少量含む。)
 - 11 淡明黄灰色砂質土 (しまりなし。流れこみ。)

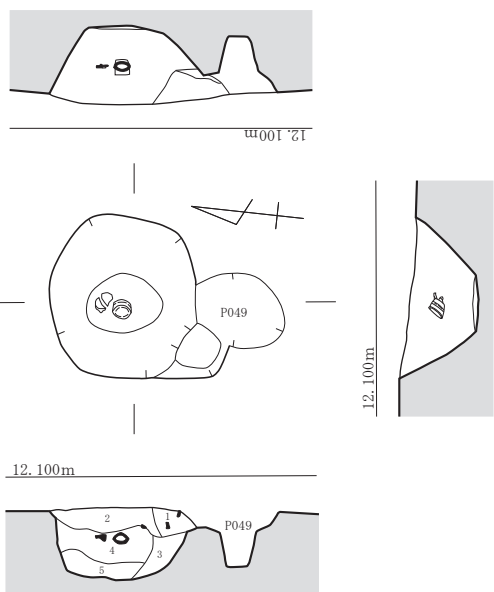


- SK13
- 1 明灰褐色土 (ややしまる。粘質弱。)
 - 2 黄灰褐色砂質土 (明灰褐色土をブロック状に少量含む。非常に固くしまる。)
 - 3 黄灰褐色砂質土 (1~2cm大を下位にやや多く含む非常に固い。1層土のブロックを少量含む。)
 - 4 明灰褐色砂質土 (3層土に近い。5層土を少量含む。ややしまる。)
 - 5 明橙褐色砂質土 (3層土を少量含む。しまりなし。)



第45図 C区11~14土坑遺構実測図 (11,14は1/40、他は1/60)

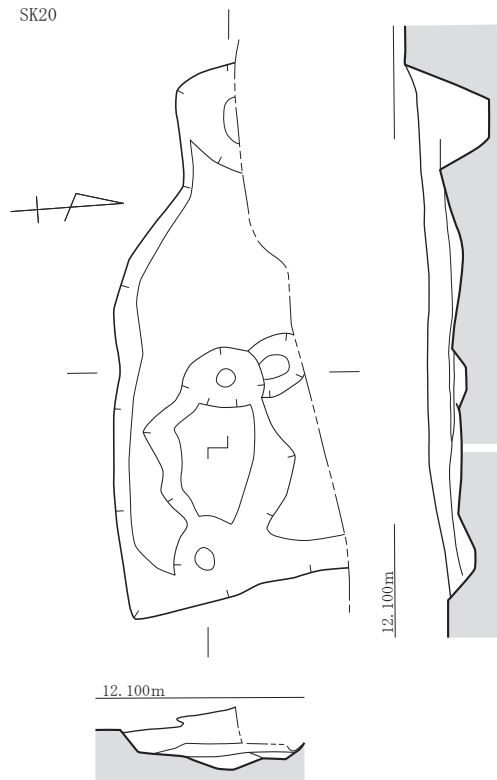
SK16



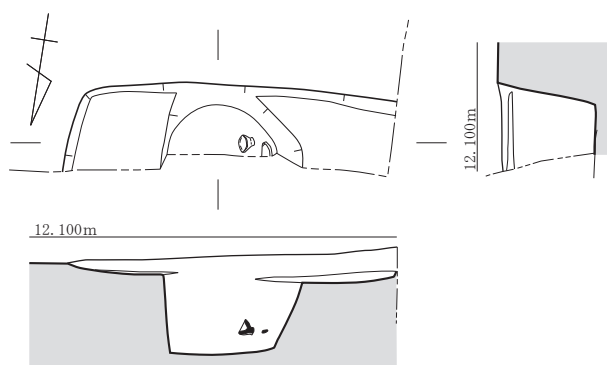
SK16

- 1 黒褐色土（やや粘質。土器を少量含む。）
- 2 灰黄褐色土（砂質混じり。ややしまる。）
- 3 1層+2層の混じり土（茶褐色地山アワツキを少量含む。）
- 4 暗灰黄褐色土（黄褐色砂質土を均質に多量に含む。土器を含む。）
- 5 暗黄褐色砂質土（1層土をまだらに多量に含む。しまる。砂質は目が粗い。）

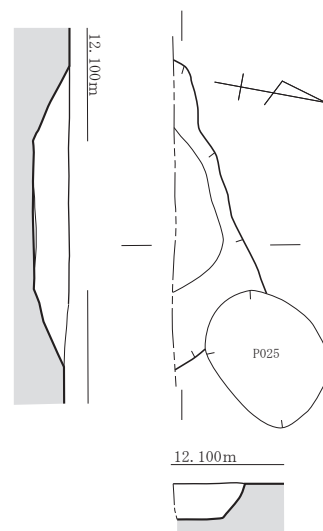
SK20



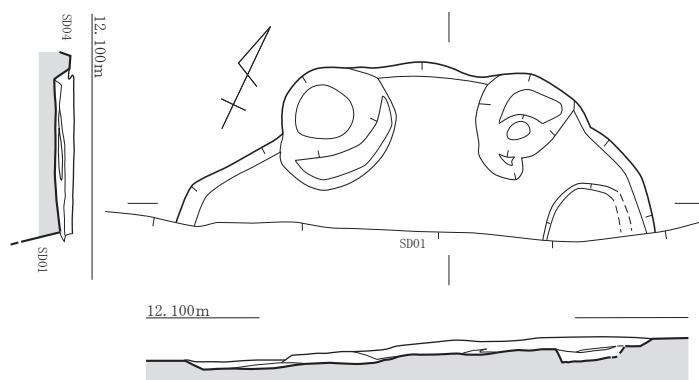
SK17



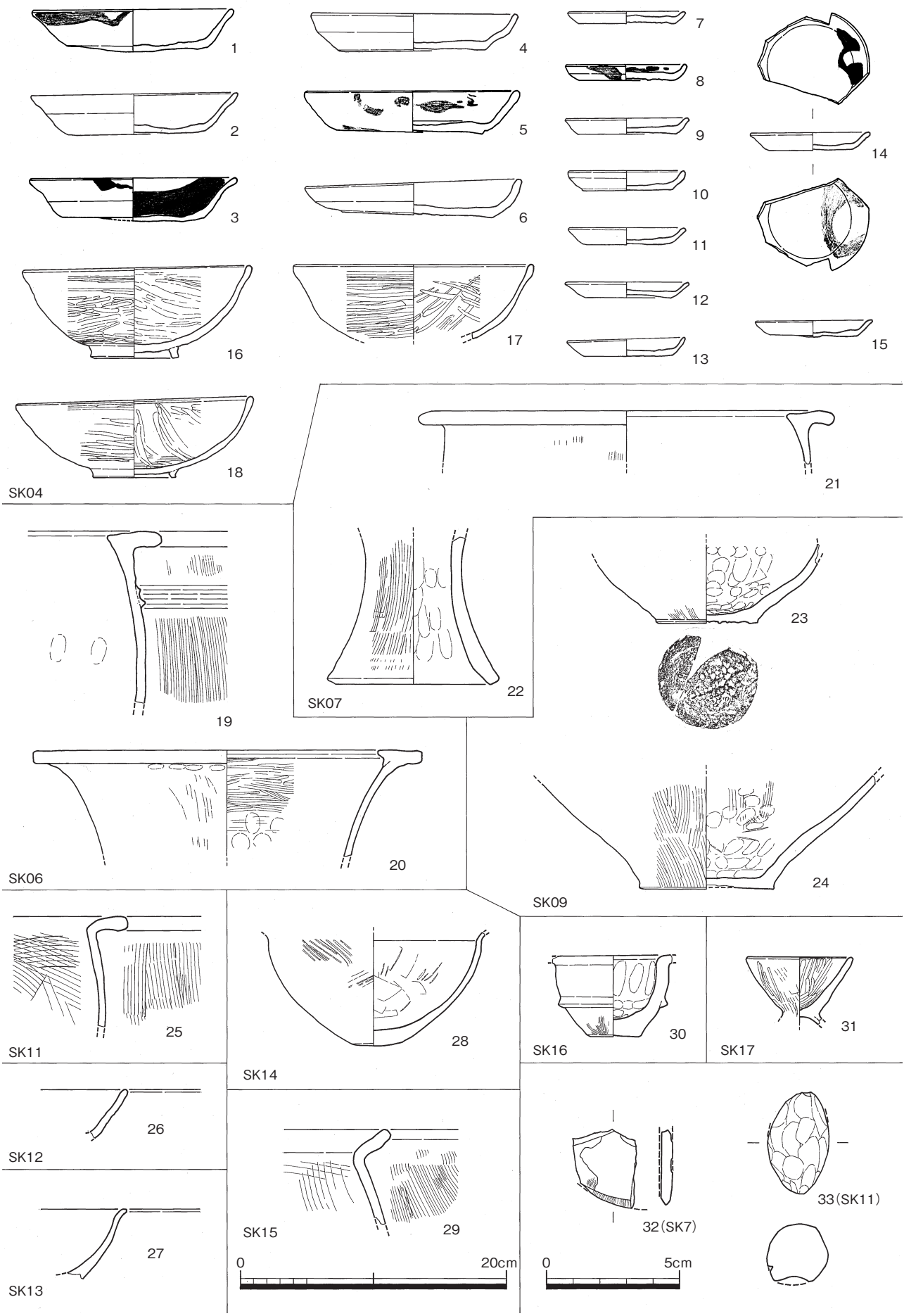
SK21



SK19



第46図 C区16・17・19～21号土坑遺構実測図（1/40）



第 4 7 图 C 区土坑出土遺物実測図 (1/4、1/2[30, 31])

3. 周溝状遺構（SV）

1号周溝状遺構（第48図／図版一）

調査区東端で検出した。ほぼ南北に縦走し、南北ともに調査区外へと広がるため全容は不明である。断面形状は逆台形である。

出土遺物（第49図／図版一）

出土遺物は混ざりと考えられる弥生中期前葉甕破片が出土している。1は土師器の坏で、7世紀頃に比定される。

C区		1号溝				第48図／図版3		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後	SD03、SC06・09・、SK12その他多数	
	(28.40)	0.90～1.00	0.48	逆台形状	N-59° - E				
出土遺物	土器[第49図／図版 -]				その他の遺物[第 - 図／図版 -]				
概要	多期にわたる多くの遺物が出土した。2は最下層からの出土である。17世紀後半の所産である。								
概要	調査区を東西方向へ横断する溝である。検出標高は11.900mである。								

C区		2号溝				第48図／図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後	SD05、SC06・09・20・16その他柱穴	
	(12.8)	0.70～0.84	0.22～0.42	逆台形状	N-66° - E				
出土遺物	土器[第 - 図／図版 -]				その他の遺物[第 - 図／図版 -]				
概要	SD01同様、多期にわたる多くの遺物が出土した。時期はSD01と同時期頃埋没したと考える。								
概要	SD01に並行する溝である。SD01に比べ浅い。検出標高は11.800m～12.000mである。								

C区		3号溝				第48図／図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後	SD01	
	(12.80)	0.24～0.40	0.20	逆台形状	N-27° - W				
出土遺物	土器[第49図／図版 -]				その他の遺物[第 - 図／図版 -]				
概要	多期にわたる多くの土器片が出土している。越州窯系青磁皿？破片より11世紀～12世紀代の溝であろう。								
概要	南北に縦断する溝である。幅も狭く浅い。検出標高は12.000mである。								

C区		4号溝				第48図／図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後	SC8・12その他多数	
	14.28	0.48～0.54	0.52	逆台形状	N-76° - E				
出土遺物	土器[第49図／図版 -]				その他の遺物[第 - 図／図版 -]				
概要	土師器底部へ切りの皿や瓦質土器、青磁碗破片などが出土している。12世紀ごろ埋没か？								
概要	SD01、02と同じく東西方向に横断する溝である。幅も狭く西へ向かい浅くなる。検出標高は12.000mである。								

C区		5号溝				第48図／図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後	SD02、その他柱穴	
	(4.40)	1.20	0.38	不整形な逆台形	N-12° - W				
出土遺物	土器[第49図／図版 -]				その他の遺物[第 - 図／図版 -]				
概要	弥生土器甕や鉢が出土している。時期は弥生中期末以降に埋没したと考えられる。								
概要	南北方向に縦断する溝。上層を表土剥ぎ及び検出時に下げすぎたため全容は不明である。西から北にかけてテラス状の段を持ち、他の溝と違い断面が階段状である。他の溝と性格が違うと考えられる。検出標高は11.900m前後である。								

C区		6号溝				第48図／図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後	SK20、SC14	
	(5.04)	0.50～1.34	0.17	不整形な逆台形状	N-5° - W				
出土遺物	土器[第 - 図／図版 -]				その他の遺物[第 - 図／図版 -]				
概要	遺物出土量は少なく、弥生土器片や丹塗土器片などが出土している。時期は弥生中期後葉以降であろう。								
概要	南北方向に縦断する溝である。部分的に溝幅が狭くなる箇所が確認できる。検出標高は12.000m前後である。								

C区		7号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	P075	
	(4.40)	1.54	0.40	お椀形状	N-9.5°-E	後	SK13	
出土遺物	土器[第-図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]			
概要	出土遺物は弥生土器片、丹塗土器片などがある。弥生終末～古墳初頭の埋没か？ 南北方向の溝である。SK13に切られ、北側は調査区外へと広がるため全容は不明である。							

C区		8号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SD03、P056	
	(1.24)	0.54	0.07	逆台形状	N-45.5°-E	後	SD09その他の遺構	
出土遺物	土器[第-図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]			
概要	遺物の出土は微量でいずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期後葉以降であろう。 南北方向の溝である。東側は調査区外へのび、西側はSD03に切られるため全容は不明であるが、溝の幅も一定ではないため、SD01～04とは性格が違う溝だと考えられる。							

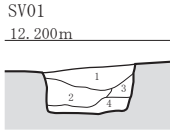
C区		9号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SD03・08	
	(2.52)	0.90	0.18	不整形な逆台形状	N-61°-W	後		
出土遺物	土器[第49図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]			
概要	弥生土器の鉢や、外面に暗文の残る鉢形高坏が出土。出土遺物なし 弥生中期末～後期前葉頃の埋没か？ 溝の底の形態は他のもとは違い、テラス状の段を持ちながら南へ低くなる。SD01～04とは性格の違う溝だと考える。							

C区		10号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先		
	1.54	0.22	0.12	逆台形状	N-32.5°-W	後	SK15	
出土遺物	土器[第-図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]			
概要	外面が刃を削いで消している弥生土器片が出土。図示不可能であったが、時期は弥生終末以降であろう。 上層を掘削時に掘り過ぎたため、溝の一部分のみが検出できた。検出標高1.80m前後である。南北方向に縦断する溝であったと考えられる。おそらく、SD03に並行する溝であろう。性格は不明である。							

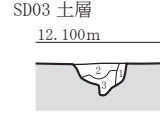
C区		11号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	P032・035・047、SK14	
	(2.08)	0.90	0.08	ゆるい逆台形状	N-38.5°-E	後		
出土遺物	土器[第-図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]			
概要	微量だが弥生土器片が出土している。時期は弥生中期後葉以降であろう。 非常に浅い溝である。南側はSK14に切られ、北は調査区外へと広がるため、詳細は不明である。							

C区		12号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SD01・03その他柱穴	
	(2.40)	1.16	0.22	逆台形状	N-3.5°-E	後		
出土遺物	土器[第49図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]			
概要	支脚や器台、甕など多くの遺物が出土している。時期は弥生中期末～後期中葉の埋没であろう。 北側は調査区外へと広がり、南はSD01に切られるため全容は不明な点が多い。検出標高1.900m前後である							

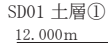
C区		13号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SC09	
	(1.70)	(0.50)	0.03	—	N-60.5°-E	後		
出土遺物	土器[第49図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]			
概要	弥生土器の高坏、甕や支脚などが出土している。時期は中期後葉と比定される。 SC09に切られることと、東側を攪乱により削平されていることにより、全容は不明である。							



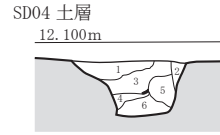
- SV01
- 1 黒褐色土 (白色砂をやや多く含む。固く、しまる。粘質弱。)
 - 2 黒褐色土 (明黄褐色ブロックを少量含む。遺物をやや多く含む。しまる。粘質弱。)
 - 3 暗黄灰色土 (砂質混じり。しまる。)
 - 4 暗黄灰色土 (砂質混じり。しまる。)
- ※3、4層流れこみか(暗黄褐色の砂質地山を多く含むため。)



- SD03
- 1 明灰褐色土 (3cm大の黄褐色ブロックを少量含む。やや固く、粘質弱。)
 - 2 明灰褐色土 (粘質弱、やや固い)
 - 3 明灰褐色土 (1~2cm大の黄褐色ブロックを多量に含む。粘質あり。)
- ※全体的に地山土をブロック状に含む。



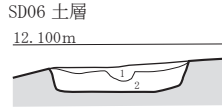
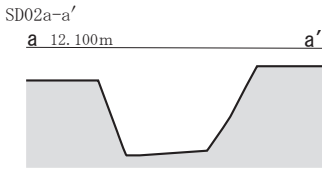
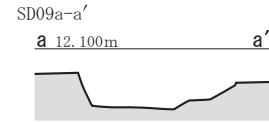
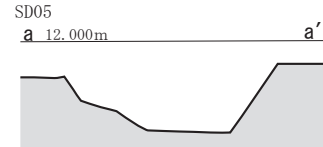
- SD01 ①
- 1 灰褐色土 (ボソボソしており、軟らかい。遺物を多く含む。)
 - 2 茶灰褐色土 (地山を粒子状に含む。しまりなし。軟らかい。粘質弱)
 - 3 暗灰褐色土 (ややしまる。粘質弱)
 - 4 暗灰褐色土 (黄色砂質土をやや多く含む。軟らかい。粘質弱)
 - 5 茶灰褐色土 (砂質まじり。地山土をやや多く粒子状に含む)
 - 6 茶灰褐色土+橙褐色砂質土の混じり土 (やや固くしまる。)



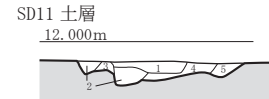
- SD04
- 1 暗灰色土 (黒褐色土・黄褐色地山ブロックを下に少量含む。粘質あり。)
 - 2 灰褐色土 (軟らかい)
 - 3 灰褐色土 (ややしまる。粘質弱)
 - 4 灰褐色土 (黄褐色地山ブロック土をやや多く含む。しまりなし。)
 - 5 暗茶褐色土 (粘質あり。しまりなし。)
 - 6 暗灰褐色土 (粘質あり。しまりなく、軟らかい。)



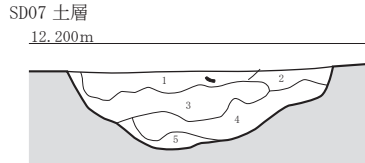
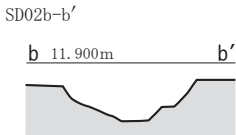
- SD01 ②
- 1 暗灰褐色土 (ボソボソしている。軟らかい。粘質弱)
 - 2 暗灰褐色土 (ややしまる。粘質弱)
 - 3 茶配色砂質土 (非常に固くしまる。地山土に近い)
 - 4 暗灰褐色砂質土 (1cm弱の小石を多量に多く含む)
 - 5 茶灰色砂質土 (1層土 が少量混じる為、やや粘質土混じり)
 - 6 黄灰色砂質土 (目の粗い砂質土。しまりなし。)
 - 7 黄灰色砂質土 (目の細かい砂質土。やや地山質土。しまりなし。)
 - 8 黄褐色砂質土 (マガン質状に変色し固いが、しまりなし。)
 - 9 明黄灰色砂質土 (非常に砂目も粗く、やわらかい。)



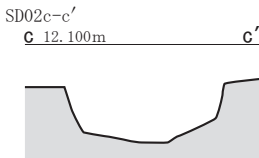
- SD06
- 1 灰褐色土 (やや砂質混じり)
 - 2 暗黄灰褐色砂質土 (1層土をブロック状にやや多く含む。固くしまる。)



- SD11
- 1 明黒褐色土 (3~5cm大の黄褐色砂質地山ブロックを多く含む。しまり弱。)
 - 2 淡茶黄褐色土 (1層土をブロック状に少量含む。しまる。粘質弱。)
 - 3 黄褐色砂質土 (固くしまる。)
 - 4 淡茶褐色土 (黄褐色地山ブロックをやや多く含む。粘質弱。)
 - 5 淡茶褐色土 (1層土を均質にブロック状に含む。粘質弱。)



- SD07
- 1 暗灰褐色土 (砂質まじり。土器をやや多く含む。固くしまる。粘質弱。)
 - 2 灰黄褐色土 (目の粗い砂質まじり。1~3cm大の明黒色ブロックを少量含む。)
 - 3 暗灰褐色ブロック土+暗黄褐色砂質地山土の混じり土 (小礫を微量に含む。固くしまる。粘質弱。)
 - 4 暗黄褐色砂質土+暗灰褐色ブロック土(少量)の混じり土 (全体的に砂質。固くしまる。)
 - 5 暗黄褐色砂質地山質土



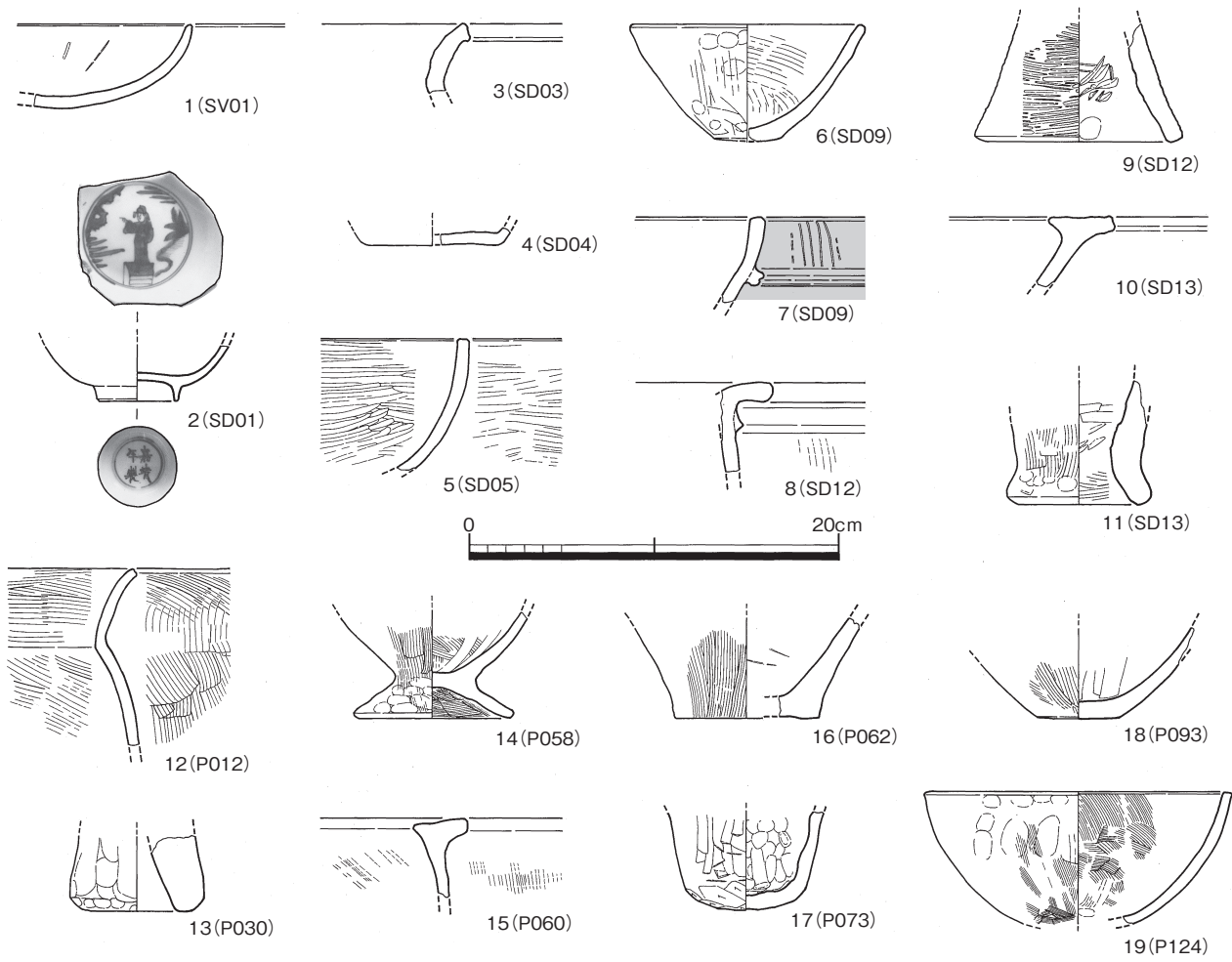
第48図 C区1号周溝状遺構、1~13号溝遺構実測図 (1/40)

5. ピット (SP) (付図/図版一)

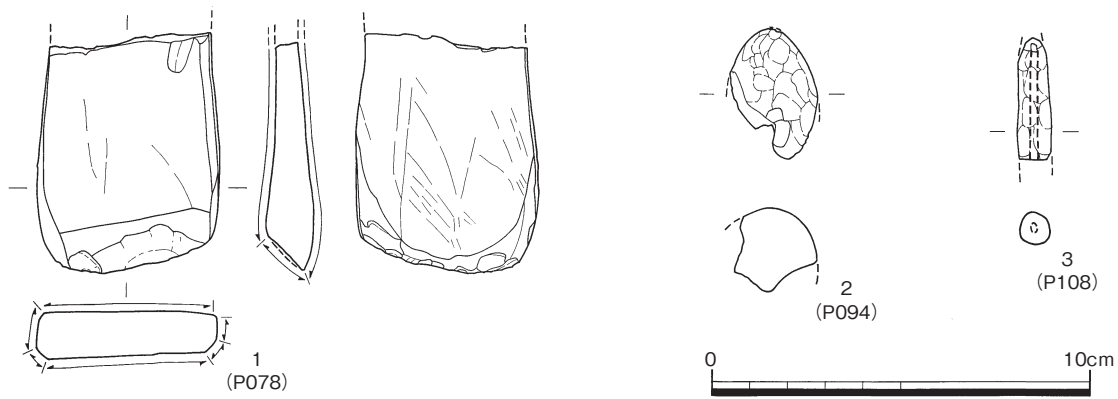
C区で検出した柱穴は約140基でそのうち約120基より遺物が出土している。そのうち8基が図示可能であったためここで報告しておく。

出土遺物 (第49図/図版一)

いずれも破片であったが、図示可能なものを図化した。時期は、弥生中期中ごろと、終末期に比定されよう。



第49図 C区1号周溝状遺構、1～13号溝、ピット出土遺物実測図(1/4)



第50図 C区ピット出土石製品、土製品実測図(1/2)

第7章 D区の遺構と遺物

D区で検出した遺構は井戸 17 基、土坑 21 基、溝 13 条、その他ピット約 40 基である。以下、表形式で報告する。表についての留意点は第3章2を参照。

1、井戸（SE）

D区		1号井戸					第51図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円	円	1.04	1.30	1.46	N-34°-W	後			
出土遺物	土器[第53図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
	土師器小皿・坏、青磁碗などが出土している。13世紀前半ごろの所産と考えられる。					出土遺物なし				
概要	北は調査区外へと広がる。南から中央の最深部まで2段階のテラス状の段を持つ。下から2段目のテラスは、壁面が緩く内湾して立ち上がる。また、南東部分から最深部までもテラス状の段をもつ。									

D区		2号井戸					第51図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	円	円	0.90	(0.06)	0.84	N-6.5°-E	後			
出土遺物	土器[第53図/図版-]					その他の遺物[第55図/図版-]				
	土師器の小皿・坏、青磁碗などが出土している。12世紀前半～後半に比定される。					1は砥石である。ほぼ全面を砥面として使用している。				
概要	西側が調査区外へと広がるため、全容は不明な点が多い。中央部分が最深部で、テラス状の段を持つ。このテラス状の段から、壁面が内湾して立ち上がる。									

D区		3号井戸					第51図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	円	楕円	1.26	1.26	1.12	N-22.5°-W	後			
出土遺物	土器[第53図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
	12世紀末～13世紀初頭の所産と考えられる、土師器小皿・坏、中世須恵器鉢が出土している。					出土遺物なし				
概要	東側上層を攪乱により削平される。一段のテラス状の段を持つ。									

D区		4号井戸					第51図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD04		
	楕円	楕円	1.06	1.06	1.00	N-10°-E	後			
出土遺物	土器[第53図/図版6]					その他の遺物[第-図/図版-]				
	土師器坏、青磁碗・皿が出土している。12世紀中ごろ～13世紀中ごろであろう。									
概要	南側をSD04に切られる。東側にテラス状の段を持ち、中央部分が最深部となる。最深部は南へと低くなる。壁面より立ち上がりは、緩やかである。									

D区		5号井戸					第51図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	不整形楕円	楕円	1.46	1.32	0.58	N-0°	後			
出土遺物	土器[第53図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
	青白磁碗の破片のほかに、瓦質の播鉢が出土している。					出土遺物なし				
概要	西側上層をSD04に切られる。中央が最深部となる。最深部から緩やかに立ち上がり、一段の段を持つ。そこから内湾しながら立ち上がる。									

2、土坑（SK）

D区		1号土坑					第52図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P016・017		
	楕円	楕円	3.14	(1.66)	4.2	N-79°-W	後	SK06		
出土遺物	土器[第54図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
	多くの土器が出土している。時期は、弥生中期後葉までであろう。					出土遺物なし				
概要	北側が調査区外へと広がるため全容は不明である。東西両側にテラス状の段が確認できる。									

D区		2号土坑					第52図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	瓢箪状	円	4.24	2.44	1.04	N-29.5°-W	後			
出土遺物	土器[第53図/図版7]					その他の遺物[第55図/図版-]				
	土師器坏・小皿や瓦器碗、青白磁など多くの遺物が出土している。時期は、12世紀前半～13世紀代であろう。					2は石鍋である。口縁部に放射状の工具痕が残る。3は鉄製鎌である。				
概要	上層はSD04に切られる。土層観察により、掘り返しが確認できた。南側は掘り返しである。最深部より緩やかに立ち上がり、テラス状の段が確認できる。北側の底面は緩やかに立ち上がる。									

D区		3号土坑					第52図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	長楕円	長楕円	3.64	1.00	0.58	N-42°-W	後	P023		
出土遺物	土器[第54図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	弥生中期末～後期初頭に比定される土器が出土している。					出土遺物なし				
攪乱により削平箇所があるため、詳細不明な点がある。最深部は南側で80cm前後の土坑状に掘り込まれ、東から西へと下がる。最深部から北へ一段上がり、長軸1.36m、短軸0.96mの土坑状の浅い掘り込みがある。性格の不明で										

D区		4号土坑					第52図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD01		
	長楕円?	長楕円?	(27.6)	(14.2)	0.9	N-10.5°-W	後			
出土遺物	土器[第54図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	出土遺物は少量で、時期は弥生中期中頃に比定されよう。					出土遺物なし				
北側は現代の井戸に切られ、東側はSD01に切られるため、遺構の全体形は不明である。										

D区		5号土坑					第52図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SK06、P020		
	楕円	楕円	0.86	(0.76)	0.14	N-79°-W	後			
出土遺物	土器[第-図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	出土遺物なし					出土遺物なし				
他の遺構に切られ、全容は不明である。底面は、西から東へ下がる。										

D区		6号土坑					第52図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SK01、P017		
	楕円?	楕円	1.20	(0.76)	0.15	N-79°-W	後	SK05		
出土遺物	土器[第54図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	時期は弥生中期前葉～中期後葉であろう。					出土遺物なし				
平面形態は楕円だが南西隅がやや方形である。北側をSK01に切られる為全容は不明である。底面は南から北へ下がる。										

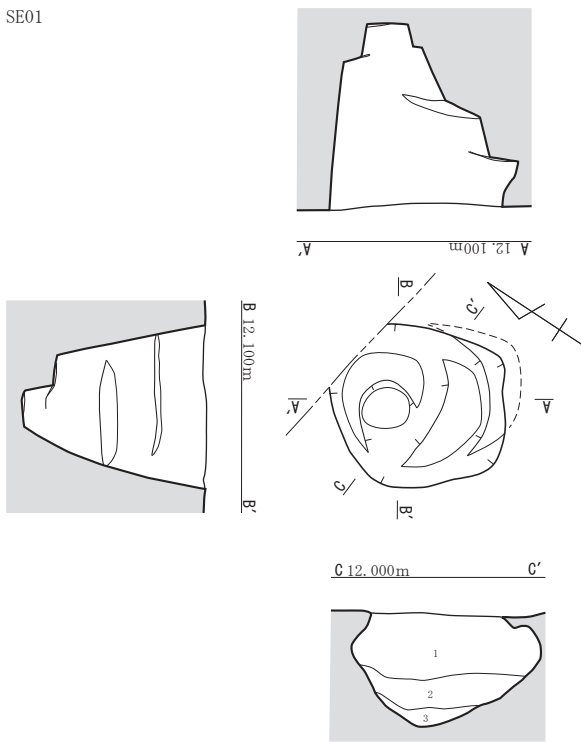
D区		7号土坑					第52図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	不整形楕円	円形	1.26	0.80	0.62	N-73°-E	後			
出土遺物	土器[第54図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	内面に稜が入らないタイプの土師器の小甕である。時期は5世紀後半以降であろう。					出土遺物なし				
最深部は西側である。中央が一番低く鉢状で、東へ緩やかに立ち上り、テラス状の段を持つ。性格は不明である。										

D区		8号土坑					第52図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P028		
	長楕円	長楕円	4.68	(1.18)	0.30	N-81°-W	後	P027		
出土遺物	土器[第54図/図版6]					その他の遺物[第55図/図版8]				
概要	土師器の丸底坏や有稜の高坏が出土している。時期は古墳中期中葉～後期初頭であろう。					4は土製の模造鏡である。				
南側は調査区外へと広がるため詳細不明である。底面は中央部分がいちばん低くゆるい鉢形状である。性格不明な土坑である。										

D区		9号土坑					第52図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	円形	円形	0.82	0.76	0.84	N-10.5°-E	後	P029		
出土遺物	土器[第-図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	多くの遺物を出土しているが、図化するに至らなかった。時期は12世紀中ごろの遺構であろう。					出土遺物なし				
底面からほぼ垂直に壁面が立ちあがる。また、中央部分がいちばん低い。										

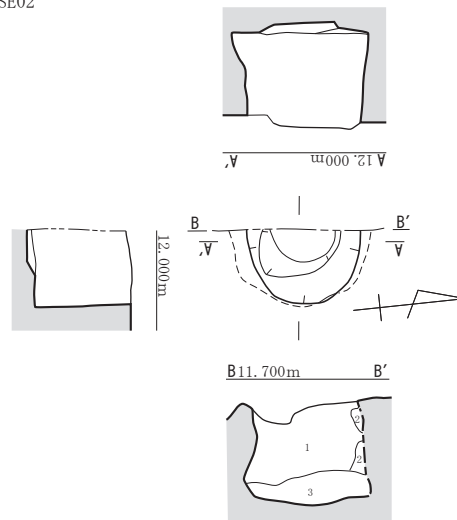
D区		10号土坑					第52図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円?	楕円?	1.22	(0.80)	0.40	N-9.5°-W	後			
出土遺物	土器[第-図/図版-]					その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	土器片が出土しているが、細片である。時期不明古代か?					出土遺物なし				
上層を攪乱によって削平され、東側はSD05により切られ詳細は不明である。底面は北から南へ下がる。										

SE01



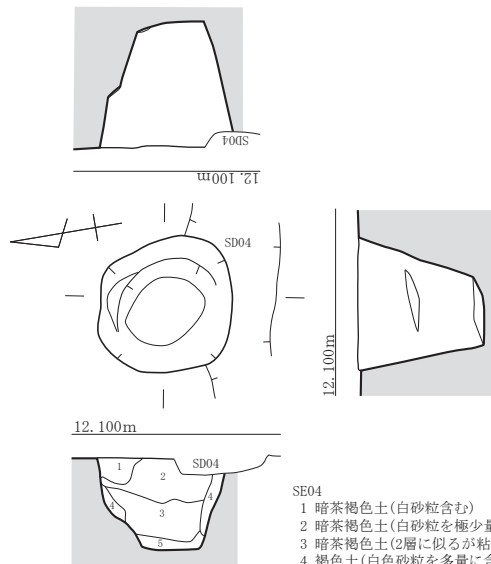
- SE01
 1 黒褐色土(粘性高くよくしまる。黄褐色土粒均質に混じる。土器片含む。)
 2 黒褐色土(粘性高くしまる。黄褐色砂質ブロック多量に含む。土器片含む。)
 3 灰黄褐色土(シルト質。黒褐色粘質土混じる。)

SE02



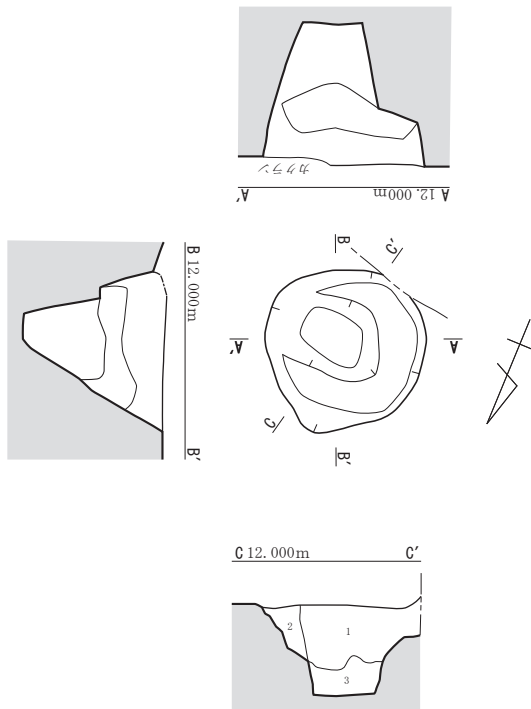
- SE02
 1 黒色土(粘質でよくしまる。灰黄色砂質土ブロックと黄褐色土ブロックが多量に混じる。)
 2 黄灰褐色土(砂質でよくしまる。)壁面崩落土か
 3 黄灰褐色土(砂質でよくしまる。黄褐色土と灰黄色砂質土と黒色土が多量に混じる。)

SE04



- SE04
 1 暗茶褐色土(白砂粒含む)
 2 暗茶褐色土(白砂粒を極少量含む)
 3 暗茶褐色土(2層に似るが粘性高い)
 4 褐色土(白色砂粒を多量に含む)
 5 淡黒色土(ややゆるく粘性が高い)

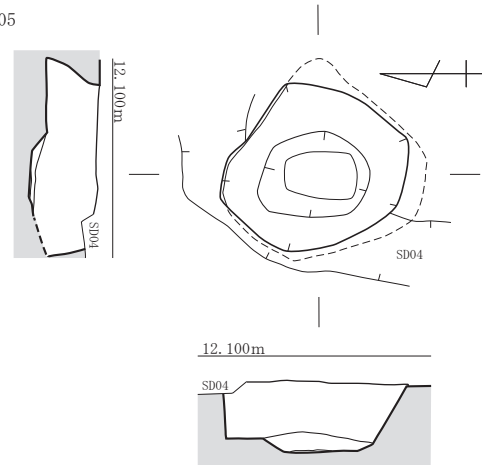
SE03



- SE03
 1 黒色土(よくしまる。黄褐色土ブロック混じる。)
 2 淡黒色土(しまる。黄褐色土混じる。)壁面崩落土
 3 淡黒色土(ややゆるい。黄褐色土ブロックが多量に混じる。)



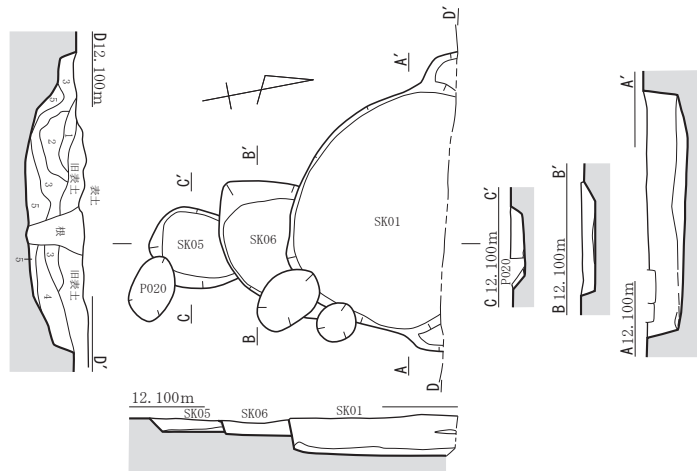
SE05



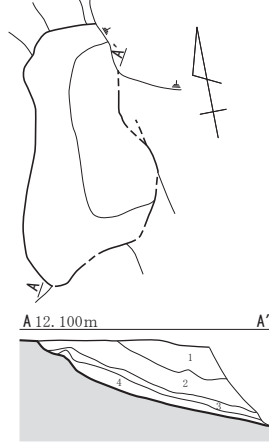
第51図 D区1~5号井戸遺構実測図(1/60)

SK01, 05, 06 (80)

- SK01
 1 淡黒色土(しりりあり、砂粒・黄褐色砂質土多量混じる。)
 2 黒色土(淡灰色土との混じり)。しりりあり。
 3 淡黒色土+黄褐色砂質土(地山質)
 4 暗灰色土+黄褐色砂質土(ややしりりあり)
 5 4層に似るが非常にゆるい。
 ※由緒土、暗灰色土(はくしまる。地山質)を多く含む。土器細片多量含む。) 敷地面

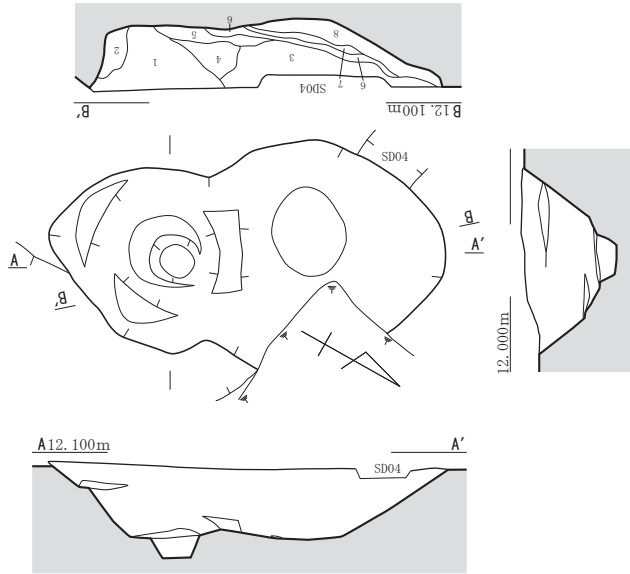


SK04 (80)



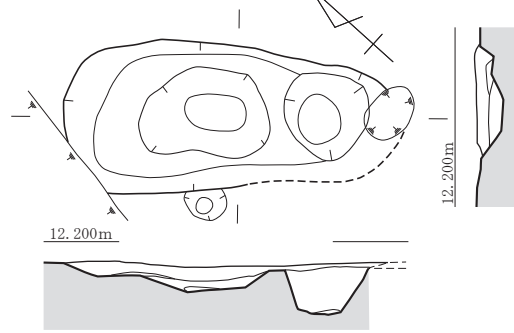
- SK04
 1 茶褐色土(ややしりりあり。白色砂粒含む。)
 2 茶褐色土(しりりあり。淡黒色・明茶色土ブロック多く含む。)
 3 暗灰色土(粘性高くゆるい。砂粒多く含む。)
 4 淡黄白色[地山]+淡黒色土ブロック

SK02 (80)

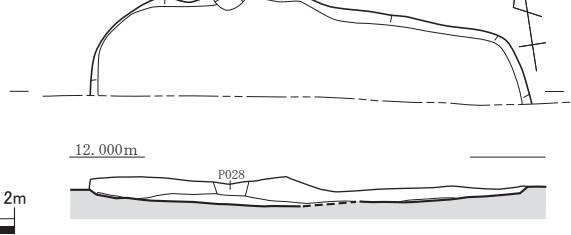


- SK02
 1 淡黒色土(ややしりりあり。茶褐色土粒、白色砂粒多く含む。土器片多量に含む。)
 2 淡黒色土+淡茶褐色砂質土
 3 淡黒色土(層に似るが粘性高くゆるい。黄褐色粘質土ブロック混じる。)
 4 淡茶褐色砂質土(地山質)
 5 暗茶褐色粘質土+淡茶色シルト
 6 腐葉層(炭化物・粘土粒)
 7 暗褐色粘質土(粘性高くゆるい。茶白色砂粒含む。)
 8 淡茶褐色土(粘性高い。白色・黄色砂粒多く含む。)

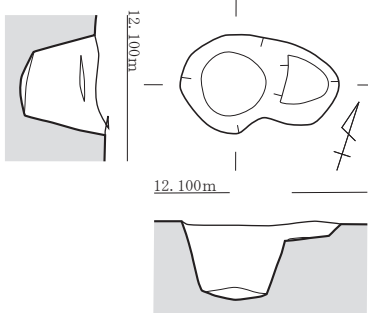
SK03 (80)



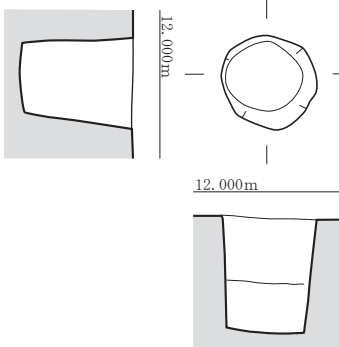
SK08 (80)



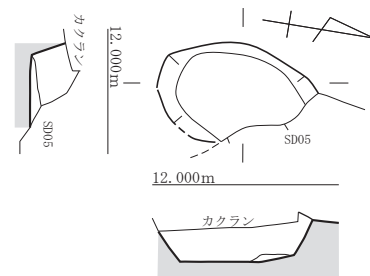
SK07 (60)



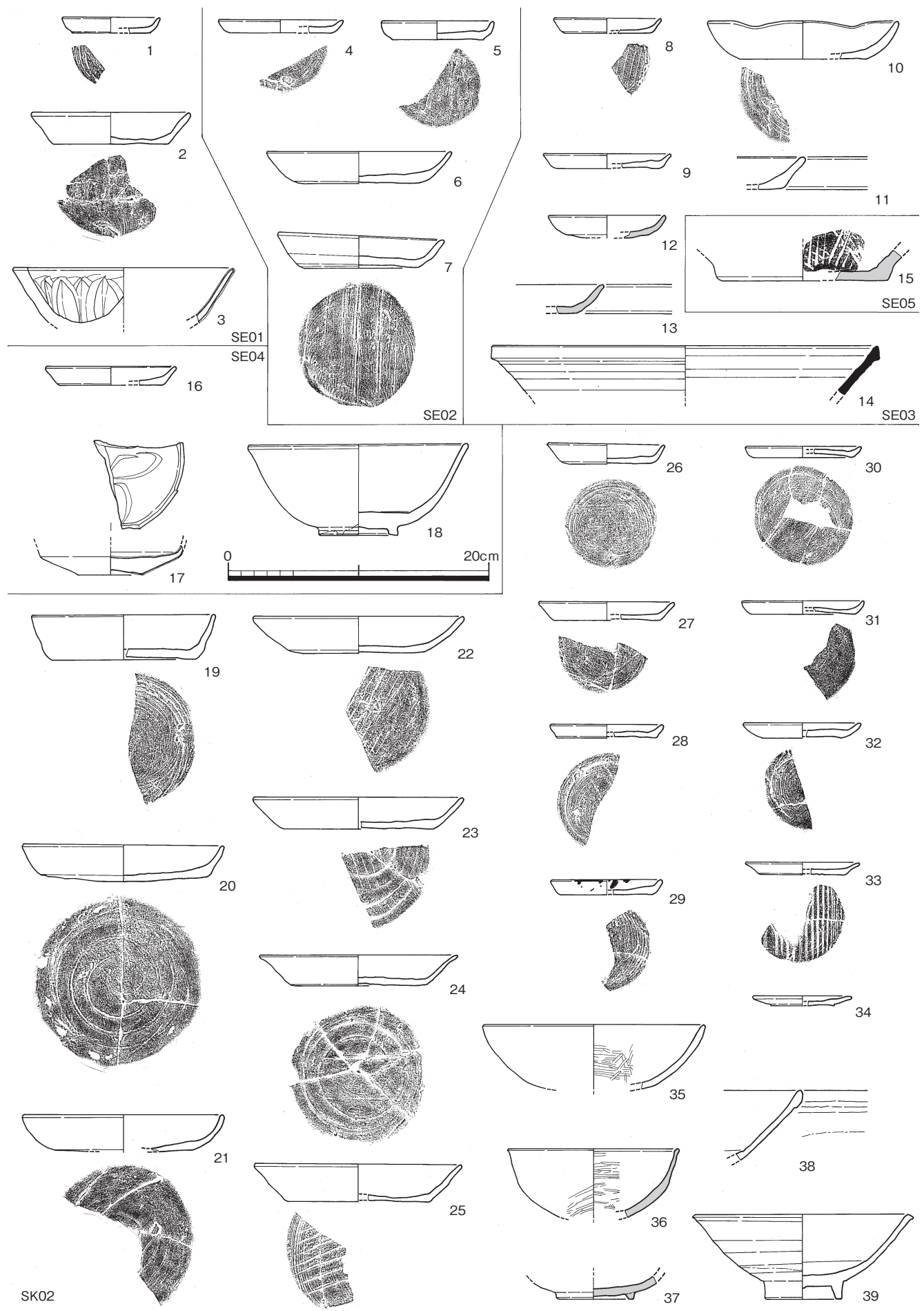
SK09 (60)



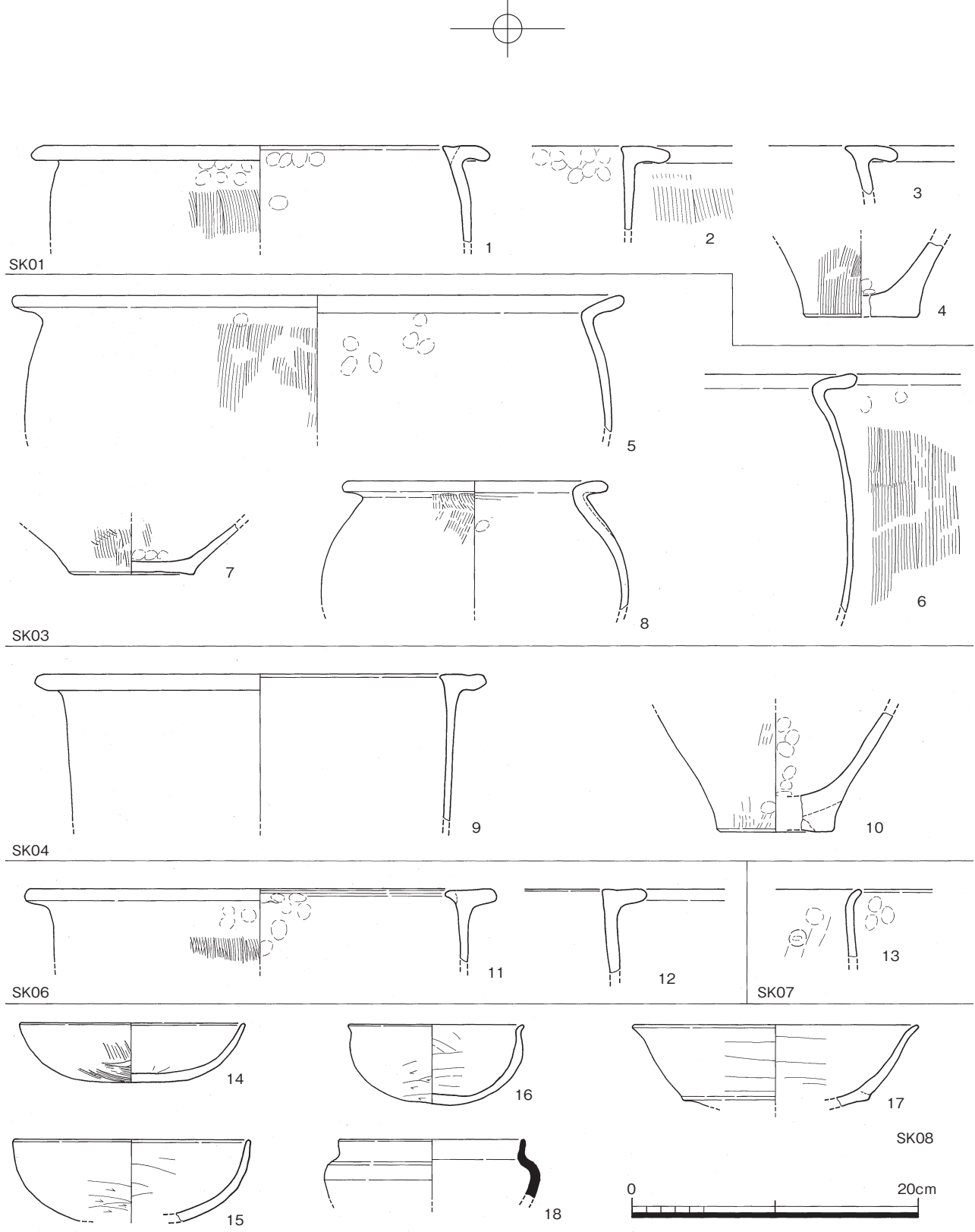
SK10 (60)



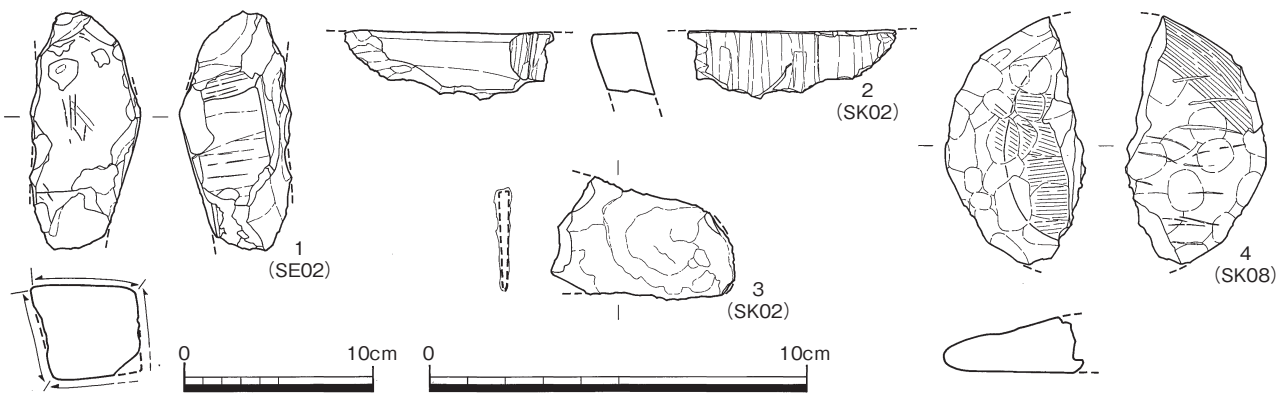
第52図 D区1~10号土坑遺構実測図 (7,9,10は1/60、他は1/80)



第53图 D区1~5号井戸、2号土坑出土遺物実測図(1/4)



第54图 D区1·3·4·6~8号土坑出土遗物实测图(1/4)



第55图 D区井戸、土坑出土石製品、土製品、金属製品实测图(1/2、1/4[1,2])

D区	1号溝		第56図/図版3			主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	
	(5.90)	2.80	1.09	ラッパ状	N-11°W	後	SK04
出土遺物	土器[第57図/図版-]				その他の遺物[第58図/図版-]		
	多期にわたる多くの遺物が出土した。陶磁器片より、17世紀後半以降の埋没と考えられる。				1は石鍋である。2は土鈴である。外面ほぼ中央に沈線が残る。		
概要	調査区を縦断する溝である。A区SD02の続きの溝であろう。多くの遺物が出土している。						

D区	2号溝		第56図/図版3			主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	
	(5.48)	4.00	0.70	ラッパ状	N-10.1°E	後	SD03
出土遺物	土器[第57図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]		
	15世紀中ごろ以降の土師質の鍋である。				出土遺物なし		
概要	南北に縦断する溝である。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。断面は、中央部分がいちばん低くやや『V』字形風である。						

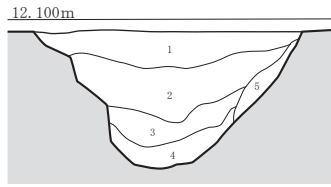
D区	3号溝		第56図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SD02
	(5.82)	0.88	0.44	逆台形	N-8.5°-W	後	
出土遺物	土器[第57図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]		
	青白磁の破片や、土師器の小皿が出土している。時期は13世紀中ごろ～14世紀初めであろう。				出土遺物なし		
概要	ほぼ南北に縦断する溝である。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。						

D区	4号溝		付図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	
	48.42	0.54~0.76	0.18	逆台形	N-79.5°-E	後	SK02、SE04、SE05
出土遺物	土器[第57図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]		
	17世紀末～18世紀中ごろの所産と考えられる染付の猪口が出土している。				出土遺物なし		
概要	方形の周溝状の遺構で、北半分を検出した。地図上で墓地の区画とほぼ一致するため、墓地の区画溝であると考えられる。						

D区	5号溝		付図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	
	(49.0)	1.02~1.44	0.36~0.44	逆台形	N-2°-W	後	
出土遺物	土器[第57図/図版-]				その他の遺物[第-図/図版-]		
	土師器の鍋破片や、染付碗が出土している。17世紀中ごろ埋没したと考えられる。				出土遺物なし		
概要	ほぼ南北に縦断する溝で、北から南へと深くなっていく。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。						

D区	6号溝		付図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	
	(5.12)	1.18~2.16	0.53~0.25	鉢状	N-3°-W	後	SK10
出土遺物	土器[第57図/図版-]				その他の遺物[第58図/図版-]		
	多期にわたる多くの遺物が出土している。17世紀前半以降には埋没したと考えられる。				上層で砥石と不明金属製品が出土した。不明金属製品は斧の可能性が有る。3は土錘で下層よりの出土である。		
概要	ほぼ南北に縦断する溝で、南から北へと深くなる。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。						

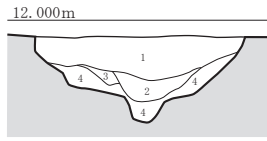
SD01 土層 (60)



SD01ベルト

- 1 暗灰色土(砂粒多く含み、よくしまる。土器片多量に含む。)
- 2 淡黒色土(やや砂質あり。ややしまる。土器片多量に含む。)
- 3 淡黒色土(ゆるい。砂粒多く含む。土器片多量に含む。)
- 4 淡黒色土(3層に似るが、3層より地山由来の砂混じる。土器片中量含む。)
- 5 淡黒色土+黄茶褐色砂質地山土

SD02 土層 (60)

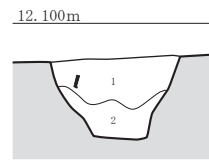


SD02ベルト

- 1 淡黒色土(砂粒混じるが粘性あり。土器片多量に含む。)
- 2 淡黒色土(砂粒細かい、ゆるい。)
- 3 淡黒色土(2層に似るが、礫含む。)
- 4 淡黒色土+淡黄茶白色砂質地山土(ゆるい)



SD03 土層 (40)

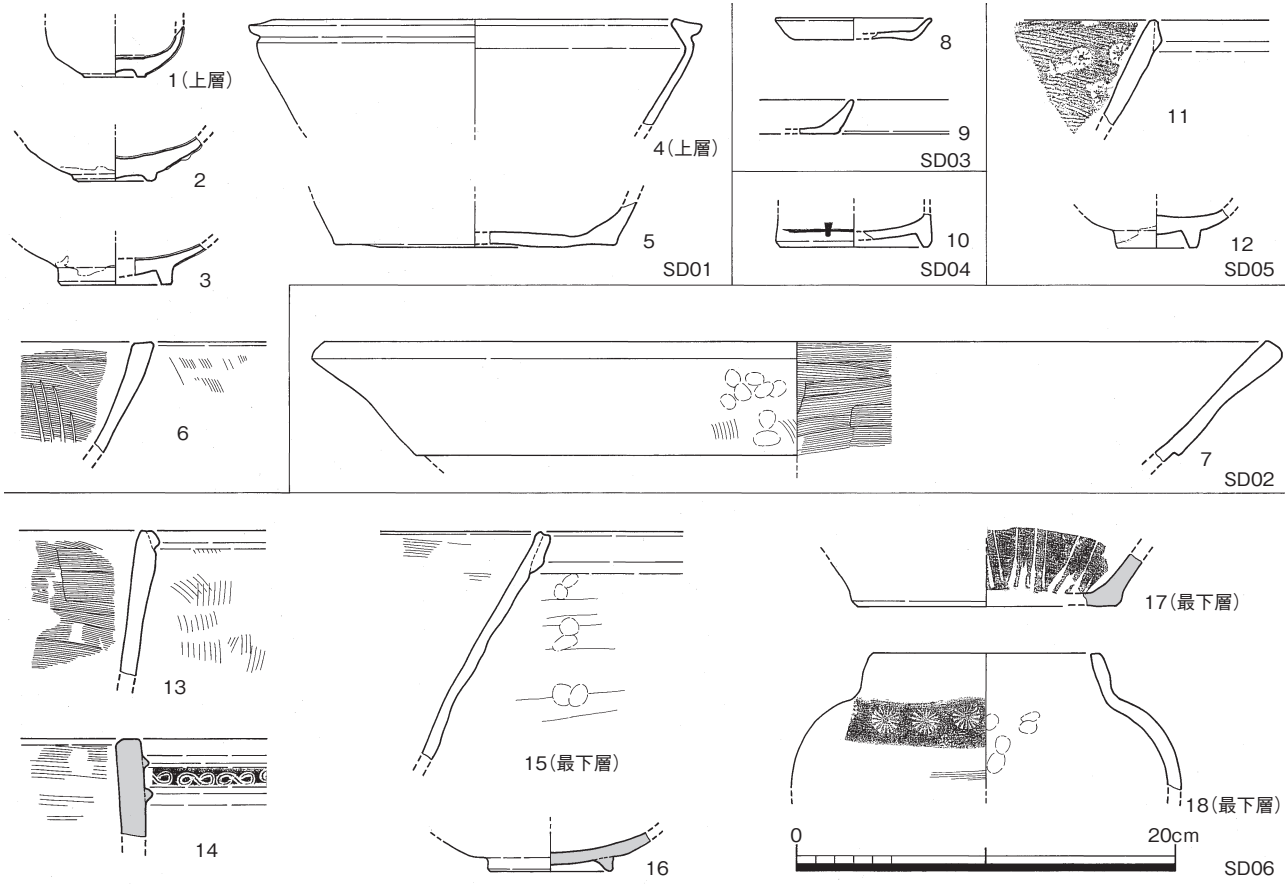


SD03ベルト

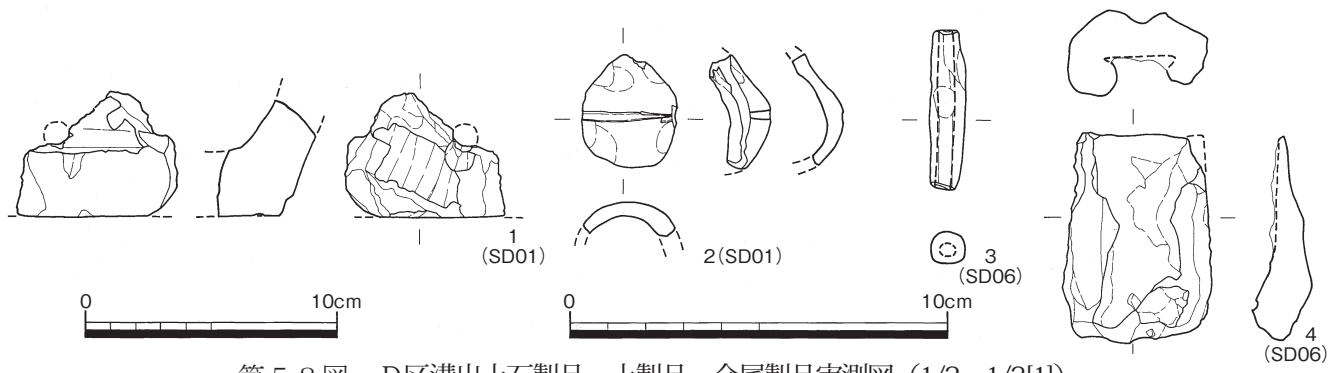
- 1 淡黒色土(白色砂粒を多く含み、よくしまる。土器片含む。)
- 2 淡黒色土+黄褐色砂質地山土(ゆるい)



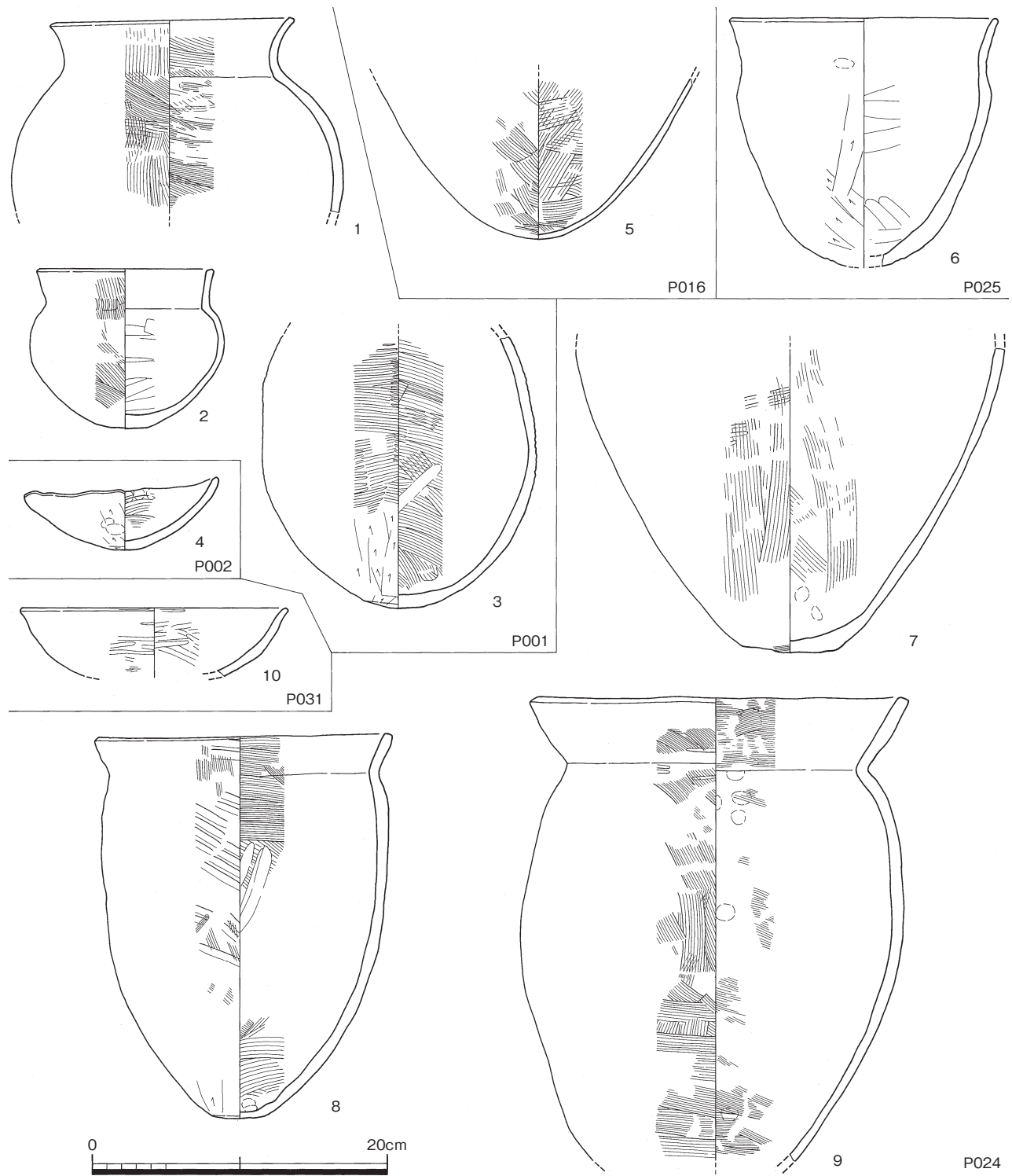
第56図 D区1~3号溝遺構実測図 (1,2は1/60、3は1/40)



第57図 D区1~6号溝出土遺物実測図 (1/4)



第58図 D区溝出土石製品、土製品、金属製品実測図 (1/2、1/3[1])



第59図 D区ピット出土遺物実測図 (1/4)

第8章 調査の成果

1. まとめ

小坂井屋敷遺跡は、これまでの調査により弥生時代中期後半、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の住居跡や中近世の井戸状遺構や区画溝と思われる大溝が多く確認されている。本調査は5次調査にあたるが、他調査と同様の時期の遺構が数多く確認された。

小坂井屋敷遺跡5次調査で検出した遺構は以下とおりである。

小児棺1基（B区）、祭祀土坑5基（B区）、住居跡29軒（A区11軒、C区18軒）、土坑41基（A区3基、B区10基、C区18基、D区10基）、井戸5基（D区）、溝28条（A区3条、B区6条、C区13条、D区6条）その他ピット群が260基である。

まず、B区であるが、平成9年に調査された小坂井屋敷遺跡の1次調査地の南約100m地点に位置するが、当初、1次調査と同時期の遺構を予想していたが、検出したのは弥生時代中期前葉～中葉の小児棺1基と、祭祀土坑5基である。小坂井屋敷遺跡内においても、当該時期の遺構はあまり確認されておらず、周辺遺跡の大坂井遺跡や、小坂井ぐうてんさん遺跡との関連も注目される。また、今回報告はできなかったが、B区1号祭祀土坑より出土した、黒曜石を産地同定に出しており小坂井地区の弥生時代遺跡群の様相もあきらかになってくるであろう。（詳細は、今年度報告の三沢遺跡に掲載参照されたし。）

A区、C区であるが、ほぼ同時期の住居群が検出されている。特筆すべき点は、A区の2号住居跡出土の鉢である。（第5図の10）である。外面に格子目のたたきを施す。当該地域周辺では見られない様相の鉢である。大陸からの影響を受けている可能性がある。

C区であるが、表土剥ぎ時に上層を剥ぎすぎてしまい、詳細な住居の記録は取れなかったが、12号住居において大量の土器が出土している。遺物はいずれも貼床直上のベット状遺構から、床面にかけての出土である。住居廃棄時に一括して住居内に廃棄した可能性がある。

D区であるが、他区と違い、住居跡は出土せず、土坑や井戸が出土している。特筆すべき点は4号溝であるが調査開始前に字図で墓地（近世）を確認しており、現地においても、まだ現在も使用されている墓が存在していた。表土剥ぎ後、検出した区画と墓地の区画が一致することから、4号溝は近世の墓域の区画溝であることが判明した。

溝であるが、検出した溝は28条にも及ぶ。そのうち、A区2号溝とD区1号溝は同一の大溝であることが分かった。時期は17世紀後半以降の埋没と考えられる。この溝は今年度調査の近隣調査区からも検出されている。この『大溝』は、小坂井屋敷遺跡3次調査からも区画と考えられる溝が発見されていることから、区画溝と考えている。また、B区1号溝とC区1号溝も同一の溝であろう。時期も先に報告した大溝同様17世紀後半以降の埋没である。同時期の区画溝と考えられる溝が何条も存在していた可能性がある。今後の調査成果で明らかになってくるであろう。

以上、小坂井屋敷遺跡5の概略をまとめたが、A区、C区において詳細な記録を取ることができず、各遺構について十分な評価を行うことができなかったことを、ここで深く陳謝する。

小坂井屋敷遺跡5 出土遺物観察表

◀ A区出土土器 ▶

出土遺構	挿図番号	図版番号	器種	法量			残存	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
				口径	底径	器高						
SC01	5-1		甕	(24.3)	-	(29.8)	約1/4強	褐色	砂粒:2~3mm	良好	口:下' 外:タタ後ウ、カズリ' 内:下'	内外面に黒斑あり
	5-2		甕	-	-	(12.0)	小片	外:にぶい黄褐色~灰黄褐色 内:褐色~にぶい黄褐色	砂粒:1~3mm	良好	口:横打' 外:ウ' 内:ウ'	口縁部外面、胴部にスガ付着。
	5-3		鉢	14.7	-	(7.1)	口~胴	外:淡褐色~にぶい黄褐色 内:淡褐色~灰黄褐色	砂粒:1~3mm	良好	口:下' 外:タタ' 内:ウ'	外面口縁部~胴部に黒斑あり
	5-4	4	鉢	18.8	-	(9.2)	2/3強	外:にぶい黄褐色~淡黄褐色 内:にぶい褐色~淡黄褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:タタ、カズリ' 内:ウ、ウ後打'	外面胴部~底部にかけて黒斑あり
SC02	5-5		甕	(17.6)	-	25.6	約1/2強	外:灰白色~褐色 内:浅黄褐色~にぶい褐色	砂粒:2~3mm 多い	良好	口:下' 外:ヒ' 神後打、ウ、カズリ' 内:ヒ' 神後打、強いヒ' 神後打'	外面胴部~底部にかけて黒斑あり
	5-6		甕	(17.2)	-	22.1	3/4弱	外:灰白色~灰褐色 内:にぶい褐色~灰白色	砂粒:1~2mm	良好	口:下' 外:ヒ' 神後打後打'、カズリ' 内:ヒ' 神後打、ウ、ヒ' 神後打'	外面口縁部から底部付近に黒斑あり。外面胴部調整打後打'
	5-7	4	甕	14.6	-	12.1	ほぼ完形	外:にぶい黄褐色~褐色 内: にぶい黄褐色~灰黄褐色	砂粒:1~2mm 僅か	良好	口:ヨコ打' 外:ウ後打'、カズリ' 内:ヒ' 神後打、ウ後打、ウ後打'、ヒ' 神後打'	内外面胴部一部に黒斑あり。内面1/2がウ後打'。外面胴部僅かにタタ付。ほぼウ打'により消される。
	5-8	4	甕	18.0	-	16.6~16.0	ほぼ完形	外:灰白色~褐色 内:浅黄褐色~灰白色	砂粒:1~2mm	良好	外:ヒ' 神後打後打'、ウ、カズリ'(一部打')、カズリ' 内:ヒ' 神後打、ウ、ヒ' 神後打'後打'	外面胴部に黒斑あり。外面胴部に僅かにタタ痕あり。カズリ'により消えている。
	5-9	4	甕	15.3	-	15.0	ほぼ完形	外:浅黄褐色~灰褐色 内:浅黄褐色~にぶい褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:下' 外:ヒ' 神後打、カズリ、カズリ後打'、カズリ' 内:ヒ' 神後打、ウ、ヒ' 神後打'	外面胴部~底部にかけて黒斑あり
	5-10	4	鉢	14.4	-	12.7	全体約3/4	外:褐色~黒褐色 内:褐色~灰黄褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	口:下' 外:タタ' (格子目)カズリ' 内:ヒ' 神後打、ウ、ヒ' 神後打'	外面胴部~底部に黒斑あり。外面胴部上半に格子状の打を施す。
SC05	11-1		鉢	-	-	(3.5)	小片	外:明赤褐色 内:褐色	砂粒:1~2mm、金雲母:微量	良好	口:ヨコ打' 外:ヒ' (丹塗り) 内:ウ後打、ウ後打'	内面丹塗。
	11-2		高坏	-	裾(12.0)	(2.0)	裾:約1/4	外:褐色~にぶい褐色	砂粒:微細~1mm、金雲母:微細多	良好	外:下' (一部ヨコ打)、ヒ'、ヒ'、ヒ' 内:下' (一部ウ)、ウ'	裾部に穿孔3か所残る。外面裾部に一部丹塗りが残る。
SC06	11-3		甕	-	(7.2)	(6.65)	底:約1/4	外:にぶい褐色~浅黄褐色 内:にぶい褐色~にぶい褐色	砂粒:1~3mm	良好	外:ウ' 底:下' 内:ヒ' 神後打'	
	11-4		甕	-	-	(4.0)	小片	外:褐色~灰黄褐色 内:灰白色~灰黄褐色	砂粒:1~2mm	良好	外:ウ' 底:下' 内:カズリか?	内面は摩耗により不鮮明だがカズリか?
	11-5		甕	-	-	(7.6)	小片	外:褐色~にぶい黄褐色 内: にぶい褐色~にぶい黄褐色	砂粒:1~3mm 多	良好	口:ヨコ打' 外:ヒ' 神後打後打'、ウ' 内:ヒ' 神後打、ヒ' 神後打'	1条の突帯あり
	11-6		甕	(31.2)	-	(8.0)	小片	外:褐色~灰白色 内:にぶい褐色~灰白色	砂粒:1~2mm、金雲母:微細~2mm	良好	口:ヒ' 神後打後打'、ヒ' 神後打、ウ' 外:ウ後打'、ヒ' 神後打'	
SC07	11-7	4	甕	(12.35)	4.8	13.3	全体約3/4	外:灰白色~褐色 内:にぶい黄褐色~褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	口:下' 外:ヒ' 神後打、底:ウ後打'、ウ' 内:ウ、ウ(その裏状)	外面胴部に黒斑あり。内面下半調整のウはヒ'裏状に施す。
SC09	11-8		甕	-	-	(3.2)	底:小片	外:内:にぶい褐色~褐色	砂粒:1~2mm	良好	外:ウ、ヒ' 一部工具痕:底:下' 内:ヒ' 神後打'	外面ウ調整、一部工具痕残る。
	11-9	4	短頸壺	12.8	8.0	12.3~13.65	全体約3/4	外:浅黄褐色~赤色 内:褐色~赤色	砂粒:1~2mm	良好	口:下' 外:丹塗り、ヨコ打'、ヒ' 底:下'、ウ' 内:ウ、ヒ' 神後打'	内面口縁部、外面に丹塗りを施し、内面胴部に丹塗れを確認。口縁部に穿孔4か所。器形に歪みがある。
SC12	11-10		甕	-	-	(3.1)	口:小片	外:浅黄褐色 内:褐色~にぶい褐色	砂粒:2~3mm	良好	口:ヨコ打'、強いヨコ打' 外:ヒ' 神後打強いヨコ打'、ヨコ打' 内:ヒ' 神後打強いヨコ打'、ヨコ打'	
SB01	11-11		鉢	-	-	(3.3)	小片	外:にぶい黄褐色~褐色 内:黒褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	口:下' 外:ウ' 内:ウ'	内面に黒斑あり
SD01	11-12		土師器杯	(14.4)	(10.0)	1.9	全体約1/4	外:にぶい褐色~淡褐色 内: にぶい褐色	砂粒:1~2mm 僅か	良好	口:外・内:回転打' 底:回転打切り	
SD02	11-13		羽釜	-	-	-	胴:約1/2	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	砂粒:1~2mm 僅か	良好	外:ウ、ヨコ打' 内:ウ後一部打'	外面に粘土接合痕残る
	11-14		青磁皿	(11.8)	(6.2)	2.8	全体約1/4	釉:オリーブ灰色 胎:黄灰色		良好	内・外:施釉 高台内:露胎	口縁が輪花風
	11-15		瓦質鉢	-	-	(5.3)	小片	外:灰色~灰黄褐色 内:黄褐色~褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:外:ヨコ打' 内:ウ'	外面2条の突帯あり

◀ B区出土土器 ▶

出土遺構	挿図番号	図版番号	器種	法量			残存	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
				口径	底径	器高						
ST01	15-1		上甕	(35.4)	-	-	約1/6	外:内:にぶい黄褐色	砂粒:微細~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:タタ方向ウ後打、工具によるヨコ打'、タタ方向ウ' 内:ウ後打、ウ' 内:ウ'	外面に種子圧痕(モリ?)とそれに伴う破裂痕あり。内面に布状の圧痕残る
	15-2	4	下甕	35.7	9.5	36.8	口:約1/3欠損	外:内:にぶい黄褐色	砂粒:微細~3mm非常に多い	良好	外:ヨコ打'、タタ方向ウ後打、タタ方向ウ' 底:下' 内:ヨコ、タタ方向ウ、ウ'、ヒ' 神後打、ウ'、ウ'	外面底部に黒斑あり。口縁部は磨減が著しく調整不明。
SF01	16-1		甕	31.0	-	(18.7)	口:約2/3	外:にぶい黄褐色~褐色 内: 褐色~灰褐色	砂粒:1~2mm 僅か	良好	口:ヨコ打' 外:強いヨコ打'、ウ' 内:強いヨコ打'、ヒ' 神後打'	外面胴部にスガ付着。内面胴部に炭化物付着。
	16-2		甕	(28.7)	-	(10.5)	口:2/3	外:褐色~にぶい黄褐色 内: 褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:ヨコ打'、ウ' 内:強いヨコ打'、ヒ' 神後打'	
	16-3	4	甕	30.8	-	(20.0)	口~胴:1/2	外:褐色~にぶい褐色 内:にぶい黄褐色~褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:ウ' 内:強いヨコ打'、ウ'、ウ'、ウ'、ウ'	外面胴部にスガ付着し一部被熱による赤変が確認できる
	16-4		甕	(29.7)	(6.9)	(35.2)	口~胴:底:1/2	外:褐色~灰褐色 内:褐色~ 灰黄褐色~灰褐色	砂粒:1~3mm	良好	口:ヨコ打' 外:ウ' 底:下' 内:ヒ' 神後打'	同一2個体を図面上で合成。胴部に僅かにスガ付着。内面底部に炭化物付着。胴下半でウ' 強く残る。
	16-5	4	甕	31.9	7.5	37.8	口:3/4欠損	外:内:褐色~にぶい褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:ウ' 底:工具打' 内:ヒ'、ヒ' 神後打'、ウ'	外面スガ付着。内面に炭化物(ウ')あり。底部に圧痕、工具痕残る。
	16-6	4	甕	31.8	7.7	36.6	全体3/4	外:にぶい黄褐色~褐色 内: 褐色~にぶい黄褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:強いヨコ打'、ウ' 底:下' 内:強いヨコ打'、ウ'	下層出土遺物と接合。外面全体的にスガ付着。
	16-7		甕	(32.2)	-	(16.8)	口~胴:底:3/4	外:内:褐色~灰褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:ウ後打、ヨコ打' 内:ヒ' 神後打'	外面胴部・口縁部にスガ付着
	16-8		甕	35.85	-	(41.3)	底部欠損	外:褐色~灰褐色 内:褐色~にぶい黄褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:ヒ' 神後打後打'、ウ' 内:ヒ' 神後打、ヒ' 神後打'	外面にスガ付着。1条の突帯あり。内面に黒斑あり
	16-9		甕	(38.0)	-	(56.1)	口~胴:約1/3	外:内:褐色~にぶい黄褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:ヒ' 神後打後打'、ヨコ打'、ウ' 内:ヒ' 神後打、ウ後打、ヒ' 神後打'、ウ'	口縁部外面にスガ付着。1条の突帯あり。
	17-1		甕	-	(7.8)	(14.7)	口~底:1/2弱	外:赤褐色~灰褐色 内:褐色~黒褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	外:ウ' 底:下' 内:下'、ヒ' 神後打'	内面に炭化物、外面にスガ付着。外面表面の剥離が著しい。
	17-2		甕	-	(7.5)	(11.2)	口~底:2/3	外:褐色~にぶい褐色 内:灰褐色~にぶい褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	外:ウ' 底:下' 内:ヒ' 神後打'	外面は磨減している。
	17-3		甕	-	(7.4)	(9.5)	口~底:1/2	外:にぶい褐色~黒色 内:灰黄褐色~黒色	砂粒:1~2mm	良好	外:ウ' 底:下' 内:ヒ' 神後打'	外面に黒斑あり。外面約1/2の表面が剥離している。
	17-4	4	蓋	天井部 33.0	裾 33.0	14.7	4/5	外:褐色~にぶい褐色 内:褐色~灰褐色	砂粒:1~2mm	良好	裾:ヨコ打' 外:ウ' 天:下' 内:ウ、ヒ' 神後打'	内面裾部にスガ付着。
	17-5	4	広口壺	-	(5.8)	(25.3)	口:欠損	外:褐色~にぶい黄褐色 内:褐色~にぶい褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	外:ヨコ打、ウ' 底:ウ' 内:ヒ'、ヒ'、ヒ'	全体的に磨減。底部に黒斑あり。外面に丹を施す。部分的にウ打'のヒ'が確認できた。
	17-6	5	広口壺	26.8	-	(21.0)	口~胴:3/4	外:褐色~にぶい赤褐色 内: 褐色~赤褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:暗文、ヒ'、ヒ' 内:ウ'	内面磨減している。外面頸部に暗文を施す。
	17-7		甕	-	7.7	(12.1)	口~底:3/4	外:褐色~にぶい褐色 内: にぶい黄褐色~黒褐色	砂粒:1~2mm	良好	外:ウ' 底:下' 内:ヒ' 神後打'	下層より出土。胴部内面に黒斑あり
	17-8		甕	31.5	-	(13.4)	口~胴	外:褐色~にぶい褐色 内: 褐色~灰褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコ打' 外:ウ' 内:強いヨコ打'、ヒ' 神後打'	下層より出土。

出土遺構	挿図番号	図版番号	器種	法量			残存	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考	
				口径	底径	器高							
SF01	17-9		甕	(29.2)	-	(7.0)	口:約1/5	外:橙色～にぶい橙色 内:橙色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ウダ後ヨコテ 内:強いヨコテ, 北:北後テ	下層より出土。	
	17-10		鉢	(28.8)	-	(10.0)	口～胴	外:橙色～明赤褐色 内:赤色～にぶい褐色	砂粒:1～2mm	良好	内:外:シキ	下層より出土。内外面ともに磨減が著しく焼成不明。	
	17-11	4	器台	7.8	裾9.0	14.15	全体2/3	外:内:橙色～にぶい褐色	細砂粒含む	やや不良	外:北:北後テ 内:北:北後テ	全体的に磨減し、内面は剥離気味。	
	17-12		器台	-	裾(10.8)	(4.6)	1/3	外:内:橙色～にぶい黄褐色	砂粒:1mm	良好	外:ウダ, ウダ後ヨコテ 裾:ヨコテ 内:北:北後テ, 強いヨコテ	下層より出土。裾部に赤変箇所あり。	
	17-13	4	支脚	-	裾9.7	(12.6)	約1/3	外:橙色～灰褐色 内:橙色～灰黄褐色	金雲母	やや不良	外:北:北後テ 裾:北:北後テ	裾部に圧痕残る。器壁が剥落している。裾内部は磨減し調整不詳。	
	17-14	5	支脚	-	-	(12.1)	約3/4	にぶい褐色	金雲母:多い、微砂粒	やや不良	北:北後テ	下層より出土。器形がゆがんでおり、槽口である。	
	17-15		支脚	-	裾6.4～6.8	(4.3)	裾	外:にぶい褐色～灰褐色	砂粒:1mm僅か、金雲母	良好	外:北:北後テ 裾:北:北後テ	全体的に器壁が剥落している	
SF02	19-1		甕	(13.8)	-	(11.9)	口～胴:1/3強	外:橙色～黒褐色 内:橙色～にぶい褐色	砂粒:2～3mm 多い	良好	口:ヨコテ 外:ウダ後ヨコテ, ウダ 内:強いヨコテ, 北:北後テ	一部器面に剥離している。口縁部外面に一部黒斑残る。	
	19-2		甕	29.6	-	(20.9)	口～胴:約2/3	外:にぶい褐色～黒褐色 内:褐色～黒褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ウダ後ヨコテ, ウダ 内:強いヨコテ, 北:北後テ	外面全体的にス付着。内面下半にコテあり。	
	19-3		甕	(32.0)	-	(20.3)	口～胴	外:橙色～灰黄褐色 内:褐色～にぶい褐色	砂粒:1～2mm 僅か	良好	口:ヨコテ 外:ウダ後ヨコテ, ウダ 内:強いヨコテ, 北:北後テ		
	19-4		甕	(31.9)	-	(19.8)	口～胴	外:にぶい黄褐色～黒褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ウダ後ヨコテ, ウダ 内:北:北後テ	内面炭化物付着。外面ス付着。	
	19-5		甕	(32.7)	-	(11.9)	口～胴	外:褐色～にぶい褐色 内:浅黄褐色～にぶい褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ウダ 内:強いヨコテ, テ	口縁部外面にわずかにス付着	
	19-6		鉢	29.9	9.6	17.0	ほぼ完形	外:褐色～にぶい黄褐色 内:褐色	砂粒:1～2mm 僅か	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ, 板状工具テ 底:テ 内:北:北後テ, 北:北後テ	底部外面に黒斑あり。口縁部かいこ1条の突帯あり。	
	19-7		甕	-	8.0	(8.2)	底部	外:褐色～にぶい褐色 内:にぶい褐色～にぶい褐色	砂粒:1～2mm	良好	外:ウダ 底:テ 内:北:北後テ		
	19-8		大口壺	-	(8.9)	(6.6)	胴～底:約1/4	外:褐色～にぶい黄褐色 内:褐色～にぶい褐色	砂粒:1～2mm 多い	良好	外:板状工具テ 底:テ 内:北:北後テ	底部黒斑あり。	
	19-9		壺	(32.6)	-	(14.3)	口～頭	外:褐色～浅黄褐色 内:褐色～にぶい黄褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ 後暗文, 暗文 内:ミカキ	外面暗文を施す。	
	19-10		大口壺	-	-	(6.5)	頭部	外:黒褐色～にぶい褐色 内:褐色	砂粒:2～3mm 多い	良好	外:ヨコテ 後暗文 内:北:北後テ	下層出土遺物と接合。外面約6mm間隔で暗文を施す。外面黒塗るか?	
	19-11	5	大口壺	-	7.2	(22.4)	頭～底	外:褐色 内:褐色	砂粒:1～3mm、金雲母:多い	良好	外:シキ, テ, シキ 内:シキ, 北:北後テ	下層出土遺物と接合。口縁部欠損。胴部に2条の突帯。全体的に磨減剥離しており、調整が不鮮明。	
	20-1	5	高坏	26.2	裾17.4	28.8	ほぼ完形	外:褐色～にぶい黄褐色 内:褐色～浅黄褐色	砂粒:2～3mm 多い	良好	口:ヨコテ 外:テ 方向シキ 裾:北:北後テ, ヲテ, ヲテ 坏:シキ	全体的に磨減 外面に丹がわずかに残る。丹塗りの高坏か?	
	20-2		高坏	-	裾18.05	(18.8)	脚～裾	外:褐色～にぶい黄褐色 内:褐色～にぶい褐色	砂粒:2～3mm 多い	良好	外:シキ 裾:棒状の圧痕残る・テ, ウダ 状工具, ヲテ		
	20-3		高坏	-	裾(18.6)	(18.3)	脚～裾:約1/3	外:褐色 内:褐色～にぶい黄褐色	砂粒:1～2mm 僅か	良好	外:シキ 裾:テ, ヲテ		
	20-4	5	器台	-	裾(12.0)	(10.8)	体～裾	外:褐色～にぶい黄褐色 内:褐色～にぶい黄褐色	砂粒:1～2mm	良好	外:ウダ, ウダ後ヨコテ 内:北:北後テ, ウダ	底部に黒斑あり	
	20-5		支脚	-	裾(7.3)	(7.5)	体～裾:約1/4	外:褐色～にぶい褐色 内:にぶい褐色～褐色	砂粒:1mm	やや不良	外:北:北後テ 底:テ	底部に穿孔か?	
	20-6		高坏	(14.0)	-	(4.8)	坏:約1/6強	外:褐色 内:褐色	砂粒含む	良好	口:テ 外:シキ 内:シキ	下層より出土	
	20-7		甕	(34.2)	-	(5.1)	口～胴	外:褐色～にぶい黄褐色 内:褐色	砂粒:2～3mm 多い	良好	口:ヨコテ 外:ウダ後ヨコテ 内:北:北後テ, 強いヨコテ, 北:北後テ	下層より出土	
	20-8		甕	-	(6.8)	(7.6)	底:約1/4強	外:褐色～にぶい黄褐色 内:褐色	砂粒:1～2mm	良好	外:ウダ, テ 底:テ 内:北:北後テ	下層より出土	
20-9		甕	-	7.6	(15.6)	胴～底	外:にぶい黄褐色～にぶい黄褐色 内:褐色	砂粒:1～2mm	良好	外:ウダ 底:テ 内:テ, 北:北後テ, 強いヨコテ, 北:北後テ	下層より出土。底部被熱による赤変あり。胴部外面ス付着。		
SF03	23-1		甕	(38.8)	9.2	27.25	全体約1/4	外:褐色～にぶい褐色 内:褐色～にぶい褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ウダ 底:テ 内:北:北後テ, 強いヨコテ, 北:北後テ	外面調整磨減が著しく詳細不明。外面胴部にス付着	
	23-2		甕	31.7	-	(17.7)	口～胴	外:褐色～にぶい褐色 内:褐色～にぶい褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ウダ 内:北:北後テ	外面胴部にス付着	
	23-3		甕	(31.2)	-	(13.5)	口～胴:約1/4弱	外:赤色～にぶい褐色 内:にぶい黄褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:北:北後テ, ヲテ, ウダ 内:強いヨコテ, 北:北後テ	外面口縁から胴部にかけてス付着	
	23-4		甕	-	7.4	(12.3)	底	外:褐色～にぶい黄褐色 内:褐色～黒褐色	砂粒:1～2mm 多い	良好	外:ウダ 底:テ 内:北:北後テ	外面胴部にわずかにス付着	
	23-5		甕	-	-	(10.6)	小片	外:にぶい褐色～褐色 内:にぶい褐色	砂粒:1～2mm 僅か	良好	口:ヨコテ 外:北:北後テ, ウダ後ヨコテ, ウダ 内:強いヨコテ, 北:北後テ		
	23-6	5	器台	(8.6)	裾9.55	14.4	ほぼ完形	外:褐色～にぶい褐色 内:褐色～にぶい黄褐色	砂粒:1～2mm 多い	良好	口:ヨコテ 外:ウダ 裾:ヨコテ 内:北:北後テ, テ		
	23-7		大口壺	(27.4)	-	(6.9)	口:約1/4	外:褐色 内:褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:暗文, テ 内:シキ	口縁部にス付着。外面に暗文を施す。	
	23-8		壺	-	-	(4.9)	小片	外:褐色～浅黄褐色 内:褐色～淡黄褐色	砂粒:1～2mm 多い	やや不良	口:磨減し不明 外:テか? 内:テか?	全体的に磨減が著しく詳細不明。口縁部内面わずかに黒斑を確認。	
	23-9		支脚	-	(6.8)	(5.3)	底:約1/4	外:褐色 内:褐色		やや不良			
	23-10		支脚	-	(7.4)	(3.9)	底:約1/4弱	外:褐色～にぶい褐色 内:褐色	砂粒:1mm	良好	外:北:北後テ, ヲテ 底:テ	内面剥離している	
	23-11		支脚	-	(8.2)	(3.9)	底:約1/2弱	外:にぶい褐色 内:褐色	砂粒:1mm	やや不良	外:裾:北:北後テか?	内面剥離している。外面磨減の調整の詳細不明。	
SF04	23-12		甕	-	7.1	(23.0)	底～胴	外:褐色～にぶい褐色 内:褐色～灰褐色	砂粒:1～3mm 多い	良好	外:ウダ 底:テ 内:北:北後テ, テ, 北:北後テ	内面底部にコテ。胴部外面にス付着。	
	23-13		甕	-	-	(3.1)	小片	外:浅黄褐色～にぶい黄褐色 内:浅黄褐色～にぶい黄褐色	砂粒:1～2mm 僅か	良好	口:ヨコテ 外:北:北後テ, ウダ 内:北:北後テ		
	23-14		蓋	(27.2)	-	(3.4)	小片	外:にぶい褐色～にぶい黄褐色 内:にぶい褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:北:北後テ 内:北:北後テ, ウダ		
	23-15		蓋	(30.4)	-	(3.8)	小片	外:にぶい褐色～灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ウダ 外:ウダ, 北:北後テ, ウダ後ヨコテ 内:北:北後テ	口縁部内面にス付着	
	24-1	5	壺	22.9	-	(35.15)	口～胴	外:褐色～浅黄褐色 内:褐色～浅黄褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ウダ, ヲテ, テ 内:北:北後テ, ウダ後ヨコテ, ウダ	胴部外面に円状に黒斑残る。口縁部と頭部の境に接合痕あり。	
SF05	24-2		土師器甕	(14.0)	-	(8.5)	口～胴:約1/4	外:にぶい褐色～灰褐色 内:にぶい褐色～灰黄褐色	砂粒:1～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ウダ後ヨコテ, ウダ 内:北:北後テ, ウダ後ヨコテ	胴部外面に黒斑あり。	
	24-3		土師器坏	(15.65)	(5.8)	3.7	1/4	外:褐色～にぶい褐色 内:褐色～暗黄褐色	砂粒:1～2mm 多い	良好	口:ヨコテ, テ, ヲテ 内:不定テ	底部に黒斑	
	24-4		甕	-	(8.0)	(8.0)	底:約1/4	外:にぶい黄褐色 内:灰褐色	砂粒:1～2mm 多い	良好	外:ウダ後テ 底:テ 内:北:北後テ	外面底部付近に黒斑。底部は焼成破裂。	
	24-5		土師器高坏	-	裾(12.4)	(5.2)	裾:約1/4弱	外:褐色～にぶい黄褐色 内:褐色～灰褐色	砂粒:1～2mm 多い	良好	外:ウダ 裾:ヨコテ 内:テか?		
SK02	29-1		土師器坏	(14.0)	-	(3.4)	口:約1/4弱	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	砂粒:1mm	良好	外:回転テ 内:回転テ	内面に一部調整を施す	
	29-2		瓦器塊	(18.0)	-	(6.1)	口～胴:1/5弱	外:にぶい黄褐色～褐色 内:にぶい黄褐色～黒色	砂粒:1～2mm	良好	口:回転テ 外:シキ後テか? 内:回転テ 後シキ, 回転テ	内面全体的に黒斑あり。外面磨減している。	
	29-3		瓦器塊	(16.8)	高台(9.2)	5.45	1/2	外:灰色～灰白色 内:灰色～黄灰色		精良	良好	口:テ 外:回転テ 後シキ, 回転テ 後シキ 内:回転テ 後シキ, 回転テ 後シキ	
	29-4		瓦器塊	(16.8)	高台(7.4)	5.0	1/2	外:灰色 内:灰色		精良	良好	口:回転テ 外:回転テ 後シキ, 回転テ 後シキ 内:回転テ 後シキ	
SK03	29-5		土師器皿	9.15	6.6	16.5	完形	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色～浅黄褐色	砂粒:1mm	良好	口:外:回転テ 底:回転テ切り 内:回転テ 後ヨコテ		
	29-6		土師器皿	(8.8)	6.2	1.4	約1/6	外:浅黄褐色～明褐色 内:浅黄褐色～にぶい褐色	砂粒:1mm 僅か	やや不良	口:外:内:回転テ 底:回転テ切り 内:回転テ 後ヨコテ		

出土遺構	挿入番号	図版番号	器種	法量			残存	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
				口径	底径	器高						
SK04	29-7		甕	-	-	(15.2)	小片	外: 橙褐色~にぶい赤褐色 内: 橙褐色~にぶい赤褐色	砂粒: 1~2mm	良好	口: ヲコテ 外: ヲノメ 内: ヌビ 神後テ	
	29-8		甕	-	(7.6)	(5.7)	底部	外: 橙褐色~灰褐色 内: 橙褐色~灰褐色	砂粒: 2~3mm	良好	外: ヲノメ 底: ヌビ 神後テ 内: ヌビ 神後テ	外面にス付着。底部外面中央付近に圧痕残る。
	29-9		支脚	-	(7.7)	(9.5)	底部	外: 浅橙褐色~にぶい橙褐色 内: 橙褐色	砂粒: 1mm	不良	磨減により詳細不明	全体的に磨減が著しく詳細不明
SK05	29-10		甕	(27.0)	-	(2.9)	口縁	外: 橙褐色~淡黄褐色 内: 浅黄褐色~にぶい黄褐色	砂粒: 1~2mm	良好	口: ヲコテ 外: ヌビ 神後テ ヲコテ, ヲノメ 内: ヲコテ	外面にス付着
	29-11		甕	-	(8.2)	(4.1)	底: 約1/6	外: 橙褐色~淡黄褐色 内: 浅黄褐色	砂粒: 1~2mm	良好	外: ヲノメ 底: 行 内: ヌビ 神後テ	
	29-12		甕	-	-	(2.0)	小片	外: 橙褐色~淡黄褐色 内: 橙褐色~浅黄褐色	砂粒: 1~2mm	良好	口・外: ヲコテ 内: ヲコテ	口縁部に赤帯箇所あり
SK06	29-13		甕	-	-	(7.1)	小片	外: 橙褐色~灰褐色 内: 橙褐色	砂粒: 1~2mm	良好	口: ヲコテ 外: ヲノメ 内: ヌビ 神後テ, ヌビ 神後テ	口縁部にス付着
	29-14		甕	(32.8)	-	(6.8)	口: 約1/4	外: 橙褐色~にぶい橙褐色 内: 橙褐色	砂粒: 1~2mm	やや不良	口: ヲコテ 外: ヌビ 神後テ, ヲコテ, ヲノメ 内: ヌビ 神後テ, ヌビ 神後テ	口縁部におわずかにス付着。頭部付近に1条の赤帯あり。
	29-15		高坏	-	-	(2.0)	小片	外: 赤褐色~橙褐色 内: 橙褐色	砂粒: 1mm	良好	横・内: ヲコテ 外: ヲコテ, 暗文	外面丹塗りで、暗文を施す。
SK09	29-16		甕	-	-	(1.3)	小片	外: 橙褐色~にぶい橙褐色 内: 橙褐色	砂粒: 1~2mm	良好	口・外: ヲコテ	
	29-17		甕	-	-	(2.2)	小片	外: 明赤褐色 内: 明赤褐色	砂粒: 2~3mm	良好	口・外: ヲコテ	
SK12	29-18		甕	-	-	(3.7)	小片	外: 橙褐色 内: にぶい橙褐色	砂粒: 1~3mm	良好	外: ヲノメ 底: 行 内: 行	底部やや上げ底気味
	29-19		甕	-	-	(1.7)	小片	外: 灰黄褐色~橙褐色 内: にぶい橙褐色	砂粒: 1~2mm	良好	口・外: 内: ヲコテ	
	29-20		高坏	-	-	(2.4)	小片	外: 橙褐色~にぶい橙褐色 内: 橙褐色~にぶい橙褐色	砂粒: 1~2mm	良好	口・外: 内: ヲコテ	内面に工具痕あり
	29-21		甕	-	-	(2.2)	小片	外: にぶい黄褐色~にぶい赤褐色 内: にぶい赤褐色	砂粒: 1~2mm	良好	外: 行 後のか? 底: 行	内面に剥離している。
SD01	31-1		陶器鉢	-	高台 (10.6)	(3.3)	底: 1/6	釉: 灰黄褐色, 灰黄色 胎土: にぶい赤褐色	精良、僅かに微砂粒	良好	外: 回転カズリ 内: 施釉・砂目	高台はカズリ出し。
	31-2		白磁碗	-	高台 (7.5)	(4.8)	底: 1/4弱	釉: 灰黄色 胎土: にぶい黄褐色	精良、微砂粒	良好	外: 施釉 台: 無釉 内: 施釉	高台はカズリ出し。
	31-3		陶器插鉢	-	-	(7.6)	小片	外: 灰黄色 黄: 黄灰色	砂粒: 微粒~2mm	良好	外: 行方向の後テ, ヌビ 神後 底: 行 内: ヲコテ	外面は5~6本/cm。内面挿目1単位5本。
SD04	31-4		白磁碗	-	高台 (4.5)	(3.0)	底部	釉: 灰白色 胎土: 灰白色	微砂粒	良好	外: 施釉 台: 無釉, 回転カズリ 内: 施釉	高台はカズリ出し。
SD07	31-5		甕	-	-	(1.8)	小片	外: 浅黄褐色 内: 浅黄褐色	砂粒: 微粒~2mm	良好	外: ヲコテ	全体的に著しく磨減している。
	31-6		壺	-	(7.2)	(2.2)	1/3	外: にぶい褐色~黒色 内: にぶい褐色	砂粒: 微粒~4mm	良好	外: 沓キ風テ 底: 行 内: 行, ヌビ 神後	外面胴部~底部に黒斑あり
	31-7		甕	-	(11.4)	(4.2)	底: 1/4弱	外: 浅黄褐色 内: にぶい黄褐色	砂粒: 微粒~4mm	良好	外: 行方向の底: 行 内: 行	底部に薄い黒斑あり。内面に破裂痕あり。
	31-8		無頭壺	-	-	(3.1)	小片	外: 内: にぶい黄褐色~赤褐色	微砂粒含む	良好	磨減しており不明	内外面に丹が残存。
	31-9		壺	-	-	(4.7)	小片	外: 橙褐色 内: 明赤褐色~にぶい黄褐色	砂粒: 1~2mm	良好	口: ヲコテ 外: ヲコテ 内: ヲコテ	外面に暗文を施す。
P004	31-10		甕	(23.7)	-	(2.1)	小片	外: 赤褐色 内: 赤褐色	砂粒: 1mm	良好	口: 沓キ 外: ヲコテ 内: ヲコテ	全体に丹を施す。
P007	31-11		甕	(23.0)	-	(4.3)	口	外: 内: にぶい黄褐色~浅黄褐色	砂粒: 1mm	良好	口: ヲコテ 外: ヌビ 神後テ, ヲコテ, ヲノメ 内: ヌビ 神後テ, ヲコテ, ヲノメ	
P034	31-12		甕	(17.0)	-	(6.8)	1/5	外: にぶい橙褐色 内: 橙褐色~にぶい黄褐色	砂粒: 1~2mm	良好	口: ヲコテ 外: ヌビ 神後テ, ヲコテ, ヲノメ 内: ヌビ 神後テ, ヲコテ, ヲノメ	外面全体にス付着

《C区出土土器》

残存・成形・調整技法=外: 外面 口: 口縁 内: 内面 底: 底部 天: 天井部 裾: 裾部 環: 環部 台: 高台

出土遺構	挿入番号	図版番号	器種	法量			残存	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
				口径	底径	器高						
SC02	38-1		甕	-	7.5	(5.2)	底	外: にぶい褐色 内: 黒褐色	砂粒: 微粒~2mm	良好	外: 行方向の底: 行 内: 行, ヌビ 神後, ヲコテ	内面に黒斑と炭化物の付着が見られる。底部に小粒の圧痕あり。
SC03	38-2		鉢	12.4	5.7	4.0	完形	外: にぶい黄褐色~黒褐色 内: にぶい黄褐色~黒褐色	砂粒: 微粒~3mm	良好	口: ヲコテ 外: ヲコテ, 工具テ 底: 行 内: 工具テ 後コテ, 工具テ	内面に僅かに炭化物・スの付着あり。接合しあう破片の色調が違いため廃棄後被熱を受けた可能性あり。
	38-3		甕	-	-	(12.8)	1/4	外: 黒褐色~灰黄褐色 内: 橙褐色	砂粒: 微粒~3mm	良好	外: 行後テ, ヲコテ 内: ヲコテ, ヲコテ	外面にス付着。底部内面に炭化物付着。
	38-4		手づくね鉢	3.7	2.2	2.7	完形	外: 灰黄褐色~褐色 内: 灰黄褐色~褐色	砂粒: 微粒~2mm	僅か	口・外: 内: 行, ヌビ 神後 底: 行	
	38-5		手づくね鉢	3.8	2.9	2.2	完形	外: 褐色~にぶい黄褐色 内: 灰黄褐色~にぶい黄褐色	微砂粒含む	良好	口・外: 行, 強めのニビ 神内: 行, ヌビ 神後 底: 行	
	38-6		鉢	9.5	3.1	3.4	ほぼ完形	外: 褐色~黒色 内: 灰黄褐色	砂粒: 微粒~2mm(主), 小石: 9mm	良好	口: ヲコテ 外: 行, ヌビ 神後 底: 行 内: 放射状にケ	
SC04	38-7		甕	(14.8)	-	18.6	3/4強	外: 黒褐色~灰黄褐色 内: 灰黄褐色	砂粒: 微粒~4mmの砂粒含む	良好	口: 行 外: ヌビ 神後テ, 行後テ, 行後テ 行方向の(一部工具テ), 行方向の, ナテ 内: ヲコテ, ヲコテ, ヲコテ, ヲコテ, ナテ, ナテ	歪みあり。口縁部を水平にした場合底部が真下にならない。
	38-8		甕	-	-	(3.0)	小片	外: にぶい褐色 内: にぶい褐色	砂粒: 微粒~2mm	良好	口: ヲコテ 外: 行方向の後コテ	
	38-9	5	甕	(19.2)	-	(20.2)	口: 3/4	外: にぶい黄褐色~黒褐色 内: にぶい黄褐色	砂粒: 微粒~4mm多い	良好	口: ヲコテ 外: ナテ, 行方向の, ヲコテ, ヲコテ 後コテ 内: ヲコテ, ヲコテ	頭部に1条の赤帯あり。歪みが強い。胴部外面に黒斑あり。内の単位は5本/cmと9~10本/cmがあり、2種類の工具を使用した可能性がある。
SC05	38-10		蓋	天 6.3	-	(9.5)	小片	外: 明赤褐色 内: 赤褐色	砂粒: 微粒~3mm	良好	外: 行方向の天: 行 内: 行, ヲコテ, ナテ	
	38-11		甕	-	(8.6)	(7.5)	1/4弱	外: 灰黄色~黒色 内: 橙褐色	砂粒: 微粒~2mm+4mm	良好	外: 行方向の底: 行 内: 行, ヌビ 神後, ヲコテ	底部~外面にかけて黒斑あり。内の単位は6~8本/cm
	38-12		甕	-	(7.7)	(4.2)	1/4弱	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色~灰黄褐色	砂粒: 微粒~5mm	良好	外: 行方向の底: 行 外: 行	内面に僅かに炭化物の付着あり。内の単位は9本/cm。
	38-13		甕	(24.9)	-	(25.4)	約1/6	外: にぶい黄褐色~にぶい赤褐色 内: 橙褐色~灰黄褐色	砂粒: 微粒~4mm非常に多い	良好	外: ヲコテ, 行方向の 内: ヲコテ, ヲコテ	外面に僅かにス付着。内外面ともに赤変し二次焼成顕著。外面は全体に器面の剥落・磨減が著しく破裂痕あり。
SC06	38-14		甕	-	-	(5.7)	小片	外: にぶい橙褐色 内: にぶい褐色	砂粒: 微粒~3mm	良好	口: ヲコテ 外: 行方向の後コテ 内: ヲコテ, ヌビ 神後, ヲコテ	行方向の単位4本/cm
	38-15		壺	-	(7.0)	(2.8)	1/4弱	外: 明赤褐色 底: 橙褐色 内: にぶい黄褐色	砂粒: 微粒~1mm	良好	外: 沓キ 底: 沓キ風テ 内: 行, ヌビ 神後	外面丹塗りで、若干磨減している。
SC08	38-16		壺	(11.9)	-	(6.0)	約1/4	外: 橙褐色 内: 褐色	砂粒: 微砂粒主, 2mm僅か	良好	外: 行方向の後コテ, ナテ 後コテ 内: ヲコテ, ヲコテ	口縁部外面と肩部に丹がわずかに残る。
	38-17		甕	-	-	(7.2)	小片	外: 黒色~明赤褐色 内: 橙褐色	砂粒: 微粒~2mm多い	良好	口: ヲコテ 外: ヌビ 神後, 行方向の後テ, ナテ 後コテ 内: ヲコテ, ヌビ 神後	外面に著しいスの付着が見られる。
	38-18		鉢	-	-	(4.1)	小片	外: 明赤褐色~橙褐色 内: にぶい黄褐色	砂粒: 微粒~2mm僅か	良好	外: ヲコテ, ナテ, ナテ方向の後コテ, 行方向の 内: 行方向の	内外面ともに暗文を施す。口縁部は磨減のため調整不明である。
	38-19		鉢	(13.5)	-	(4.2)	約1/4	外: 橙褐色~にぶい黄褐色 内: 明赤褐色~橙褐色	砂粒: 微粒~3mm	良好	口: ヲコテ 外: ヌビ 神後, ナテ 内: 行方向の後コテ, ナテ 後コテ 内: ヌビ 神後, ヲコテ	内面頭部下半より、工具痕が多く残る。全体的に調整不備である。
	38-20		器台	(17.8)	-	(9.1)	小片	外: 灰黄褐色 内: 灰黄褐色	砂粒: 微粒~3mm多い	良好	外: 行方向の後コテ, ヌビ 神後, ナテ 内: 行方向の後コテ, ヲコテ	内外面行方向の単位7本/cm。口縁部は調整は磨減及び欠損しているため不明。

出土遺構	挿図番号	図版番号	器種	法量			残存	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
				口径	底径	器高						
SC12	40-9		甕	(24.8)	-	(26.5)	口:約1/5	外:黒色～灰黄褐色 内:ぶい黄褐色	砂粒:微粒～2mm	良好	口:ヨコテ 外:好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ 内:ヨコテ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面に著しいスの付着あり。胴部内面下位に粘土接合痕。吻単位、外面好方向後ヨコテ11本/cm、内面好方向後ヨコテ9本/cm、好方向後ヨコテ4本/cm。
	40-10		甕	(32.1)	-	(13.2)	1/2弱	外:ぶい黄褐色～黒色 内:ぶい黄褐色	砂粒:微粒～3mm	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ 内:ヨコテ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面に黒斑あり。内面にスまたは炭化物?が僅かに付着。外面頸部に1条のハゲキによる刻目突帯あり。
	41-1		甕	(22.6)	-	(34.0)	1/3	外:明赤褐色 内:ぶい黄褐色	砂粒:微粒～5mm	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ 内:ヨコテ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	頸部に1条の突帯、外面に黒斑、浮文が1個残存、波型の文様あり。内外面に大小の破裂痕あり。器形に歪みあり。外面の単位は複数種類に及ぶ。内面の単位は3～4本/cm。
	41-2	5	甕	(20.1)	-	(27.4)	1/4	外:ぶい黄褐色～黒褐色 内:ぶい黄褐色～褐灰色	砂粒:微粒～3mm	良好	口:ヨコテ 外:好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ 内:ヨコテ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面黒斑あり。外面好方向後ヨコテ単位3～5本/cm、内面好方向後ヨコテ単位3～4本/cm、内面ヨコテの単位はヨコテの単位は好方向後ヨコテにより確認できない。
	41-3		甕	(15.3)	-	(21.8)	3/4強	外:明赤褐色～黒褐色 内:明赤褐色	砂粒:微粒～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ 内:ヨコテ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面に黒斑あり。外面ヨコテ好方向後ヨコテ単位11本/cm、内面ヨコテの単位はヨコテ好方向後ヨコテ8本/cm、ヨコテ好方向後ヨコテ5～6本/cm。
	41-4		鉢	20.0	-	9.7	2/3	外:明赤褐色～黒褐色 内:明赤褐色	砂粒:微粒～4mm	良好	口:雑なテ 外:雑なテ+横テ 神:雑なテ+横テ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面黒斑あり。内面のヨコテ単位12本以上/cm。底部丸みを帯びる。
	41-5		手づくね鉢	(7.8)	-	3.7	約1/2	外:灰黄褐色～黒褐色 内:ぶい黄褐色	砂粒:微粒～3mm	良好	口:好方向 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面に黒斑あり
	41-6		鉢	11.8	-	4.6	ほぼ完形	外:褐灰色～ぶい黄褐色 内:ぶい黄褐色～灰黄褐色	砂粒:1mm以下	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面に薄い黒斑。内面のヨコテ単位13本以上/cm。内面は丁寧な調整を施すや、外面は雑。
	41-7	6	鉢	(31.2)	-	(11.7)	1/2弱	外:ぶい黄褐色～黒褐色 内:褐色～灰黄褐色	砂粒:微粒～3mm	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面に薄い黒斑。外面口縁部付近にミダシの様な痕跡あり。吻の単位は好方向後ヨコテ8～9本/cm。
	41-8		低脚付高坏		-	脚(7.2)	脚:1/4強	外:ぶい黄褐色 内:ぶい黄褐色	砂粒:微粒～3mm多	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	脚外:シタキ 脚内:工具テ、ヨコテ好方向後ヨコテ 坏内:シタキ
	41-9		壺	(11.7)	-	(8.5)	口:ほぼ残存	外:ぶい黄褐色～褐色～灰黄褐色 内:ぶい黄褐色	砂粒:微粒～2mm	良好	口:ヨコテ 外:好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面ハゲの単位5本/cm
	41-10		器台	(15.8)	-	(12.8)	口:約1/2弱	外:灰褐色～黒色 内:ぶい黄褐色～褐灰色	砂粒:微粒～3mm	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面にスの付着。吻の単位は、外面好方向後ヨコテ10本/cm、内面好方向後ヨコテ11本/cm、好方向後ヨコテ5本/cm。内面に工具痕残存。
	41-11		器台		-	18.6	5/6強残存	外:ぶい黄褐色～ぶい黄褐色 内:ぶい黄褐色～ぶい黄褐色	砂粒:微粒～3mm	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	内外面僅かに赤変。外面上部に破裂痕がやや多く見受けられる。内面の単位は好方向後ヨコテ15本/cm。
	41-12	6	器台		-	18.4	ほぼ完形	外:褐灰色～灰黄褐色 内:褐灰色～灰黄褐色	砂粒:微粒～3mm	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	面的なスとび外面吻の単位は好方向後ヨコテ110～12本/cm、内面は好方向後ヨコテ10本/cm、好方向後ヨコテ4～6本/cm。
41-13		支脚	天井部(7.3)	裾(11.5)	9.2	2/3	外:ぶい黄褐色～黒褐色 内:ぶい黄褐色	砂粒:微粒～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	天:丁寧なシキ風テ 外:好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	
41-14		香形支脚	天井部最大(10.0)	裾12.9	10.7	ほぼ完形	外:ぶい黄褐色～褐色～褐灰色 内:灰黄褐色～褐色	砂粒:微粒～2mm	良好	口:ヨコテ 外:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	天:好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	
SK04	47-1		土師器 坏	15.1	10.5	3.1	ほぼ完形	外:灰褐色～ぶい黄褐色 内:褐色	砂粒:1mm以下	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:ハゲ切後テ+板状圧痕	外面に油煙の付着あり
	47-2		土師器 坏	(15.5)	9.8	3.0	3/4欠損	外:ぶい黄褐色 内:ぶい黄褐色～褐灰色	砂粒:1mm以下	やや不良	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:ハゲ切後テ+板状圧痕	内面のテはほぼ一定方向。
	47-3		土師器 坏	15.6	10.6	3.2	2/3	外:ぶい黄褐色～褐色 内:褐色～黒褐色	微砂粒少量	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:ハゲ切後テ+板状圧痕	内面著しい油煙の付着あり。外面口縁部油煙付着あり。
	47-4		土師器 坏	15.5	10.9	2.8	口:1/3欠損	外:ぶい黄褐色～褐色 内:褐色	微砂粒僅か	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	
	47-5		土師器 坏	(16.1)	11.3	3.0	口:1/3欠損	外:褐色 内:褐色	微砂粒僅か	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	内面・外面に油煙付着(外面には僅かに付着)
	47-6		土師器 坏	16.2	11.3	2.4	口:1/6欠損	外:ぶい黄褐色～ぶい黄褐色 内:ぶい黄褐色～ぶい黄褐色	1mm以下の微砂粒	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	歪みが著しい。
	47-7		土師器 皿	(8.8)	7.2	0.9	1/2	外:灰黄褐色 内:灰黄褐色	微砂粒	良好	口:外:回転テ 内:強いテ 底:回転糸切り+板状圧痕	
	47-8		土師器 皿	9.1	7.4	1.1	完形	外:ぶい黄褐色～灰褐色 内:ぶい黄褐色～灰褐色	微砂粒	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	内外面僅かに油煙の付着
	47-9		土師器 皿	9.2	7.4	1.2	3/4	外:明赤褐色 内:明赤褐色	微砂粒	良好	口:外:回転テ 内:ヨコテ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	
	47-10		土師器 皿	8.8	6.8	1.5	3/4	外:灰黄褐色 内:ぶい黄褐色	微砂粒多	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	
	47-11		土師器 皿	8.8	6.5	1.2	完形	外:褐色 内:ぶい黄褐色	微砂粒	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	
	47-12		土師器 皿	9.3	6.5	1.1	口:1/2欠損	外:ぶい黄褐色 内:ぶい黄褐色	微砂粒	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	
	47-13		土師器 皿	8.8	6.4	1.3	完形	外:ぶい黄褐色 内:ぶい黄褐色	微砂粒	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	
	47-14		土師器 燈明皿	(9.0)	6.3	1.3	2/3	外:褐灰色～黒褐色～ぶい黄褐色 内:灰黄褐色～黒褐色	1mm以下の微砂粒	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	内・外面の油煙の付着状況から、芯幅約1.0cmと推定できる。
	47-15		土師器 皿	8.7	6.5	1.2	ほぼ完形	外:ぶい黄褐色 内:ぶい黄褐色	主に微砂粒、4mmの砂粒	良好	口:外:回転テ 内:回転テ 後テ 底:回転糸切り+板状圧痕	一部接合しあう破片の色調が違う箇所あり。
47-16		瓦器 埴	17.2	高台6.6	17.2	ほぼ完形	外:灰白色～灰色 内:灰白色～灰色	微砂粒	良好	口:回転テ 外:回転テ 後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	高台貼り付け。内面は磨滅している為、シタキの単位不明瞭。	
47-17		瓦器 埴	(18.0)	-	(5.6)	口:1/6	外:灰黄色 内:灰黄色	微砂粒僅か	良好	口:回転テ 後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面にのシタキは丁寧なシタキ。	
47-18		瓦器 埴	17.9	高台6.2	6.2	約1/2	外:灰白色～暗灰色 内:暗灰色	砂粒:微粒～2mm	良好	口:ヨコテ 後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	高台貼り付け。	
SK06	47-19		甕			(12.9)	口縁部1/6弱	外:赤褐色 内:ぶい赤褐色	砂粒:微粒～6mm大小	良好	口:ヨコテ 外:好方向後ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面にス付着。2条の突帯あり。外面好方向後ヨコテ単位6本/cm。
	47-20		壺	(29.2)		(8.0)	小片	外:ぶい黄褐色 内:明赤褐色～褐色	砂粒:微粒～3mm	良好	口:シタキ風ヨコテ+横テ 神:ヨコテ+好方向後ヨコテ+横テ+好方向後ヨコテ+ヨコテ+好方向後ヨコテ	外面は磨滅の為調整が不明瞭だがシタキの痕跡が残る。

出土 遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	法量			残存	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
				口径	底径	器高						
SE04	53-16		土師器 小皿	(10.0)	(8.2)	1.4	約1/5弱	外:橙色 内:橙色	細砂粒	やや 不良	口・内・外:回転行 [?] か? 底:調整不明	全体的に摩滅しており調整の調査委は 不明。
	53-17		青磁 皿	-	(5.0)	(2.25)	底~胴: 約1/4	釉:オリープ灰色 胎:灰白色	精緻	良好	内・外:施釉 底:露胎	内面に縞を施す。
	53-18	6	青磁 碗	16.9	高台6.0	7.0	約2/3	釉:灰白色 胎:灰白色	精緻	良好	口・内・外:施釉 台:底:露胎	
SK02	53-19		土師器 杯	(14.0)	(10.8)	3.4	約1/2弱	外:橙色~にぶい 褐色 内:褐色	砂粒:1~2mm	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り 底 内:回転行 [?] 後行 [?]	内面に黒斑あり。
	53-20		土師器 杯	15.5	13.3	2.8	ほぼ完形	外:灰白色~浅黄褐色 内:浅 黄褐色	砂粒:1~2mm 僅か	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り 底 内:回転行 [?] 後行 [?]	器形がやや歪んでいる。
	53-21		土師器 杯	(15.4)	(10.5)	2.7	約1/2	外:淡橙~灰白色 内:淡橙~ 灰白色	細砂粒	良好	口・内・外:回転行 [?] か? 底:回転糸切り 底内:回転行 [?] 後行 [?]	外面磨滅している為調整の
	53-22		土師器 杯	(16.2)	(10.8)	2.8	約1/4	外:淡黄褐色~明褐色 内: 灰白色~暗灰色	砂粒:1~2mm 僅か	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り後板状 圧痕 内:回転行 [?] 後行 [?]	内面淡黒色に変色している。時計回りに 切り離し。
	53-23		土師器 杯	(16.2)	(11.4)	2.4	約1/4弱	外:浅黄褐色~褐色 内:浅 黄褐色	細砂粒	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り後板 状圧痕 底内:回転行 [?] 後行 [?]	外面胸部~底部に黒斑あり。反時計回 りの切り離し。
	53-24		土師器 杯	(15.2)	10.3	2.3	2/3	外:褐色~灰白色 内:灰白 色~浅黄褐色	砂粒:1~2mm 僅か	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り後板 状圧痕 底内:回転行 [?] 後行 [?]	底部焼成やや不良気味。
	53-25		土師器 杯	(15.9)	(10.6)	2.8	約1/4強	外:橙色~明赤褐色 内:橙 色	細砂粒	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り後板 状圧痕 底内:回転行 [?] 後行 [?]	
	53-26		土師器 小皿	9.0	6.8	1.6	ほぼ完形	外:淡褐色~灰白色 内:淡 褐色~にぶい褐色	細砂粒	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り後板 状圧痕 底内:回転行 [?] 後行 [?]	全体的に摩滅している。
	53-27		土師器 小皿	(10.4)	(8.0)	1.4	約1/2	外:灰色~褐色 内:にぶい 褐色~灰色	砂粒:1mm 僅か	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り 内: 回転行 [?] 後行 [?]	
	53-28		土師器 小皿	(8.7)	(7.7)	1.0	約1/2弱	外:にぶい褐色 内:褐色	砂粒:2mm 僅か	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り 底 内:回転行 [?] 後行 [?] か?	全体的に摩滅している。
	53-29		土師器 灯明皿	(8.6)	(7.0)	1.1	約1/3	外:にぶい褐色~灰褐色 内:褐色~灰白色	砂粒:1mm、 金雲母	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り 底 内:回転行 [?] 後行 [?]	内装面油煙付着。
	53-30		土師器 小皿	8.9	7.4	0.8	ほぼ完形	外:にぶい褐色~灰褐色 内: にぶい褐色~褐色	砂粒:1mm、金 雲母:多い	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り後板 状圧痕 底内:回転行 [?] 後行 [?]	
	53-31		土師器 小皿	(9.4)	(8.0)	1.0	約1/4弱	外:褐色 内:褐色	砂粒:1~2mm 僅か	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り	
	53-32		土師器 小皿	(9.0)	(6.0)	1.15	約1/2	外:灰白色 内:灰白色	細砂粒、金 雲母	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り後板 状圧痕 底内:回転行 [?] 後行 [?]	
	53-33		土師器 小皿	(8.7)	(6.8)	0.9	約1/2弱	外:にぶい褐色~灰褐色 内: にぶい黄褐色~にぶい褐色	砂粒:1mm、金 雲母	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:回転糸切り後板 状圧痕 底内:回転行 [?] 後行 [?]	底部板状圧痕は強に残る。
	53-34		土師器 小皿	(7.6)	(4.8)	0.7	約1/4弱	外:にぶい褐色~褐色 内: にぶい褐色	細砂粒	良好	口・内・外:回転行 [?] 底:調整不明	底部内面に工具痕が残る。非常に器高 が低い。
53-35		黒色土 器塊	(17.0)	-	(4.9)	口~胴: 約1/4弱	外:灰白色~黒色 内:黒	砂粒	不良	外:回転行 [?] か?、不定方向行 [?] 内:沙キ	全体的に摩滅がしている。内外面に共に 黒色の両黒か?	
53-36		瓦器 塊	(11.9)	-	(5.2)	口:1/5弱	外:灰白色~暗灰色 内:灰白 色~灰色	砂粒僅か	良好	口:回転行 [?] 外:回転行 [?] 、回転行 [?] 後行 [?] 内:回転行 [?] 後行 [?]		
53-37		瓦器 塊	-	高台 5.58	(1.7)	底部	外:灰色~灰白色 内:灰白 色~灰色	精良	やや 不良	口:調整不明 台:ヨテ 底:調整不明 内:調整不明	高台は貼り付के、内外面磨滅が著し い。	
53-38		白磁 碗	-	-	(5.3)	小片	釉:灰白色 胎:灰白色	緻密	良好	口・内:施釉 外:施釉、露胎	外面下半より露胎。口縁は玉縁状。	
53-39	6	白磁 碗	16.8	5.9	6.5	ほぼ完形	釉:灰白色 胎:灰白色	やや粗質	良好	口・内:施釉 外:施釉、露胎	外面下半より露胎。	
SK01	54-1		甕	(32.0)	-	(6.6)	口:約1/6 強	外:にぶい褐色~褐色 内: にぶい褐色	砂粒:2~3mm 多い	良好	口:エト [?] 後行 [?] ヨテ 外:エト [?] 後行 [?] 内:強いエト [?] 後行 [?] ヨテ、エト [?] 後行 [?]	外面にス付着。
	54-2		甕	-	-	(5.8)	小片	外:褐色~にぶい褐色 内: 褐色~にぶい褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨテ 外:強いエト [?] 後行 [?] 、 内:強いエト [?] 後行 [?] 、エト [?] 後行 [?]	外面にス付着。
	54-3		甕	-	-	(3.1)	小片	外:にぶい黄褐色~灰黄褐色 内:褐色~灰褐色	砂粒:2~3mm	良好	口:ヨテ 外:強いエト [?] 、ヨテ 内:強いエト [?]	
	54-4		甕	-	(8.1)	(5.2)	底:約1/4	外:にぶい褐色~褐色 内: 褐色~にぶい黄褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	外:ワメ 底:ワメ、ミズ 内:エト [?] エ	内面に磨滅が著しい。
	54-5		甕	(42.8)	-	(9.5)	口:約1/3 強	外:褐色~灰白色 内:にぶい 褐色~明褐色	砂粒:1~2mm 多い	やや 不良	口:ヨテ 外:ワメ 内:エト [?] エ	内外面共に磨滅が著しく調整の詳細不 明。
SK03	54-6		甕	-	-	(16.6)	小片	外:褐色~灰白色 内:灰白 色~にぶい黄褐色	砂粒:1~2mm 僅か	良好	口:エト [?] 後行 [?] ヨテ 外:ワメ 内:調整不 明	内面調整は磨滅により不明。
	54-7		甕	-	8.8	(3.5)	底:約1/2 弱	外:褐色~褐色 内:にぶい 黄褐色~灰黄褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	外:ワメ 底:ワメか? 内:ワメ、 エト [?] 後行 [?]	底部・内面磨滅により調整の詳細不 明。
	54-8	6	壺	(18.6)	-	(8.9)	口~胴: 約1/4弱	外:赤褐色~赤褐色 内:赤 褐色~にぶい褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	口:調整不明 外:ワメ 内:ワメ	内外面共に磨滅が著しく調整の詳細不 明。全体的に被熱により赤変。
SK04	54-9		甕	(31.6)	-	(10.2)	口:約1/4 弱	外:にぶい褐色~にぶい褐色 内:にぶい褐色	砂粒:1~3mm	良好	口:ヨテ 外・内:調整不明	全体的に磨滅の為調整の詳細不明。
	54-10		甕	-	(8.2)	(8.3)	底:約1/4	外:褐色~浅黄褐色 内: にぶい褐色~にぶい褐色	砂粒:2~3mm 多い	やや 不良	外:ワメ 内:ワメ、エト [?] エ	全体的に磨滅の為調整の詳細不明。
SK06	54-11		甕	(33.0)	-	(5.1)	口:部	外:褐色 内:褐色	砂粒:1~3mm	良好	口:ヨテ 外:エト [?] 後行 [?] ヨテ 内: エト [?] 後行 [?] 、エト [?] 後行 [?]	外面にス付着。
	54-12		甕	-	-	(5.9)	口:小片	外:褐色~にぶい褐色 内: 褐色	砂粒:2~3mm 多い	やや 不良	口:調整不明 外:ヨテ 内:調整不明	全体的に磨滅の為調整の詳細不明。
SK07	54-13		土師器 甕	-	-	(4.7)	口:小片	外:にぶい赤褐色~にぶい 褐色 内:灰褐色~灰褐色	砂粒:1~3mm	やや 不良	口:調整不明 外:エト [?] エ 内: エト [?] 後行 [?]	内面にスの付着。全体的に磨滅して いる為調整の詳細不明。
SK08	54-14		土師器 杯	(15.7)	5.6	4.1	約1/4弱	外:明赤褐色~褐色 内:明 赤褐色	砂粒:1~3mm 多い	良好	口:ヨテ 外:底:ワメ 内:ワメ、 工具行 [?]	外面に黒斑あり。内面に工具痕残る。
	54-15	6	土師器 杯	(16.6)	-	(5.7)	1/3弱	外:明赤褐色~褐色 内:明 赤褐色	砂粒:1~3mm 多い	良好	口:ヨテ 外:ワメ、ワメ 内: ワメ、工具行 [?]	外面に黒斑あり。
	54-16	6	土師器 杯	(12.3)	-	5.6	3/4	外:褐色~褐色 内:褐色	砂粒:1~3mm 多い	良好	口:ヨテ 外:ワメ、ワメ 内: ワメ	
	54-17		土師器 高杯	(20.0)	-	(5.7)	杯:1/4	外:褐色~褐色 内:赤褐色~ 褐色	砂粒:1~2mm 多い	不良	口:ヨテ 外:調整不明 内: 工具行 [?]	全体的に磨滅が著しく調整不明。
	54-18		須恵器 短径壺	(13.1)	-	(4.1)	小片	外:灰色 内:褐色	砂粒:1~2mm 僅か	良好	口・外・内:回転行 [?]	
SD01	57-1		陶器 碗	-	高台 (3.1)	(2.6)	底	釉:灰白色 胎:にぶい褐色	緻密	良好	外:施釉 台:露胎 底:施釉	上層より出土。
	57-2		施釉陶 器 碗	-	高台4.3	(2.2)	底	釉:明褐色 胎:にぶい褐色	緻密	良好	外:施釉 台:底:露胎 内:施釉	
	57-3		青磁碗	-	高台6.0	(2.1)	底	釉:明オリープ色 胎:灰白色	緻密	良好	外:施釉 台:底:露胎 内:施釉	
	57-4		陶器鉢	(23.9)	-	(5.5)	約1/5弱	外:オリープ褐色	良好	回転行 [?]		上層より出土。
	57-5		陶器 鉢	-	(14.8)	(2.4)	底:約1/4	釉:暗オリープ色 胎:灰色	やや粗質	良好	外:底:施釉 内:露胎	
	57-6		土師器 鉢	-	-	(5.8)	小片	外:にぶい黄褐色~にぶい 褐色 内:にぶい黄褐色	砂粒:2mm 僅か	良好	口:ヨテ 外:内:ワメ、 描目	外面調整は磨滅が著しく不明。
SD02	57-7		土師器 鉢	(51.2)	-	(6.35)	口:約1/4	外:黒褐色~にぶい褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨテ 外:エト [?] エ、 ワメ、ワメ 内:ワメ	外面全体にス付着。
SD03	57-8		土師器 小皿	(8.2)	(6.2)	1.1	約1/4	外:にぶい褐色 内:褐色	細砂粒	やや 不良	口・外・内:回転行 [?] 底:回転糸切り	内外面磨滅により調整不明。
	57-9		土師器 小皿	-	-	(1.8)	小片	外:にぶい褐色 内:褐色	細砂粒	良好	口・外・内:回転行 [?] 底:回転糸切り	
SD04	57-10		染付 猪口	-	高台8.2	(1.7)	底:1/4強		緻密	良好	外:底:施釉 内:露胎	

出土遺構	挿図番号	図版番号	器種	法量			残存	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
				口径	底径	器高						
SD05	57-11		土師器鉢	-	-	(5.5)	小片	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	砂粒:1~2mm 多い	良好	口:ヨコテ 外:テ 内:ウメ	外面にス付着。
	57-12		白磁碗	-	高台4.2	(2.0)	底	釉:明緑灰 胎:灰白色	緻密	良好	外:施軸 台:底:露胎 内:施軸	高台置付に砂付着。
SD06	57-13		土師器鍋	-	-	(7.6)	小片	外:灰黄褐色~橙色 内:にぶい橙色~灰黄褐色	砂粒:2~3mm	良好	口:ヨコテ 外:ウメ 内:ウメ	外面摩滅のため調整不明。
	57-14		須恵器火鉢	-	-	(5.2)	小片	外:灰色 内:灰色	砂粒:1~2mm		口:外:ヨコテ 内:ウメ	2条の突帯あり。
	57-15			-	-	(12.0)						最下層より出土
	57-16		瓦器塊	-	高台6.6	(2.0)	底	外:内:灰白色~灰色	細砂粒	良好	外:台:底:回転テ 内:回転テ 後テ	最下層より出土。高台貼り付け。
	57-17		土師器播鉢	-	(14.2)	(2.2)	底:約1/4弱	外:にぶい橙色~灰黄褐色 内:橙色~にぶい黄褐色	砂粒:1mm僅か	良好	外:底:テ 内:テ+播り目	外面摩滅により調整の詳細不明。
	57-18		土師器火鉢	(12.0)	-	(7.1)	約1/4	外:浅黄褐色~灰黄色 内:橙色~灰黄色	細砂粒	良好	口:ヨコテ 外:テ+菊花文 内:ユビ 後テ	最下層より出土
P001	59-1		甕	16.5	-	(13.1)	1/3	外:灰白色~にぶい橙色 内:灰白色~にぶい黄褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコテ 外:ウメ後ヨコテ,テ方向ウメ,不定方向ウメ 内:ウメ	外面に黒斑あり。外面胴部ス付着。
	59-2		壺	12.0	-	10.8	完形	外:にぶい橙~褐灰色 内:にぶい橙~褐灰色	砂粒:1~2mm 多い	良好	口:ヨコテ 外:ウメ 内:板状工具テ	外面に黒斑あり。外面摩滅により調整の詳細不明。
	59-3		甕	-	-	(13.4)	口:欠損	外:浅黄褐色~褐灰色 内:浅黄褐色~にぶい黄褐色	砂粒:1~2mm	良好	外:テ,ウメ 内:ウメ	対面胴部~底部にかけて黒斑あり。
P002	59-4		鉢	13.1	1.6	3.7~4.85	完形	外:橙色~褐灰色 内:橙色~褐灰色	砂粒:1~2mm 多い	良好	口:テ 外:ウメ後テ 内:ユビ 後テ	外面黒斑あり。器形が著しくゆがんでいる。
P016	59-5		甕	-	-	(10.9)	底	外:にぶい黄褐色~灰褐色 内:ない黄褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	外:ウメ 内:ウメ	外面にス付着。外面調整は摩滅により詳細不明。
P025	59-6		甕	(18.2)	-	16.9	約1/3	外:橙色~褐灰色 内:橙色	砂粒:1~2mm 多い	良好	口:ユビ 後テ 外:ウメ 内:テ	外面黒斑あり。内面調整磨滅のため詳細不明。
P024	59-7		甕	-	-	(20.5)	底~胴	外:橙色~にぶい褐色 内:橙色~浅黄褐色	砂粒:1~2mm 多い	良好	外:テ 後ウメ,ウメ 内:ウメ,ユビ 後板状工具テ (ヨコ方向)	内外面の調整は摩滅のため詳細不明。外面底部にス付着、被熱による赤変。胴部内面にス付着。
	59-8	6	甕	20.15	3.5	26.0	口:約1/3欠損	外:にぶい橙~灰黄褐色 内:にぶい黄褐色~灰褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:テ 外:ウメ+ウメ,ウメ 後ウメ,ウメ 底:ウメ 内:ウメ,ウメ 後テ,テ,ウメ,ユビ 後テ	口縁~胴部にかけてス付着。胴部外面摩滅の調整の詳細不明。
	59-9	6	甕	25.6	-	(31.4)	底:欠損	外:浅黄褐色~橙色 内:浅黄褐色~にぶい黄褐色	砂粒:1~2mm	良好	口:ヨコテ 外:ウメ,ヨコテ,ウメ 内:ウメ	外面にス付着。外面胴部下位被熱による赤変。内面胴部下位炭化物付着。内外面共に摩滅の調整の詳細不明。
P031	59-10		黒色土器塊	(18.15)	-	(4.6)	口~胴:約1/4	外:灰色~灰黄褐色 内:灰黄褐色~黒色		良好	口:回転テ 外:回転テ 後ウメ,粗いウメ 内:回転テ 後ウメ	内面黒色化。内黒か?

(出土石製品観察表)

出土遺構区	挿図番号	図版番号	器種	石材	法量 (復元値) cm			法量 g	備考	
					I (長さ)	W (幅)	t (厚さ)			
A	SC06	12-1	砥石	石英斑岩	8.4	6.5	5.0	384.5	全面使用が認められる。	
A	SK02	12-2	砥石	頁岩 (やや砂泥質)	(89.5)	(2.6)	(1.25)	50.5	砥面に沈着物あり。	
A	SD01	12-3	石鍋	滑石	残存高: 6.2cm			97.6		
A	SD01	12-4	砥石	流紋岩	(5.45)	(3.15)	(1.8)	37.4		
A	SD02	12-5	砥石	砂岩	(4.6)	(2.35)	(1.85)	35.0	ほぼ全面砥面として使用。	
B	SF01	21-1	8	石核	黒曜石	7.7	3.8	3.35	137.1	自然面残る。SF01中位より出土。
B	SF01	21-2	8	石鏃	安山岩	2.85	1.0	0.3	1.1	
B	SF01	21-3	8	砥石	砂岩	(7.35)	(3.7)	(2.8)	100.9	ほぼ全面砥面として使用か? 下半が欠損している。
B	SF03	25-1		砥石	砂岩	(7.4)	(7.2)	(1.7)	58.0	
B	SF04	25-2		剥片	黒曜石	1.1	3.1	0.5	1.2	自然面残る。
B	SF04	25-3		剥片	黒曜石	1.5	2.3	0.45	1.5	自然面残る。
B	SF04	25-4		剥片	黒曜石	2.7	2.5	0.65	4.3	自然面残る。
B	SD01	32-3	8	砥石		(8.1)	(3.95)	(3.5)	125.1	全面を砥面として使用か?
B	P055	32-5		石錘	花崗岩	(3.85)	(4.4)	(1.45)	30.0	上部打ち欠き。下部欠損している。
C	SC10	42-1		投弾	安山岩	3.65	3.6	2.75	43.2	
C	SC11	42-3		磨製石剣	頁岩	(18.15)	(5.8)	1.6	150.5	折頭後に転用。再研磨。中央部分の研磨が粗い。
C	SC20	42-4		砥石	頁岩	9.9	5.95	2.1	128.1	全面に沈着物が認められる。斑状を呈する。
C	SK07	47-32		石庖丁	安山岩	(2.4)	(2.9)	(1.4)	4.8	摩滅のため詳細不明。刃部に使用痕残る?
C	P078	50-1		砥石	頁岩	(6.3)	(4.85)	(1.25)	51.3	ほぼ全面を砥面として使用か?
D	SE02	55-1		砥石	流紋岩	(12.6)	(5.9)	5.0	444.5	全面を砥面として使用しているが、積極的な使用ではなく使用していくうちに面を形成したと考えられる。
D	SK02	55-2		石鍋	滑石	残存高: 3.3cm			160.4	口縁:放射状の工具痕後に研磨、内面:研磨、外面:テ位の工具痕。二次加工痕残る。
D	SD01	58-1		石鍋 転用品	滑石	残存高: 4.6cm			135.2	内外面工具痕残る。内面下位にス付着。穿孔あり。

(出土金属器観察表)

区	遺構	挿図番号	図版番号	器種	残存	法量 (残存値) cm			法量 g	備考
						I (長さ)	W (幅)	t (厚さ)		
A	SC02	13-1		鉄鏃	茎部:完形 身部約1/3	(7.4)	(1.8)	-	14.2	茎部断面は方形か?
A	SD02	13-6		楔		10.0	2.3	1.0	98.7	
B	SK01	32-1		刀子		(2.5)	(1.1)	0.2	1.8	
B	SD01	32-2		不明鉄製品		6.95	2.6	(0.5)	21.1	
D	SK02	55-3		鎌		(4.9)	(3.3)	0.3	12.9	破断面の錆が著しく、断面形状がはっきりとしない。
D	SD06	58-4		不明鉄製品		5.5	3.95	2.3	55.0	

(出土土製品観察表)

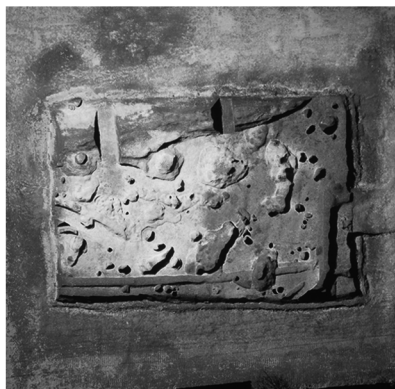
出土遺構区	遺構	挿図番号	図版番号	器種	残存	法量 (残存) cm	重量 g	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	備考
A	SC02	13-2		不明土製品	1/4弱	径:(8.2)	18.8	にぶい黄褐色	やや粗い	良	ヨコテ、ナテ、ナテ・指頭圧痕+工具痕	辺縁部にかなり厚みがある。模造鏡というよりも紡錘車の可能性がある。
A	SC05	13-3		土物形土製品	体部約2/3	長:(4.6) 幅:(3.5) 高:(3.1)	27.5	にぶい橙色	やや密。径2mm以下の石英・長石・雲母などを少し含む。	良	ナテ+指頭圧痕	頭部、尻部、脚部3本欠損。左前脚は残存する。極端に脚が短い。鈍重な腹部を呈する。豚か?
A	SD02	13-4	8	管状土錘	完形	長:4.95 幅:1.1 径:1.05	5.5	褐灰色	密。径1mm以下の石英・長石・雲母等僅かに含む。	良		
A	SD02	13-5	8	紡錘車	ほぼ完形	長軸:(4.55) 短軸:(3.2) 厚さ:(1.65)	37.6	にぶい黄橙	ほぼ密。径2mm以下の石英・長石・雲母等少し含む。	良	ナテ+指頭圧痕、布目痕	
B	SD01	32-4		管状土錘	完形	長:(5.15) 幅:(1.1) 厚:(1.0)	4.8	黒褐色	密。径1mm以下の石英・長石・雲母等僅かに含む。	良		
C	SC11	42-2		ミニチュア土器	破片	高:(2.35)	-	にぶい橙色	密。径1mm以下の石英・長石・雲母等僅かに含む。	良	ヨコテ+ユビ・ナテ、ナテ+ユビ・ナテ	手捏ね
C	SK11	47-33	8	投弾	約2/3	長:(3.8) 幅:(2.3) 厚:(2.15)	12.3	にぶい橙色～橙	密。径1mm以下の石英・長石・雲母等僅かに含む。	良	ナテ+指頭圧痕	黒斑あり
C	P094	50-2	8	投弾	約2/5	長:(3.4) 幅:(2.3) 厚:(2.2)	10.3	にぶい赤褐色	密。径1mm以下の石英・長石・雲母等僅かに含む。	良	ナテ+指頭圧痕	黒斑あり
C	P108	50-3		土錘	破片	長:(3.25) 幅:(0.9) 厚:(0.85)	2.7	褐色	密。径1mm以下の石英・長石・雲母等僅かに含む。	良		
D	SK08	55-4	8	模造鏡	1/2弱	径:(7.2) 厚:(1.45)	25.0	背部:にぶい褐色～橙色、鏡面部:橙色～にぶい橙色	やや粗い。径2mm以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む。	良	背面:ユビ・ナテ後ハケ、ユビ・ナテ、ヨコテ 鏡面部:ユビ・ナテ、ユビ・ナテ+擦過痕後ナテ	辺縁部の厚みは不均一。背面中央付近にハケが認められる。鏡面部片縁部にヨコテ+ハケが残る。
D	SD01	58-2		土鈴	約1/4	高:(3.0)	3.8	浅黄褐色	精緻。1mm以下の砂粒を僅かに含む	良	外面:丁寧なナテ 内面:ホリ痕、丁寧なヨコテ	外面に沈線あり。
D	SD06	58-3		土錘	ほぼ完形	長:(4.2) 幅:(0.95) 厚:(0.85)	2.7	明赤褐色	精緻。1mm以下の砂粒を極僅かに含む	良		表面の摩擦が著しい。



①小坂井屋敷遺跡5全景（真上から）



②A区全景（真上から）



③B区全景（真上から）



④C区全景（真上から）



⑤D区全景（真上から）



⑥調査区遠景（北から）
[1次調査地・遺跡南端をのぞむ]



⑦調査区遠景（東から）
[遺跡南西端及び周辺遺跡をのぞむ]

図版 2



③A区 SC01 貼床面 (東から)



②A区 SC01 完掘 (東から)



③A区 SC02 貼床面 (東から)



④A区 SC05 完掘 (北から)



⑤A区 SC07 貼床面 (東から)



⑥ST01 出土状況 (西から)



⑦B区 SF01 出土状況 (西から)



⑧B区 SF02 出土状況 (西から)



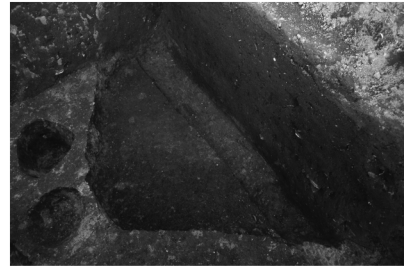
⑨B区 SF05 出土状況 (北から)



⑩B区 SD01b区ベルト土層 (東から)



⑪B区 SD02 西壁土層 (東から)



⑫C区 SC03 貼床面 (南から)



⑬A区 SC02 完掘
(南西から)



⑭A区 SC06 完掘
(西から)



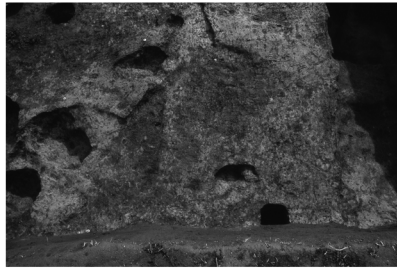
⑮B区 SF03 遺物出土状況
(南から)



⑯B区 SF04・SK08 完掘
(東から)



①C区 SC03 完掘（南から）



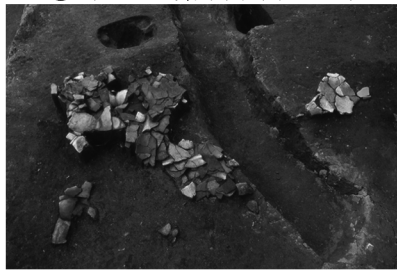
②C区 SC05 貼床面（北から）



③C区 SC05 貼床面（北から）



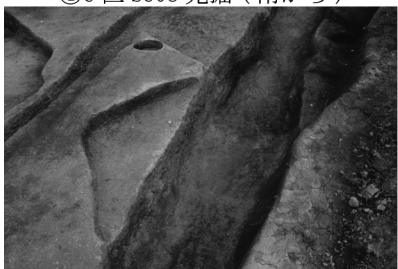
④C区 SC08 完掘（南から）



⑤C区 SC12 土器出土状況（東から）



⑥C区 SC12 完掘（東から）



⑦C区 SC17 完掘（南東から）



⑧C区 SC20 貼床面（南から）



⑨C区 SK04 遺物出土状況（東から）



⑩C区 SK11 完掘（北から）



⑪C区 SK16 完掘（西から）



⑫C区 SK17 完掘（南から）



⑬C区 SD01 土層（東から）



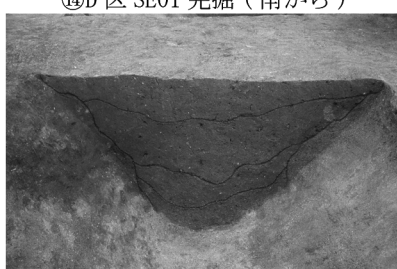
⑭D区 SE01 完掘（南から）



⑮D区 SE02 完掘（東から）



⑯D区 SK02 完掘（北東から）

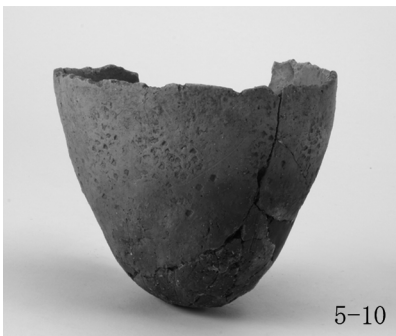


⑰D区 SD01 土層（南から）

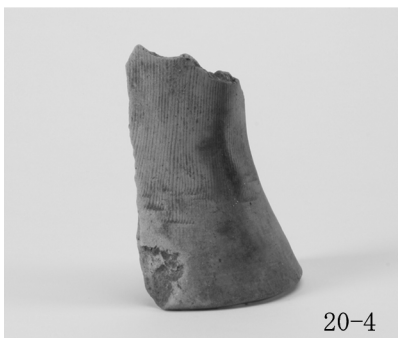
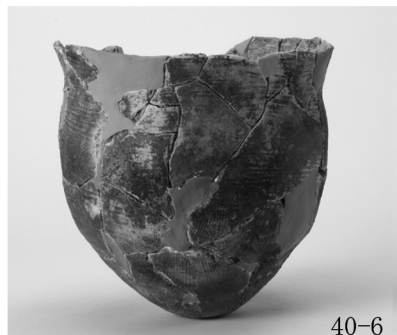
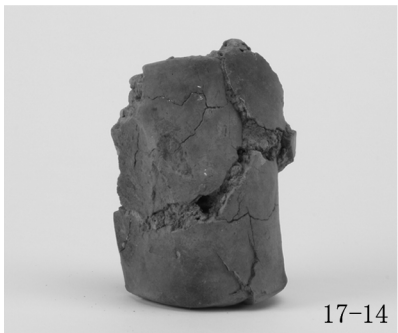


⑱D区 SD02 土層（南から）

図版 4 (遺物写真 1)



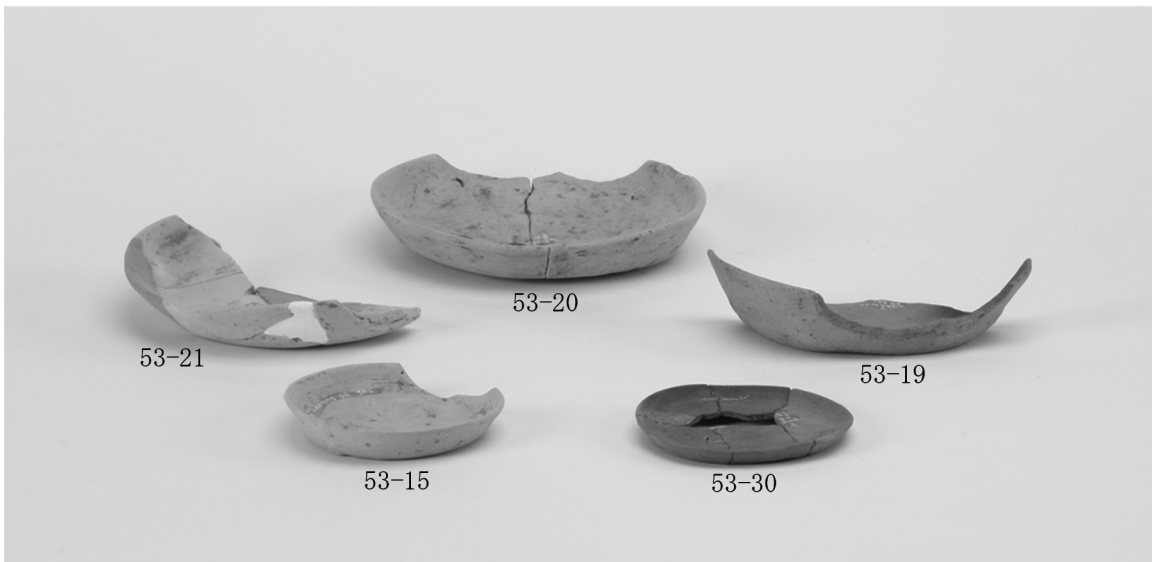
図版5 (遺物写真2)



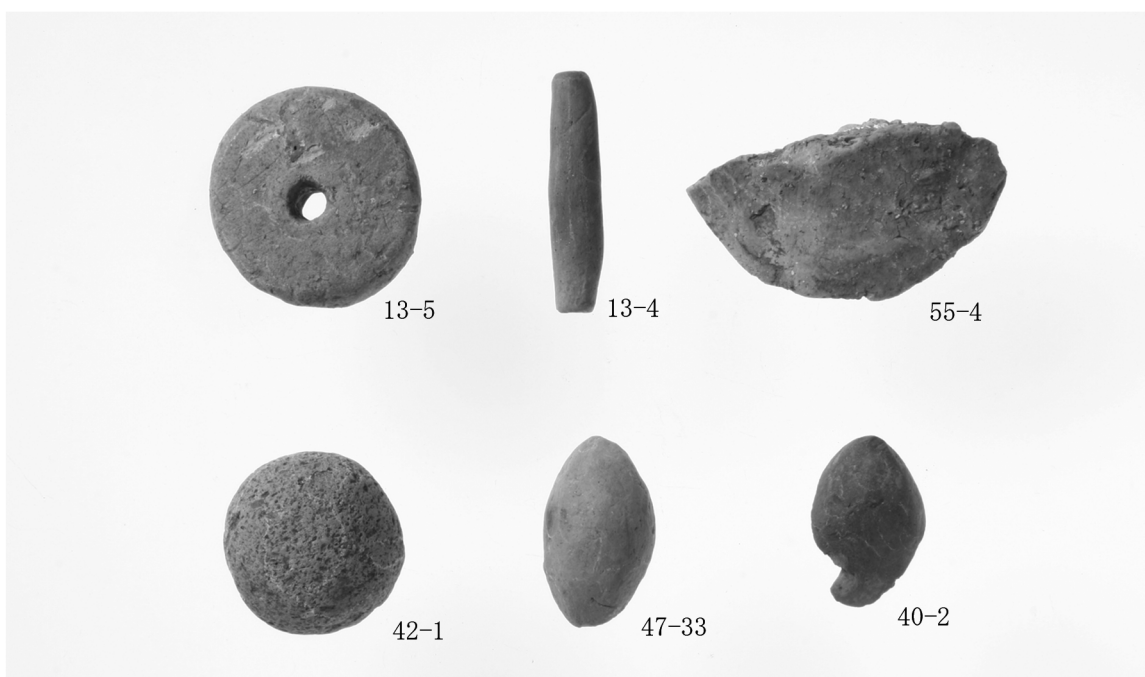
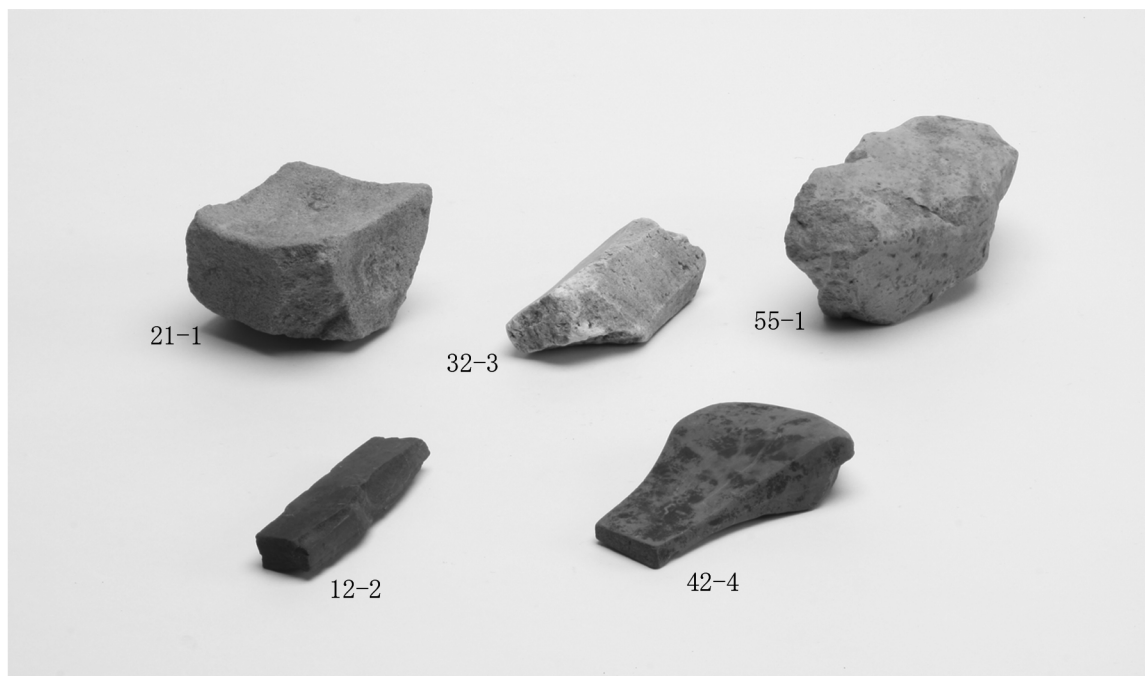
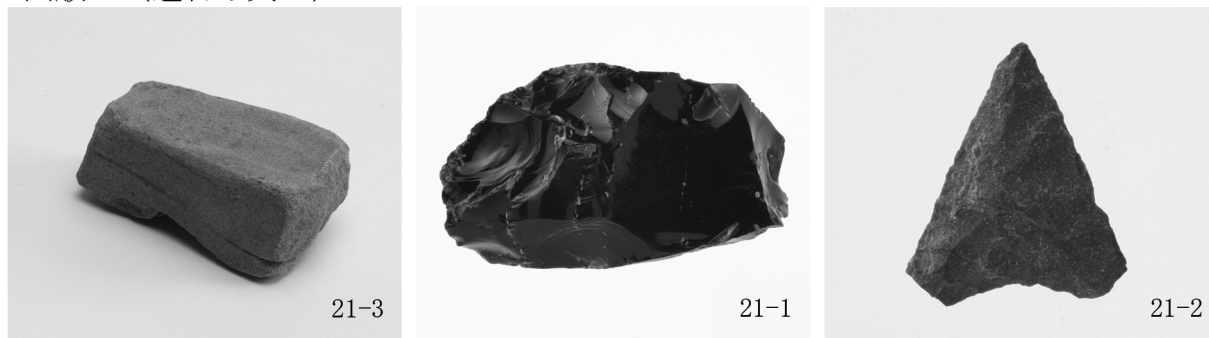
图版 6 (遺物写真 3)



図版7 (遺物写真4)



図版8 (遺物写真5)



報 告 書 抄 録

ふりがな	こいたいやしきいせき5							
書名	小板井屋敷遺跡5							
副書名								
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第278集							
編著者名	姫野久恵							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 ☎0942-72-2111							
発行年月日	2014年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
こいたいやしき 小板井屋敷 いせき 遺跡5	ふくおかけん 福岡県 おごおりし 小郡市 こいたいやしき 小板井	40216		33° 23' 28"	130° 33' 52"	2013.1.12 ～ 2013.5.18	880㎡	集合住宅
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
小板井屋敷 遺跡5	集落	弥生時代 平安・鎌倉・室町時代 江戸時代		甕棺 1基 祭祀土坑 5基 住居跡 29軒 土坑 41基 井戸 5基 周溝状遺構 1条 溝 28条		弥生土器 須恵器 土師器 陶磁器 石器 土製品 等		
要約	小板井屋敷遺跡の第5次調査は、調査区をA区、B区、C区、D区に分けて調査を行った。A区は、主に弥生中期中葉と後期末の住居跡を検出した。B区は、小児甕棺を1基、祭祀土坑を5基検出した。いずれも弥生中期前葉～中葉と比定される。C区もA区同様、同時期の住居跡を数多く検出した。D区は、弥生時代の土坑や、中世の井戸、土坑を多く検出している。							

こいたいやしきいせき
小板井屋敷遺跡 5
小郡市文化財調査報告書
第278集
2014年3月31日

発行 小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡 255-1

印刷 片山印刷有限公司
福岡県小郡市祇園 1 丁目 8-15